

令和6年8月20日

広島市教育委員会様

広島市教科用図書採択審議会

会長 小田啓史

令和7年度使用広島市立義務教育諸学校用教科用図書採択について（答申）

広島市教育委員会から、令和6年5月22日付け、広市教学指二第37号で諮問されたこのことについて、審議した結果を別紙のとおり答申します。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔国語〕 種目〔国語〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [国 語] 種目 [国 語]

1 本市の実態や生徒の状況

○ 本市は、古典や伝統文化に触れることができる史跡や、博物館、美術館、音楽堂など、文化芸術に触れることができる施設が充実した地域である。また、各区に図書館があることや、多くの小・中学校で朝読書の取組を実施するとともに、2中学校区に1人学校司書を配置し、学校図書館の環境整備を実施していることなど、読書活動の推進に力を入れている地域でもある。

○ 令和5年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の学力の実態として、どの領域も概ね基礎的・基本的な学力は定着しているが、文脈に即して漢字を正しく書くことや読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることに課題が見られる。また、多様な表現に言い換えるなど、語彙の定着にも依然として課題が見られる。

さらに国立教育政策研究所の令和5年度の調査報告書では、全国的な課題として情報と情報の関係について理解することや、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりすることが挙げられているが、これは本市においても同様であり、広島市中学校教育研究会国語・書写部会が中心となって課題の改善に取り組んでいる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫 ② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫 ③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫 ⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 2か所の「読書案内 世界を広げる本」の中に、「私のおすすめ」として、著名人が文章と写真で本を1冊紹介している。
- 各学年の目次において、文字の色を変えて示すことで「情報」に関わる教材であることがわかりやすくなるよう工夫されている。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 第1学年では、古典の導入として、「移り行く浦島太郎の物語」という昔話を基に古文を学ぶ意味について考えさせる文章を掲載している。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で平安時代の言葉と江戸時代の言葉、方言に残る言葉の変化を例に挙げて説明している。

視点③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。
- 読む教材に「広がる言葉」を示し、語彙を広げるための問題を取り上げている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫

- 各教材の「てびき」の中に「言葉の力」を示し、学習のポイントが確認できるよう工夫している。また、巻末には「言葉の力」を一覧にまとめ、二次元コードを付してインターネット上で確認できるよう工夫している。
- 資料編の「思考のヒント」において、情報を集めたり、整理したり、分析したりするときに活用する図や表を示している。

「発想を広げる」、「分類する」、「比較する」、「順序づける」、「関連づける」、「分類する・比較する」

視点⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫

- 「てびき」に示した学習の流れの中で考えを持つ場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。

【発問の具体例】

第1学年：「少年の日の思い出」 「現在の『客』は、この話で語られている 『思い出』をどのように受け止めているだろうか。考えたことを話し合おう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元の扉に、第1学年は詩、第2学年は短歌、第3学年は俳句を掲載するとともに、それぞれの背景には、作品と関係した写真を掲載し、興味・関心を持たせている。
- 教材名のそばに、学習を見通すための問いが書かれており、教材の後の「てびき」に、目標、目標に沿った複数の学習活動、教材を読む視点である「言葉の力」、発展的な学習として「広がる言葉」が掲載されている。また、「振り返り」では、教材を通して学んだことを自分の言葉でまとめ、次の学習につなげることができるよう工夫されている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 各単元を「言葉を楽しむ(詩)」、「思いを捉える(物語)」など各学年8つのテーマにまとめている。また、教科書全体のテーマとして「未来への扉」を示し、未来を考えるための9つのテーマについて各学年で重点的に関連する教材を扱っている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連がある教材には、鎖のマークを付し、関連する教科名を示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「古典」、「未来への扉」のイラストデザインを統一し、教材に付している。

1 知識及び技能の習得

視点① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 「私の読書体験」として、作家が書き下ろした読書体験に関わる文章を1冊の本の紹介とともに掲載している。また、その作家が書いた本を3冊紹介している。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 第1学年では、古典の導入として、各月の異名に関する文章を掲載している。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で「今昔物語集」、「吾輩は猫である」、「一瞬の風になれ」で使用される「微妙」を例に挙げて言葉の変化を挙げて説明している。

視点③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。また、本文中で使われた言葉の類義語や対義語を脚注に示している。

【例】第2学年：「走れメロス」 文章中の掲載語句：悪徳 対義語：美德

文章中の掲載語句：嘲笑 類義語：あざけり

- 複数の教材に「語彙を豊かに」を示し、理解できる語句と使える語句を増やすための教材に関連した語彙を取り上げている。また、資料編「語彙の広がり」でテーマに分けて語彙の広がりを示し、語句どうしの関係やつながり方について理解が深められるよう工夫している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫

- 「読むこと」の教材には思考力・判断力・表現力を伸ばすための方法として「読み方を学ぼう」を示している。また、巻末の折込には「読み方を学ぼう」を一覧にまとめている。さらに「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材には「学び方」を身につけることができるよう学習のポイントを示している。
- 巻頭の「思考の方法」において、全学年同じ内容の9種類の「思考の方法」を手助けするチャートとその使い方を示している。
「順序立てる」、「比較する」、「分類する」、「関連づける」、「多角的に見る」、「理由づける」、「具体化する」、「抽象化する」、「仮定する」

視点⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫

- 「学びの道しるべ」に示した学習の流れの中で自分の考えを深める場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。

【発問の具体例】

第1学年：「少年の日の思い出」 「現在の場面は、この作品においてどのような役割を果たしているだろうか。考えたことを話し合おう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元の扉に、単元や季節と関係したイラストを掲載し、興味・関心を持たせている。
- 教材名のそばに目標、教材の後の「学びの道しるべ」に、目標、目標に沿った複数の学習活動、「学びを振り返る」を設け、学習の過程を示している。また、「学びを振り返る」では、「振り返りのキーワード」を示してヒントを与えた上で、自分の言葉で学習を振り返ることができるよう工夫されている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 各単元を「わかりやすく伝える（説明的文章）」「古典に学ぶ（解説・古文・漢文）」など第1、2学年9つ、第3学年は8つのテーマにまとめている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」教材の後の「生かそう」に国語における他の学習や日常生活との関連を示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のイラストデザインを統一し、教材に付している。

1 知識及び技能の習得

視点① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 各学年の目次において、共通の記号を付すことで、「情報」に関わる教材であることがわかりやすくなるよう工夫されている。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 第1学年では、古典の導入として、「昔話と古典一箱に入った桃太郎」という昔話を基に、古典を学ぶ意味について考えさせる文章を掲載している。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で和語・漢語・外来語と関連づけながら、現代では使われない「野分」という言葉を例に挙げて説明している。

視点③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。
- 複数の教材の「みちしるべ」の「言葉・情報」において語彙を豊かにするための問いを立てたり、表現の際の話型を示したりしている。また、「言葉の自習室」で「理解に役立つ言葉」や「表現に役立つ言葉」を紹介している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫

- 「読むこと」の教材には、「学びナビ」を生かして、教材を読んだり活動したりするための「ヒント」を示している。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材には活動のポイントの解説を示している。
- 「言葉の自習室」において、考え方の工夫を自分の表現に生かすことができるよう「学びナビ」の一覧を示している。

視点⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫

- 「みちしるべ」に示した学習の流れの中で自分の考えを伝えあう場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。

【発問の具体例】

第1学年：「少年の日の思い出」 『僕』（＝少年時代の『客』）の視点から語られた回想を『私』や『エーミール』の視点から『客』に語り直したら、『客』はどのようなことに気づくだろう。友達との発言と自分の考えを結びつけながら話し合おう。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元の扉に、学校と関係したイラストを掲載するとともに、「四季のたより」を設け、季節に関連した短歌や俳句を掲載し、興味・関心を持たせている。
- 各教材のはじめに、「学びナビ」を設け、学習の手がかりとなる見方や考え方を示している。教材のそばに目標、教材の後の「みちしるべ」に、目標に沿った複数の学習活動、「振り返り」を設け、学習の過程を示している。また、「振り返り」は目標と対になっており、学習を振り返って次につなげることができるよう工夫されている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 各単元を「学びをひらく」、「論理を知る」など第1、2学年9つ、第3学年は8つのテーマにまとめている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の教材の前の「学びを生かす」に他教科や日常的な表現活動への活用例を示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「学びナビ」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「読書」、「古典」、「情報・メディアと表現」のイラストデザインを統一し、教材に付している。

1 知識及び技能の習得

視点① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 2か所の「読書案内 本の世界を広げよう」の中に、「私の一冊」として、著名人が文章と写真で本を1冊紹介している。
- 各学年の目次において、共通の色をついた記号を付すことで、「情報」に関わる教材であることがわかりやすくなるよう工夫されている。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 第1学年では、「古典の世界」として、中学校3年間の古典教材を年表、イラスト、作品の解説とともに掲載している。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で、意味の変化、よび名の変化、表すものや意味の広がりについて例に挙げて説明し、和語・漢語・外来語との関連を示している。

視点③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。また、本文中で使われた言葉の関連語句を複数脚注に示している。
【例】第2学年：「走れメロス」文章中の掲載語句：夢見心地 関連語句：夢心地、夢うつつ、夢物語
- 複数の教材の「学びのカギ」に、言葉の観点から学びを深め、自分の言葉を増やすための「言の葉ポケット」を示している。また、学びを深める教材として本編の最後に語彙ブックを付録し、教材において語彙ブックとの関連を示すことで語彙の広がりにつなげられるよう工夫している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫

- 多くの教材に「学びのカギ」を示し、学習のポイントや前後の学習とのつながりを確かめられるようにしている。また、資料編には「学びのカギ」を一覧にまとめ、二次元コードを付してインターネット上で確認できるようにし、思考・判断・表現する場面で役立てられるよう工夫している。
- 各学年巻頭の「思考の地図」において、学習内容に合わせた場面や目的に応じたさまざまな思考法（考え方）を示している。
「広げる」、「思い出す・ふり返る」、「比較する・分類する」、「順序だてる・関係づける」、「分析する・吟味する」、「仮説を立てて検証する」

視点⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫

- 「学びへの扉」に示した学習の流れの中で考えを持つ場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。

【発問の具体例】

第1学年：「少年の日の思い出」 「この作品では、エーミールや『母』の気持ちは、ほとんど語られていない。読み深めたことを基に、『僕』以外の人物を語り手として作品の一場面を書き換え、気づいたことを発表し合おう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元の扉に、単元や季節と関係した写真を掲載するとともに、ページの下に、第1学年では、「動きを表す言葉」、第2学年では「色の名前」、第3学年では「時を表す言葉」として、写真と関連する言葉を掲載している。また、「季節のしおり」を設け、季節に関連した詩歌や言葉を掲載し、興味・関心を持たせている。
- 教材名のそばに目標、目標に沿った学習活動、教材後の「学びへの扉」に「見通しをもつ」、「捉える」、「読み深める」、「考えをもつ」、「振り返る」を設け、学習の流れを示し、見通しを持たせている。また、「学びへの扉」の隣のページに「学びのカギ」を設け、学習のポイントを確認したり、前後の学習とのつながりを意識した学習にしたりできるよう工夫されている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 各単元を「言葉に出会うために（詩）」、「学びをひらく（物語）」など各学年8つのテーマにまとめている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の教材の「学習の流れ」の中の「生かす」に日常や将来の活動例を示している。また、巻頭の「学習の見通しをもとう」のページに他教科との関連がある教材やSDGsと関連がある教材を一覧で示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「読書」、「情報」のイラストデザインを統一し、教材に付している。

4 意見

広島市教科書採択審議会では、本市生徒の課題である「文脈に即して漢字を正しく書くこと」「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えること」「多様な表現に言い換えるなど、語彙の定着」また、全国的な課題でもある「情報と情報の関係について理解すること」「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりすること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。また、本文中で使われた言葉の関連語句を複数脚注に示している。

【例】第2学年 「走れメロス」 文章中の掲載語句：夢見心地

関連語句：夢心地、夢うつつ、夢物語

- 複数の教材の「学びのカギ」に言葉の観点から学びを深め、自分の言葉を増やすための「言の葉ポケット」を示している。また、自分の思いや考えを多様な表現に言い換えるための教材として本編の最後に語彙ブックを付録している。さらに、いくつかの教材では語彙ブックとの関連を示しており、学習した内容や語彙について広げたり深めたりすることができるよう工夫している。
- 各学年巻頭の「思考の地図」において、学習内容に合わせた場面や目的に応じたさまざまな思考法(考え方)を示している。
「広げる」、「思い出す・ふり返る」、「比較する・分類する」、「順序だてる・関係づける」、「分析する・吟味する」、「仮説を立てて検証する」

意見2 三省堂の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。また、本文中で使われた言葉の類義語や対義語を脚注に示している。

【例】第2学年 「走れメロス」 文章中の掲載語句：悪徳 対義語：美德

文章中の掲載語句：嘲笑 類義語：あざけり

- 複数の教材に「語彙を豊かに」を示し、理解できる語句と使える語句を増やすための教材に関連した語彙を取り上げている。また、資料編「語彙の広がり」で語句どうしの関係やつながり方について扱っている。
- 巻頭の「思考の方法」において、全学年同じ内容の9種類の「思考の方法」を手助けするチャートとその使い方を示している。
「順序立てる」、「比較する」、「分類する」、「関連づける」、「多角的に見る」、「理由づける」、「具体化する」、「抽象化する」、「仮定する」

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔国語〕 種目〔書写〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [国 語] 種目 [書 写]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、古典や伝統文化に触れることができる史跡や、博物館、美術館、音楽堂など、文化芸術に触れることができる施設が充実した地域である。また、筆の生産量が全国一である安芸郡熊野町と隣接しており、書写や書道を身近に感じることができる地域でもある。
- 本市の生徒の実態として、授業において硬筆や毛筆を用いて、字体や筆順に注意して丁寧に書こうとする意識や態度は見られるが、近年の ICT 技術の革新と普及や、文字表現の多様化といった社会的な状況を背景として、日常生活において文字を書く機会が減り続ける中で、場や目的に応じて表現の効果を考えながら、書写で学習した内容を自らの生活に生かすことができていない生徒が多いことに課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方 ② 伝統と言語文化等に関する内容の記述
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑧ 文字の大きさ・配色

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方

- 姿勢・執筆法・用具の扱い方については、巻頭に「文字を整えて書くための姿勢（毛筆・硬筆）」、「用具の名前・置き方」、「墨のすり方」、「書きやすい鉛筆の持ち方」、「書きやすい筆の持ち方」、「後片付け」を写真とイラストで示している。
- 運筆については、「基本の点画の書き方」に漢字に加えてひらがなの点画の運筆についても示している。また、運筆について擬態語とイラストで説明し、穂先の向きである45度を、折り紙約半分と表現している。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の記述

- 古典作品は、「いろは歌」、「竹取物語」、「枕草子」、「おくのほそ道」を扱っている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 3年生のはじめの教材として「身の回りの文字の目的と工夫」を設け、日常生活の中で使用される手書き文字について示し、その効果について考えられるよう工夫している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 巻頭「書写の学習の進め方」で「目標」、「見つけよう」、「確かめよう」、「生かそう」、「振り返ろう」といった学習の流れを示すとともに、書写で学んだことをふだんの生活や他教科の学習に生かすことを促している。また、二次元コードでデジタルコンテンツの一覧を示し、効果的な活用を促している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 毛筆教材を、3年間で24教材提示している。各学年の内訳は、第1学年10教材、第2学年9教材、第3学年5教材である。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 日常生活との関連の示し方については、「生活に広げよう」や「書写活用ブック」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 毛筆教材では、見開きの右ページに「書写のかぎ」を設け、点画等で気を付けることを示している。

視点⑧ 文字の大きさ・配色

- 単元のまとまりでテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの背景の色を統一している。（単元の1、2：橙、単元の3：緑、単元の4、5：青）

1 知識及び技能の習得**視点① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方**

- 姿勢・執筆法・用具の扱い方については、巻頭に「姿勢と構え方（毛筆）・硬筆」、「大筆の持ち方」、「小筆の持ち方・構え方」、「筆の運び方」、「用具の扱い方（用具の準備、墨のすり方、用具の片づけ方）」、「鉛筆の持ち方」を写真とイラストで示している。また、鉛筆の悪い持ち方のよくある例を写真付きで示している。
- 運筆については、「点画の種類と筆使い」に示している。運筆を筆圧と穂先の観点に分けて文章で説明している。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の記述

- 古典作品は、「いろは歌」、「枕草子」、「平家物語」、「おくのほそ道」を扱っている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成**視点③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫**

- 3年生のはじめの教材として「身のまわりの文字」を設け、手書き文字や活字による伝え方の変遷を示すとともに文字に関わる仕事について紹介し、これからの文字文化について考えられるよう工夫している。

3 主体的に学習に取り組む工夫**視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫**

- 巻頭「この教科書の使い方」で「教材の構成」と「学習の流れ」を示し、学習の見通しをもたせるよう工夫している。
- 生徒になじみのある J-pop の歌詞を使用して手書きの文字を示し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。

4 内容の構成・配列・分量**視点⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量**

- 毛筆教材を、3年間で25教材提示している。各学年の内訳は、第1学年8教材、第2学年8教材、第3学年3教材、補充教材6教材である。

5 内容の表現・表記**視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方**

- 日常生活との関連の示し方については、「日常の書式」として、見開き3ページにわたって扱っている。
- 文字を扱う仕事の紹介があり、キャリア学習とも関連のある資料となっている。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 毛筆教材では、見開きの右ページに「書き方を学ぼう」を設け、点画等で気を付けることを示している。

視点⑧ 文字の大きさ・配色

- 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの背景の色を統一している。（第1学年：橙、第2学年：赤、第3学年：緑）

1 知識及び技能の習得**視点① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方**

- 姿勢・執筆法・用具の扱いについては、「基本の姿勢」、「用具の置き方」、「毛筆の持ち方」、「硬筆の持ち方」、「墨のすり方」、「後片づけ」を写真で示している。また、硬筆についてはボールペンの持ち方の説明もある。また、左手で書く人用の用具の配置について、写真も載せて説明している。
- 運筆については、「基本点画の種類」に示している。筆圧の強さを数字で表し、その時の筆のしなり具合を写真で示している。また、基本点画の名称を考えさせる問題が掲載されている。さらに、行書の運筆については、手を用いた説明がなされている。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の記述

- 古典作品は、「竹取物語」、「いろは歌」、「論語」、「枕草子」、「平家物語」、「おくのほそ道」、俳句を扱っている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成**視点③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫**

- 3年生のまとめにつながる教材として「多様な表現による文字」を設け、身のまわりで見かける文字について示し、文字の表現効果について考えられるよう工夫している。

3 主体的に学習に取り組む工夫**視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫**

- 巻頭「学習の進め方」で「目標」、「考えよう」、「生かそう」、「振り返ろう」といった学習の流れを示して見通しをもたせるとともに、学習や日常生活に書写を生かすよう意識させる工夫がある。また、話し合い活動とおとした学び方を示し、対話的な学習となるよう工夫している。
- 「あの人が残した文字」では日本の歴史上の人物の直筆の書を紹介し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。

4 内容の構成・配列・分量**視点⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量**

- 毛筆教材を、3年間で32教材提示している。各学年の内訳は、第1学年11教材、第2学年8教材、第3学年3教材、補充教材10教材である。

5 内容の表現・表記**視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方**

- 日常生活との関連の示し方については、「学習活動や日常生活に生かして書こう」という単元を設け、学習したことを生かして文字を書くことができるようにしている。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 毛筆教材では、見開きの左ページに「考えよう」を設け、点画等で気を付けることを示している。

視点⑧ 文字の大きさ・配色

- 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの番号の背景の色を統一している。
(第1学年：緑、第2学年：赤、第3学年：青)

1 知識及び技能の習得

視点① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方

- 姿勢・執筆法・用具の扱いについては、「書くときの姿勢」、「筆記具の持ち方」、「用具の準備」、「用具の片付け」を写真で示している。また、姿勢については「タブレットを使う姿勢」についても示されている。さらに、左手で書く人用の用具の配置について、写真と二次元コードを載せて説明している。
- 運筆については、筆圧の強さを数字で表し、擬態語を用いて説明している。また、基本点画の名称を考えさせる問題が掲載されている。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の記述

- 古典作品は、書写ブックに「竹取物語」、和歌、「平家物語」、「おくのほそ道」を扱っている。この「平家物語」は、扇の形の書式に記入するようになっている。また、楷書の「いろは歌」、行書の「いろは歌」、俳句、「枕草子」を扱っている。この「枕草子」は、冒頭の段をすべてなぞり書きできるようになっている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 3年生のはじめの教材として漫画「手書きのよさってなんだろう」を通して手書き文字のよさについて話合わせた上で、「全国文字マップ」を設け、身の回りにある様々な文字について示し、文字から受ける印象や気づいたことについて話し合えるよう工夫している。
- 切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりすることができるようにしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 34ページ「学習の進め方」で「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」の学習の展開を示し、見通しをもたせるよう工夫している。また、「教科書通りに書くことができればいいのか?」という問いから学びの深め方について示している。さらに「タブレットを活用しよう」で具体的なタブレットの活用例を示し、効果的な活用を促している。
- 「自分らしい文字」では、生徒もよく知る著名人の手書き文字を紹介し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 毛筆教材を、3年間で28教材提示している。各学年の内訳は、第1学年12教材、第2学年9教材、第3学年7教材である。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 日常生活との関連の示し方については、「日常に役立つ書式」という単元を設け、学習したことを生かして文字を書くことができるようにしている。
- 「全国フォント見つけ隊」では、フォントデザイナーの紹介があり、キャリア学習とも関連のある資料となっている。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 毛筆教材では、見開きの右ページに「学びのカギ」を設け、点画等で気を付けることを示している。

視点⑧ 文字の大きさ・配色

- 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの文字の色を統一している。
(第1学年：青、第2学年：緑、第3学年：水色)

4 意見

広島市教科書採択審議会では、本市生徒の課題である「場や目的に応じて表現の効果を考えながら、書写で学習した内容を自らの生活に生かすことができていない」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 3年生のはじめの教材として漫画「手書きのよさってなんだろう」を通して手書き文字のよさについて話合わせた上で、「全国文字マップ」を設け、身の回りにある様々な文字について示し、文字から受ける印象や気づいたことについて話し合えるよう工夫している。
- ・ 切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりする機会を多く設けることで、書写で学んだことを日常生活に生かすことができるよう工夫している。
- ・ 34ページ「学習の進め方」で「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」の学習の展開を示し、見通しをもたせるよう工夫している。また、「教科書通りに書くことができればいいのか?」という問いから学びの深め方について示している。さらに「タブレットを活用しよう」で具体的なタブレットの活用例を示し、効果的な活用を促している。
- ・ 「自分らしい文字」では、生徒もよく知る著名人の手書き文字を紹介し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。

意見2 三省堂の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 3年生のはじめの教材として「身のまわりの文字」を設け、手書き文字や活字による伝え方の変遷を示すとともに文字に関わる仕事について紹介し、「文字」の魅力について考えられるよう工夫している。
- ・ 巻頭「この教科書の使い方」で「教材の構成」と「学習の流れ」を示し、学習の見通しをもたせるよう工夫している。
- ・ 生徒になじみのあるJ-popの歌詞を手書きの文字として掲載し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕 種目〔地理的分野〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [社会] 種目 [地理的分野]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域が分散している。また、近年では交通網の整備などによる都市再開発や豪雨などの自然災害等により、他地域との結びつきなどの地域的特色や地域の環境条件が変容していることから、こうした地域の実態や課題を調べる学習に適した地域である。
- 本市の生徒は、地理的事象や調査などに関する作業的な学習活動に対して意欲的に取り組み、タブレット端末を活用したり、地図等諸資料から情報を収集したりする技能は身に付いているが、身近ではない国や地域については興味・関心を持ちにくいことや、学習課題の解決への見通しを立て、収集した情報を課題解決に向けてまとめながら、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫 ② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真ウェブコンテンツ等の示し方 ⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫

- 中項目「世界の諸地域」の「まとめの活動」で、地域の範囲に色が塗られている白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、ワードチェックを設け、用語について自分の言葉で説明する活動を設定している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 随所に「えんぴつマーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。
- 特設ページにおいて、身に付けた技能を活用する活動を設定している。
 - ・ 特設ページ「資料から発見！」
 - ・ 活動例「資料を比較して考える」、「資料を結び付けて考える」

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「導入の活動」、「まとめの活動」、「えんぴつマーク」、「スキル・アップ」、特設ページ「資料から発見！」、コーナー「みんなでチャレンジ」
- 「まとめの活動」での「対話的な学び」の示し方

【例】中国・四国地方

- ・ 「グループ活動」と「個人活動」を行うコーナー「みんなでチャレンジ」を掲載。
- ・ 活動例「となりの人と、左ページの『探究のステップ』で取り上げた資料や文章を発表しましょう。」「(2)で完成した図を基に、交通・通信網の発達によって、人々の生活や産業がどのような影響を受けるものなのか、その共通点について話し合しましょう。」「時間があれば、交通・通信の発達が地域にもたらす課題について、話し合ってみましょう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載

【例】「観光客も多く訪れるシンガポール」、「高さ 200m 以上の高層ビルの数」等

- ・ 「アジア州で学んでいくこと」
- ・ アジア州の主な国の国旗とあいさつ
- ・ 「聞かせて！中学生」

- 小項目のタイトルの上にサブタイトルを示している。

【例】アフリカ州

「砂漠や熱帯雨林だけじゃない」、「豊かな資源や農産物、でも…」、「変わりつつあるアフリカ」

視点⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚するための工夫

- 世界の主な宗教の分布について、「世界の主な宗教の分布」を掲載している。また、コーナー「スキル・アップ」を設け、分布図の読み取り方を学習する活動を設定している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 総ページ数 294 ページ

「世界と日本の地域構成」 26 ページ 「世界のさまざまな地域」 110 ページ

「日本のさまざまな地域」 136 ページ

用語解説 4 ページ さくいん 4 ページ 巻末資料 3 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラムや特設ページの示し方 「もっと知りたい」、「未来にアクセス」、「資料から発見！」

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 中項目「地域の在り方」に、広島に関連する資料として、「平和記念公園」、「広島駅にある観光案内所」「上空から見た広島市」、「広島市と京都市を訪れる外国人観光客数」、「広島市のホームページに掲載されている将来計画の例」、「平和記念公園から宮島に行く観光船の乗り場を観察した様子」、「広島と京都市の観光団体が連携したことを伝える新聞記事」を掲載している。
- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各学習課題やタイトルの隣等に二次元コードを掲載している。また、二次元コード付近には「D マーク」「D-MOVE マーク」等を付している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 「教科関連マーク」を付し、他教科との関連を示している。また、「分野関連マーク」を付し、社会科の他分野との関連を示している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫

- 中項目「世界の諸地域」の「学習のまとめと表現」で、関連するSDGsを冒頭で示している。また、白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、ワードチェックを設け、言葉を説明する活動を設定している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 随所に「THINK!」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 第〇編
 - ・ 第〇章

- 「学習のまとめと表現」での「対話的な学び」の示し方

【例】中国・四国地方

- ・ 「学習したことを活用してまとめよう」
- ・ 活動例「あなたは、地域おこし協力隊の隊員として、過疎が進んだ中国・四国地方の山間部のまちに移り住みました。地域おこしのためにどのようなことに取り組みたいと思いますか。実際の事例を調べ、自分なりにまとめて、グループで話し合おう。」
- ・ 「取り組みたいこと」と「調べた実際の事例」を記入する表を掲載。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載

【例】「スラムと高層ビル」、「女性のための学校」等

- ・ 学習テーマ
- ・ 節で学習内容についての説明
- ・ 関連するSDGsマーク
- ・ アジア州で学習する地球的課題

- 小項目のタイトルの下にサブタイトルを示している。

【例】 アフリカ州

- 「赤道の南北に広がる大陸」
- 「アフリカの農業からみえる課題」
- 「アフリカの資源からみえる課題」

視点⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚するための工夫

- 世界の主な宗教の分布について、「世界の主な宗教の分布」を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 総ページ数 310ページ
 - 「世界と日本の地域構成」 20ページ
 - 「世界のさまざまな地域」 103ページ
 - 「日本のさまざまな地域」 157ページ
 - 用語解説 6ページ
 - さくいん 4ページ
 - 巻末資料 3ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラムや特設ページの示し方
 - ・ 「地理の窓」
 - ・ 「持続可能な社会に向けて」

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、コラム「地理の技」等に二次元コードを掲載している。また、二次元コードには「リンク」、「動画」、「クイズ」マークを付している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 「関連コーナーマーク」を付し、社会科の他分野との関連を示している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫

- 中項目「世界の諸地域」の「学習を振り返ろう」で、「節の振り返り1」では、地域の範囲が示された白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、節の重要語句を設け、語句の簡単な説明をする活動を設定している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 随所に「資料活用マーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「学習を振り返ろう」
 - ・ 各節の問い
- 「学習を振り返ろう」での「対話的な学び」の示し方

【例】中国・四国地方

 - ・ 「節の問いについて、考えを深めよう」に「対話マーク」を付している。
 - ・ 活動例「グループになって選んだ写真や資料とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの『写真で眺める中国・四国地方』をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載

【例】「キムチを漬け込む行事」、「空中散歩を楽しめる植物園」等

 - ・ アジア州の学習を見通そう
 - ・ アジア州の主な国の国旗
 - ・ 「地図帳活用マーク」

視点⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚するための工夫

- 世界の主な宗教の分布について、「世界の主な宗教の分布」を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 総ページ数 310ページ
 - 「世界と日本の地域構成」 24ページ
 - 「世界のさまざまな地域」 102ページ
 - 「日本のさまざまな地域」 166ページ
 - さくいん 4ページ
 - 巻末資料 3ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラムや特設ページの示し方
 - ・ 「アクティブ地理」
 - ・ 「未来に向けて」
 - ・ 「地理プラス+」

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各章・各節のタイトルの隣等に二次元コードを掲載している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 「小学校・歴史・公民との関連」マークを付し、社会科の他分野との関連を示している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫

- 中項目「世界の諸地域」の「まとめと振り返り」で、白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、STEP 2 では、自分の言葉でキーワードを説明する活動を設定している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 随所に「資料活用マーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 第〇編
 - ・ 第〇章
 - ・ 本文ページの学習課題
- 「まとめと振り返り」での「対話的な学び」の示し方

【例】中国・四国地方

 - ・ 「議論してみよう」に「学び合いマーク」を付している。
 - ・ 活動例 「中国・四国地方にみられる地域の課題『過疎化・高齢化した地域の活性化』の取り組みの例として、四国では四国新幹線構想が話題となっています。持続可能な社会の観点から、四国新幹線の整備に賛成か反対か、グループで議論しましょう。」
 - ・ 「事実・根拠」、「理由付け・考察」、「主張・結論」の記入例が示された表を掲載

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載

【例】「多くの帰省客でにぎわうシャンハイの駅」、「ヒマラヤ山脈」等

 - ・ アジア州の基礎データ

視点⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 世界の主な宗教の分布について、「世界の宗教の分布」を掲載している。また、コーナー「スキルUP」を設け、主題図の読み取り方を学習する活動を設定している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 総ページ数 318ページ
 - 「世界と日本の地域構成」 24ページ
 - 「世界のさまざまな地域」 104ページ
 - 「日本のさまざまな地域」 163ページ
 - 統計資料 4ページ
 - 用語解説 4ページ
 - さくいん 4ページ
 - 巻末資料 4ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラム・特設ページの示し方
 - ・ 「持続可能な地域を目指して」
 - ・ 「地理+α」

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- ウェブコンテンツにアクセスできるように、各学習課題の隣や「学習のはじめに」等に二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には「タブレットマーク」を付している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 「歴史・公民」の学習との関連マークを付し、学習のつながりを示している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「身近ではない国や地域については興味・関心を持ちにくいことや、学習課題の解決への見通しを立て、収集した情報を課題解決に向けてまとめながら、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題があること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「えんぴつマーク」を付し、小学校の社会科やコーナー「スキル・アップ」などで身に付けた技能を活用するために「中国・四国地方は、地方内や、ほかの地方とどのような交通網で結び付いているか、説明しましょう」等の活動を随所に設定している。また、特設ページ「資料から発見！」を設けており、資料を読み取る力や、考える力、説明する力を身につけるための活動を設定している。
- ・ 課題を解決する際の視点や方法である地理的な「見方・考え方」を、「導入の活動」や「まとめの活動」、「えんぴつマーク」、「スキル・アップ」、特設ページ「資料から発見!」、コーナー「みんなでチャレンジ」の随所に示しており、思考・判断したことを説明する際に役立てることができるようにしている。
- ・ 「まとめの活動」において、「グループ活動」と「個人活動」を行うコーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「取り上げた資料や文章を発表し合いましょう。」等の対話的な学びを促すことができるようにしている。
- ・ アジア州を学習する冒頭ページでは、アジア州に関わる様々な写真や資料を掲載するとともに、「聞かせて!中学生」やアジア州の主な国の国旗とあいさつを掲載し、興味・関心を持たせることができるようにしている。また、「アジア州で学んでいくこと」で、アジア州を通して学習する課題を1つずつ示すことで、学習の見通しを持たせることができるようにしている。さらに、本文ページのタイトルの上にサブタイトルを示しており、本文ページで学習する内容を短い言葉で表すことで、これから学習する内容について興味・関心を持たせることができるようにしている。

意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 「THINK!」を付しており、「2015~2020年で、人口が増加傾向にある地域はどこか書き出そう」等の活動を随所に設定しており、身に付けた技能を活用することができるようにしている。
- ・ 課題を解決する際の視点や方法である地理的な「見方・考え方」を、「第〇編」と「第〇章」のページに示しており、思考・判断したことを説明したりする際に役立てることができるようにしている。
- ・ 「学習のまとめと表現」において、「学習したことを活用してまとめよう」で「自分なりにまとめて、グループで話し合おう。」等の対話的な学びを促すことができるようにしている。
- ・ アジア州を学習する冒頭ページでは、アジア州に関わる様々な写真や資料を掲載するとともに、学習テーマや関連するSDGsマーク等を掲載し、興味・関心を持たせることができるようにしている。また、本文ページのタイトルの下にサブタイトルを示しており、本文ページで学習する内容を短い言葉で表すことで、これから学習する内容について興味・関心を持たせることができるようにしている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕 種目〔歴史的分野〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [社会] 種目 [歴史的分野]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、人類が決して忘れてはならない原爆ドームなど、平和の原点となる場所や、古代から現代にいたる歴史的建造物や遺構などが多数存在し、身近な地域の調査や体験活動を通して、歴史を直接感じることができる地域であり、G7 サミットが開催されるなど世界中の多くの人を訪れる地域である。
- 本市の生徒は、耳慣れた歴史上の人物や出来事に対する興味・関心は高く、タブレット端末を活用したり、文献や地図、統計などの歴史学習に関わる諸資料から情報を収集したりする力は身に付いているが、歴史の大きな流れや特色を理解する力、学習課題の解決の見通しを立て、収集した情報を課題解決に向けてまとめながら、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫 ② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについて自覚するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「時期や年代の表し方」、「歴史の流れのとらえ方」、「時代の特色のとらえ方」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、右側へ背景とは異なる色の縦向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 「身近な地域の歴史について調べるには、どのような方法があるでしょうか」
 - ・ 学習内容の取り扱いについて「テーマと問いの設定」、「調査」、「考察」、「まとめと発表」、「ふり返り」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「導入の活動」、「まとめの活動」、「えんぴつマーク」、特設ページ「資料から発見!」、「地域の歴史を調べよう」、「もっと知りたい」、コーナー「みんなでチャレンジ」
- 各中項目の最後に、「まとめの活動」を設け、くらげチャートやフィッシュボーン図等の思考ツールを用いながら、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 「個人活動」と「グループ活動」を行う、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「グループ内でそれぞれの考えを発表し、話し合ひましょう」、「グループで意見を交換しましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】「導入の活動」、「探究課題」、小項目の課題、写真・イラスト等、年表、コーナー「みんなでチャレンジ」
- サブタイトルの掲載例 ・ 位置 小項目のタイトルの上
- 学習の見通しを立てられるよう、「第○章で探究する問いは？」で、中項目の課題を「探究課題」として示すとともに、「探究のステップ」で各節で追究する課題を示している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「もっと知りたい」において、「現代に生きる神話」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方「国宝」「世界遺産」「重要文化財」「世界の記憶」「無形文化遺産」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 14 ページ 古代 42 ページ 中世 34 ページ 近世 46 ページ
近代 100 ページ 現代 30 ページ その他 30 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「もっと知りたい」を設け、「本文や資料からまとめましょう」、「背景を考えましょう」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明 (一部)「アメリカは、原子爆弾 (原爆) を 8 月 6 日に広島、9 日に長崎に投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料「廃きよになった広島」、「長崎に落とされた原子爆弾」
- 特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、「被爆建物の保存と継承」をテーマに、「広島市」を取り上げ、被爆建物を継承することの意義を考える活動を設定している。また、「旧広島陸軍被服支廠の見学」、「原爆ドームの調査」、「広島市長 浜井信三 (当時) の言葉」、「広島赤十字原爆病院 (モニュメント前) での聞き取り」、「クラスでの発表」の写真を掲載している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「民主化と日本国憲法」において、「初の男女普通選挙」、「男女共学」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「年代の表し方と時代の分け方」、「歴史ゲームで遊ぼう」、「歴史にアプローチ～歴史の見方・考え方と学習の進め方」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、学習課題の上に横向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題「身近な地域の歴史を調べる学習の方法について学びましょう」
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
「情報を集めて問いを立てよう」、「実際の調査を進めよう」、「整理して考察しよう」、「調査の結果をまとめよう」、「発表して振り返ろう」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「学習のまとめと表現」
- 各中項目の最後に、「学習のまとめと表現」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方
【掲載例】「学習のはじめに」、「第〇章の問い」、小項目の課題、写真・イラスト等、年表、コーナー「LOOK！」
- サブタイトルの掲載例 ・ 位置 小項目のタイトルの下
- 学習の見通しを立てられるよう、中項目の課題を「第〇章の問い」として示すとともに、「学習の見通し」で各節の課題を示している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「歴史を探ろう」において、「神話にみる古代の人々の信仰」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方
「国宝」
「世界遺産」
「重要文化財」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 17 ページ 古代 40 ページ 中世 36 ページ
近世 48 ページ 近代 108 ページ 現代 36 ページ
その他 27 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「歴史を探ろう」を設け、「〇〇について探ってみましょう」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明（一部）「アメリカは、8月6日には広島に、8月9日には長崎に、新たに開発した原子爆弾（原爆）を投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料
「被爆後の広島の街」
「長崎に投下された原子爆弾」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「平和国家を目指して」において、「日本国憲法の前文」、「中学校の学級活動」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「年代の表し方と時代区分」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、右側に背景が白色の縦向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 記載なし
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
「テーマを決める」、「資料を調べたり実際に見たりする」、「まとめる」、「発表する」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「タイムトラベル」、「学習を振り返ろう」、特設ページ「アクティブ歴史」、コーナー「やってみよう」
- 各中項目の最後に、「学習を振り返ろう」を設け、ウェブページやXチャート等の思考ツールを用いながら、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 「対話マーク」を付して、「周りの人と話し合ってみましょう」、「グループの人に説明しよう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方
【掲載例】「タイムトラベル」、「第〇章の問い」、写真・イラスト等、年表
- 学習の見通しを立てられるよう、「〇章の問い」で中項目の課題を示すとともに、「この章で学習する節の問い」で各節の課題を示している。また、「学習する時代の見通しをもとう」を設け、社会の変化を予想する活動を設定している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラム「未来に向けて」において、「自然災害と神話」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方
「国宝」
「世界遺産」
「重要文化財」
「世界の記憶」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 12 ページ 古代 48 ページ 中世 42 ページ
近世 56 ページ 近代 114 ページ 現代 32 ページ
その他 26 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「歴史を探ろう」を設け、「どのような都市だったのか」、「生活環境はどうなっていたのか」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明 (一部)「アメリカは、戦争の早期終結とともにソ連に対して優位に立つため、原子爆弾(原爆)の投下を決定しました。」
 - ・ 本文ページの資料
「原子爆弾によって廃墟となった広島」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「新時代に求められた憲法」において、「男女共学の学級会の時間」、「初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得**視点①** 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「私たちの歴史」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 記載なし
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
「テーマを設定しよう」、「さあ調査だ!」、「レポートをつくって発表しよう!」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成**視点③** 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- 各中項目の最後に、「まとめ」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫**視点④** 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方

【掲載例】

- ・ 「第〇章」
- ・ 単元課題
- ・ 写真・イラスト等
- ・ 年表

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラムにおいて、「日本の神話」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方
「国宝」
「世界遺産」

4 内容の構成・配列・分量**視点⑥** 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 9 ページ 古代 48 ページ 中世 40 ページ
近世 52 ページ 近代 100 ページ 現代 30 ページ
その他 15 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「地域からのアプローチ」を設け、「地図・地名から考えよう」、「名産品から考えよう」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記**視点⑧** 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明 (一部)「アメリカは、戦争を早期に終結させるため、開発したばかりの原子爆弾 (原爆) を日本に投下することを決定した。」
 - ・ 本文ページの資料
「広島と長崎への原子爆弾の投下」(広島の爆心地・原爆投下後の長崎)
- 特設ページ「地域からのアプローチ」を設け、「広島」をテーマに取り上げ、原爆の被害や復興等について考える活動を設定している。さらに、「爆心地を中心とした被爆地図」、「相生橋」、「被爆直後の広島県物産陳列館」、「被爆前の広島県物産陳列館」、「オバマ大統領広島訪問の記事」、「厳島神社」、「『平家納経』」、「原水爆禁止世界大会」、「広島平和記念資料館」、「大和ミュージアム」、「海上自衛隊第1術科学校 (旧海軍兵学校)」、「この史代『この世界の片隅に』」、「広島東洋カープ」の写真を掲載している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「日本国憲法と民主化」において、「日本国憲法の原本」、「戦後の女性と社会」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「年代・時代区分のあらわし方」、「『歴史的な見方・考え方』とは？」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、右側に背景が白色の縦向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題「私たちが住む地域には、どのような歴史があるのでしょうか」
 - ・ 学習内容の取り扱いについて「テーマの決定」、「課題の調査」、「考察とまとめ」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「学習のはじめに」、本文ページの課題
- 各中項目の最後に、「まとめとふり返り」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 「学び合いマーク」を付して、「読み取って話し合ひましょう」、「意見を出し合ひましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方

【掲載例】

「学習のはじめに」、「第〇編の問い」、小項目の課題、写真・イラスト等、年表、「学び合いマーク」
- サブタイトルの掲載例
 - ・ 位置 小項目のタイトルの横
- 学習の見通しを立てられるよう、「第〇編の問い」で中項目の課題を示すとともに、各節の問いを示している。また、「学習の見通しをもとう」を設け、疑問や答えの予想をする活動を設定している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「歴史を掘り下げる」において、「日本の神話」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方

「国宝」、「世界遺産」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数

歴史との対話 12 ページ 古代 46 ページ 中世 40 ページ

近世 50 ページ 近代 104 ページ 現代 34 ページ その他 33 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「歴史を掘り下げる」を設け、「その謎を解いていきましょう」、「世の中をさぐっていきましょう」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明（一部）「アメリカは、戦後の世界でソ連に対して優位に立つことも意図して、1945（昭和20）年8月6日、世界で最初の原子爆弾を広島に投下し、9日には長崎にも投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料「原子爆弾投下2か月後の広島」、「長崎に落とされた原爆のきのこ雲」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「平和で民主的な国家をめざして」において、「共学となった高校に通う生徒たち」、「投票する女性有権者と初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「歴史と物語と史料」、「年代の表し方と時代区分」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、下側へ交互に色を付けた横向けの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題「堺市の歴史を調べよう」
 - ・ 学習内容の取り扱いについて「古墳を調査」、「港を調査」、「千利休の屋敷跡を調査」、「堺事件を調査」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- 各中項目の最後に、「復習問題のページ」、「時代の特徴を考えるページ」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 「意見交換会」において、「共通点をみんなで出し合ってみよう」、「それぞれの考え方を調べ、それについて意見を出し合ってみよう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方

【掲載例】

- ・ 「第〇章」
- ・ 写真・イラスト等

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラム「もっと知りたい」において、「国譲り神話と古代人」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方
 - 「国宝」
 - 「世界遺産」
 - 「重要文化財」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
 - 歴史との対話 12 ページ 古代 50 ページ 中世 36 ページ
 - 近世 44 ページ 近代 106 ページ 現代 33 ページ
 - その他 27 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラム「人物クローズアップ」、「外の目から見た日本」を設け、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明（一部）「8月6日、アメリカは世界最初の原子爆弾（原爆）を広島に投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料「広島の原爆投下」
- 「調べ学習のページ」を設け、左ページでは「原子爆弾の被害を考えよう」をテーマに、「広島市」を取り上げている。また、被爆後の原爆ドームの写真を掲載している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「占領下の日本」において、「日本最初の婦人代議士」、「占領軍の進めた戦後の主な改革」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「時代や年代区分の表し方」、「歴史的な見方・考え方を働かせる」、「歴史の流れと先人の活躍」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、下側に背景が白色の横向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 記載なし
 - ・ 学習内容の取り扱いについて「テーマを決める」、「調査をする」、「分類・分析・整理する」、「発表する(まとめ)」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 活動コーナー
 - ・ 特設ページ「歴史ズームイン」
- 各中項目の最後に、「学習のまとめ」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 「TRY!」において、「グループで調べてまとめましょう」、「グループで話し合いましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方

【掲載例】

「鳥の目で見える○○」、「虫の目で見える○○」、単元課題、小項目の課題、写真・イラスト等、年表

- 学習の見通しを立てられるよう、中項目の課題を示すとともに、各節の課題を示している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「歴史ズームイン」において、「神話に見る日本誕生の物語」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方
「国宝」
「世界遺産」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 14 ページ 古代 50 ページ 中世 36 ページ
近世 44 ページ 近代 106 ページ 現代 33 ページ
その他 27 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「歴史ズームイン」を設け、「当時の時代背景をふまえて考えましょう」、「似ている点をそれぞれ挙げましょう」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明(一部)「アメリカは、戦後の世界でソ連に対して優位に立つ目的などから、1945(昭和20)年8月6日午前8時15分、原爆を広島に投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料
「原爆投下直後の原爆ドーム」、「現在の原爆ドームと平和記念公園」、「長崎に投下された原子爆弾」、「原爆のきのこ雲」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「民主化と日本国憲法制定」において、「戦後初の衆議院議員選挙で投票する女性有権者」、「男女共学」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「歴史と出会うー6月23日、沖縄で」、「歴史を楽しく学ぼう」、「年代のあらし方、時代区切り方」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 記載なし
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
「地域の博物館で調べる」、「地域の歴史を歩く」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- 各中項目の最後に、「第○章をふりかえる」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 特設ページ「歴史を体験する」において、「疑問に思ったりしたことをメモし、発表しましょう」、「グループやクラスで発表しましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方
【掲載例】
 - ・ 「第○部」、「第○章」
 - ・ 単元課題
 - ・ 写真・イラスト等
 - ・ 年表
- サブタイトルの掲載例
 - ・ 位置 小項目のタイトルの下
- 学習の見通しを立てられるよう、時代の特色を踏まえて理解するための「○部」の課題を「○の学習課題」として掲載している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラムにおいて、『常陸国風土記』に書かれた富士山と筑波山」を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 8 ページ 古代 50 ページ 中世 36 ページ
近世 44 ページ 近代 106 ページ 現代 33 ページ
その他 27 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「歴史を体験する」を設け、「火おこしに挑戦する」、「対話・討論にチャレンジ」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明 (一部)「1945年8月6日午前8時15分、米軍の爆撃機が、原子爆弾『リトルボーイ』を広島市に投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料
「原爆で壊滅した広島市の爆心地付近 (1945年10月) / 右は原爆ドーム (産業奨励館)」
「原爆のきのこ雲 (長崎 米軍爆撃機から撮影)」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「焼け跡からの出発」、「もう戦争はしない」において、「1945年の銀座 (東京都)」、「憲法発布記念式典」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「国史を学ぶにあたって」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 「グループで歴史を調べよう」
 - ・ 学習内容の取り扱いについて「テーマを決める」、「疑問を持つ」、「調べる」、「まとめる」、「発表する」、「振り返る」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- 各中項目の最後に、「まとめ学習」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 特設ページ「歴史について議論しよう」において、「意見ごとにグループで分かれましょう」、「調べたことをもとに議論しましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方
【掲載例】
 - ・ 「第〇章」
 - ・ イラスト
 - ・ 課題
 - ・ 年表
- 学習の見通しを立てられるよう、中項目冒頭において、時代の特色を踏まえて理解するための章の学習課題を「政治」、「外交」、「文化」、「産業」のテーマとして掲載している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ『「古事記」の国譲り神話』等を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 13 ページ 古代 50 ページ 中世 36 ページ
近世 44 ページ 近代 106 ページ 現代 33 ページ
その他 27 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラムを随所に設け、「京都御所にはなぜお堀がないのか」、「トルコと日本の意外なつながり」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明（一部）「八月六日、『リトルボーイ』（おちびちゃん）と命名された一個のウラン型原子爆弾を搭載した爆撃機 B29『エノラ・ゲイ』がマリアナ諸島のテニアン島を離陸、日本時間の午前八時十五分、第一投下目標の広島市の市街地中心部に投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料 掲載なし
- 特設ページを設け、「オバマ大統領の広島訪問」をテーマに、「広島市」を取り上げ、「原爆死没者慰霊碑前に献花したオバマ大統領と固く握手を交わす安倍首相」、「オバマ大統領から抱擁を受ける森重昭さん」、「オバマ大統領が祈って持参した折り鶴（広島平和記念資料館展示）」の写真に掲載している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「大日本帝国憲法の改正」において、「日本国憲法原本 上諭」、「日本国憲法原本 上諭（御名御璽と大臣の副署）」等の資料を掲載している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「歴史の大きな流れや特色を理解する力、学習課題の解決の見通しを立て、収集した情報を課題解決に向けてまとめながら、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題があること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 課題を解決する際の視点や方法である歴史的な「見方・考え方」を、「導入の活動」や「まとめの活動」、「えんぴつマーク」、特設ページ「資料から発見!」、「地域の歴史を調べよう」、「もっと知りたい」、コーナー「みんなでチャレンジ」の随所に示しており、思考・判断したことを説明したりする際に役立てることができるようにしている。また、4ページにわたる「まとめの活動」の「確かめよう」、「ふり返ろう」において、見開きを使って各節の問いを解決する活動を設けている。さらに、「深めよう」において、時代の変化に着目しながら、時代の特色を考察するために、くらげチャートやフィッシュボーン図等の様々な思考ツールを用いた活動ができるようにしているとともに、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、対話を促す活動を設定している。
- ・ 中項目の冒頭では、「導入の活動」を設けており、資料等から時代の特色を捉えるための探究課題と関連した活動を設定している。また、中項目の課題を「探究課題」として示すとともに、「探究のステップ」で各節の追究する課題を示すとともに、節を通して学習する課題を一つずつ示しており、学習の見通しを立てることができるようにしている。また、本文ページのタイトルの上にサブタイトルを示しており、生徒にとって耳慣れていない歴史的な事象を学習する際の興味・関心を持たせるための工夫が見られる。
- ・ 原爆投下について、本文で説明をしており、関連する資料として「廃きよになった広島」、「長崎に落とされた原子爆弾」を掲載している。また、特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、「被爆建物の保存と継承」をテーマに、広島市を取り上げ、被爆建物を継承することの意義を考える活動を設定しており、広島市を題材にして学習することができるようにしている。

意見2 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 課題を解決する際の視点や方法である歴史的な「見方・考え方」を、「タイムトラベル」や「学習を振り返ろう」のページ、特設ページ「アクティブ歴史」、コーナー「やってみよう」の随所に示しており、思考・判断したことを説明したりする際に役立てることができるようにしている。また、3ページにわたる「学習を振り返ろう」において、「節の振り返り」で節の問いを解決する活動を設けている。さらに、「時代の特色を考察しよう」で、時代の特色を考察するために、ウェビングやXチャート等の様々な思考ツールを用いた活動ができるようにしているとともに、「対話マーク」を付し、対話を促す活動を設定している。
- ・ 中項目の冒頭では「章の問い」として、中項目の課題を示すとともに、「この章で学習する節の問い」で各節の課題を示しており、節を通して学習する課題を一つずつ示していることで、学習の見通しを立てることができるようにしている。また、「学習する時代の見通しをもとう」を設け、社会の変化を予想する活動を行うことができるようにしている。
- ・ 原爆投下について、本文で説明をしており、関連する資料として「原子爆弾によって廃墟となった広島」を掲載しており、広島市を題材にして学習することができるようにしている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕 種目〔公民的分野〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [社会] 種目 [公民的分野]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、国や地方自治体の政治機関、全国規模の企業の支社・支店が集中し、中国地方の中心都市として、政治、経済の中心的機能を果たしている。また、第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られ、現代生活全般を概観できる地域である。
- 本市の生徒は、SNS や報道等から得られる現代の社会的事象に対する興味・関心は高く、タブレット端末を活用したり、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を収集したりする力は身に付いているが、政府の役割や民主政治の仕組みなど、生徒があまり身近に感じにくいような社会的事象については興味・関心を持ちにくいことや、学習課題の解決の見通しを立て、収集した情報を基に、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力や、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫 ② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫

- 各小項目において、「チェック&トライ」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「まとめの活動」において、「確かめよう」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 3節「現代社会の見方や考え方」において本文で説明。
 - ・ 部活動の今後の体育館の使い方を例に、1年前、現在のそれぞれの状況における解決策を考える課題を掲載。「まとめの活動」で「T市の新しい公園の使用ルールを考えよう」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「導入の活動」、「まとめの活動」、「えんぴつマーク」、「スキル・アップ」、特設ページ「もっと知りたい」、コーナー「みんなでチャレンジ」
- 「まとめの活動」を設け、「探究のステップ」で節の問いを解決する活動を設定している。また、「深めよう」では、ウェビングやYチャート等の思考ツールを用いながら、「導入の活動」で示された課題と関連した発展的な課題について考察する活動を設定している。
- 「まとめの活動」において、「個人活動」と「グループ活動」を行う、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「グループで自分の考えを発表し合ひましょう」、「意見を交換しましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭に、現代社会の見方・考え方を付した「導入の活動」を設け、資料やイラスト等と単元課題を示している。また、学習の見通しを立てられるよう、「探究のステップ」で小項目の課題を示している。
- 小項目のタイトルの上にサブタイトルを示している。

【例】 第3章 1節「現代の民主政治」 「私たちの、私たちによる、私たちのための」、「選挙権は、当たり前ものじゃない」、「それぞれの公約を見てみよう」

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通じた個人と社会との関係についての示し方 ・ 小項目「契約と消費生活」 ・ 「日常生活のさまざまな場面と契約」、「食品表示」等を掲載。
 - ・ 特設ページ「18歳のステップ」で「契約と支払い方法のあれこれ」をテーマに「スマートフォンを利用した支払い」等を掲載。
- 特設ページ「18歳のステップ」を設け、選挙権年齢や成人年齢の引き下げを受けて、18歳に向けて準備するために、「選挙の流れ」、「18歳でできること、20歳でできること」等を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各大項目のページ数 「私たちと現代社会」31ページ、「私たちと経済」52ページ、「私たちと政治」92ページ、「私たちと国際社会の諸課題」43ページ、その他 28ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「もっと知りたい!」において、本文ページの学習内容を深めるために、発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する資料 「堆積した泥の除去作業をする中学生」、「広島市の平和記念式典」、「広島の平和記念公園を訪問した、アメリカのオバマ大統領」、「再生する空き家」、「福山市神辺町の取り組み」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方【例 情報化】 小項目「情報化」 「すし店のメニューを注文するためのタブレット端末」、「メタバース上の月面に展開する仮想店舗」等を掲載。特設ページ「もっと知りたい」で「AIの機能があるスピーカー」「無人宅配機」等を掲載。

1 知識及び技能の習得

視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫

- 各小項目において、「確認・表現」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「学習のまとめと表現」において、「HOP!」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 3節「私たちがつくるこれからの社会」において本文で説明。
 - ・ 合唱コンクールの練習場所のトラブル、ごみ収集所の新たな設置を例に、解決策を考える課題を掲載。
 - ・ 「TRY!」で「避難所における課題を考えてみよう」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「第〇章の学習のはじめに」、「学習のまとめと表現」、本文ページの「表現」、コーナー「THINK!」
- 「学習のまとめと表現」を設け、フィッシュボーン図やクラゲチャート等の思考ツールを用いながら、章の問いについて、考察する活動を掲載している。また、「JUMP!」では、発展的な課題についてSDGsと関連させて考察する活動を設定している。
- 各中項目最後の「学習のまとめと表現」において、「STEP! 2」で、「友だちと意見を交換してみよう」、「グループで提言としてまとめよう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭に、「学習のはじめに」を設け、単元課題を資料やイラスト等と示している。また、学習の見通しを立てられるよう、「学習の見通し」で小項目の課題を示している。
- 小項目のタイトルの上にサブタイトルを示している。

【例】 第3章 1節「民主政治と日本の政治」

「民主主義と多数決」、「選挙の意義と選挙制度」、「これからの選挙を考える」

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「消費者を守るもの、支えるもの」
 - ・ 「暮らしの中のさまざまな『契約』の場面」、「クーリング・オフの記入例」等を掲載。
 - ・ 特設ページ「持続可能な社会に向けて」で「なぜ、契約について学ぶ必要があるのだろうか」をテーマに「クレジットカードによる決済」等を掲載。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各大項目のページ数
 - 「私たちと現代社会」 26ページ
 - 「私たちと経済」 64ページ
 - 「私たちと政治」 90ページ
 - 「私たちと国際社会の諸課題」 44ページ、その他 46ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「持続可能な社会に向けて」において、資料を読み深め、表現活動に取り組むための発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する資料
 - 「鞆の浦の港」、「予定されていた埋め立てと架橋計画」、「スピーチを行うオバマ大統領」、「原子爆弾が投下された後の広島市内」、「被爆して黒く焦げた三輪車」、「ヒロシマの願いを未来に」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方【例 情報化】
 - ・ 小項目「急速に進展する情報社会」
 - ・ 「自動搬送ロボット」、「最寄りの開設避難所への避難ルートの検索などができるシステム」等を掲載。

1 知識及び技能の習得

視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫

- 各小項目において、「確認しよう・説明しよう」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「学習を振り返ろう」において、「図で知識を整理する」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 第3節「現代社会をとらえる枠組み」において本文で説明。
 - ・ 防災備蓄倉庫の新設を例に、状況を確認し、設置場所と運用規則の解決策を考える課題を掲載。
 - ・ 特設ページ「アクティブ公民」で「マンションの騒音問題を解決しよう」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「学習を振り返ろう」
 - ・ コラム「アクティブ公民」
 - ・ 資料
- 「学習を振り返ろう」を設け、章の冒頭で示したイラストを基に、Yチャートやクラゲチャート等の思考ツールや図を活用し、知識を整理したり、問いを考える活動を設定している。また、「探究学習への準備」として、章の学習を振り返りながら、探究テーマを考える活動を設定している。
- 各中項目最後の「学習を振り返ろう」において、「対話マーク」を付し、「作成した表を周りの人と持ち寄って、意見交換をしてみよう」、「整理したことを周りの人と持ち寄って、探究したいテーマを表にまとめよう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭に、「学習の前に」を設け、単元課題を資料やイラスト等と示している。

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「契約と消費者問題」
 - ・ 「異なるアイスクリーム類の表示とその規準」、「商品につけられる主な認証ラベル」等を掲載。
 - ・ 特設ページ「18歳への準備」で「契約について考えよう」をテーマに「宅配ピザの契約における契約自由の原則」等を掲載。
- 特設ページ「18歳への準備」を設け、メディアリテラシー、契約、ライフプランや金利など、18歳に向けて習得しておきたい実践的な知識を学ぶために、「メディアリテラシーを身につけよう」、「契約について考えよう」等を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各大項目のページ数
「私たちと現代社会」28ページ、「私たちと経済」66ページ、「私たちと政治」86ページ、「私たちと国際社会の諸課題」43ページ、その他 39ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「アクティブ公民」において、学習した内容を深めるために、発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する資料 「原爆投下直後の原爆ドーム」、「広島平和記念式典」、「核兵器廃絶とウクライナの平和を願いともされたキャンドル」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方

【例 情報化】

- ・ 小項目「情報化が進む現代」
- ・ 「メタバース上の店舗で商品売り買いできるバーチャルマーケット」、「インターネット利用に伴う被害の経験」等を掲載。

1 知識及び技能の習得

視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫

- 各小項目において、「確認・表現」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「まとめとふり返し」において、「語句の意味を確認しよう」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 第2章「現代社会の見方・考え方」において本文で説明。
 - ・ 合唱コンクールのスケジュールを例に、解決策を考える課題を掲載。
 - ・ 特設ページ「チャレンジ公民」で「公園づくりについて話し合おう」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「第〇編第〇章」
 - ・ 本文ページの課題
- 「まとめとふり返し」を設け、マトリックスやクラゲチャート等の思考ツールを用いながら、STEP 1、STEP2、STEP 3 と段階的に章の問いについて考察する活動を設定している。
- 各中項目最後の「まとめとふり返し」において、「学び合いマーク」を付し、「自分の考えがまとまったら、グループになって意見交換をしてみましょう」の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭に、「学習のはじめに」を設け、資料やイラスト等と単元課題を示している。また、学習の見通しを立てられるよう、小項目の課題を示している。

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「消費者の権利と自立を支える政府のはたらき」
 - ・ 「あなたも契約をしている」、「消費者ホットラインの広報資料」等を掲載。
 - ・ 特設ページ「明日に向かって」で「契約について考えよう」をテーマに「例外的に取り消しなどが可能な契約」等を掲載。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各大項目のページ数
 - 「私たちと現代社会」 32 ページ
 - 「私たちと経済」 60 ページ
 - 「私たちと政治」 90 ページ
 - 「私たちと国際社会の諸課題」 43 ページ
 - その他 49 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「チャレンジ公民」において、社会の課題について考察・構想し深めるために、発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する資料
 - 「田植え祭り」
 - 「広島平和記念式典」
 - 「被爆直後の原爆ドーム」
 - 「福山市ばらのまち条例」
 - 「平和首長会議」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方
 - 【例 情報化】
 - ・ 小項目「情報化で変わる社会と私たち」
 - ・ 「e スポーツの高校選手権」、「防災情報を伝えるタブレットの貸し出し」等を掲載。

1 知識及び技能の習得

視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫

- 各小項目において、「ここがポイント」を設けている。また、各大項目の「学習のまとめと発展」において、「最重要語句」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 第3節「社会の中の決まり」において本文で説明。
 - ・ 部活動の体育館の使い方を例に、解決策を考える課題を掲載。
 - ・ 特設ページ「アクティブに深めよう」で「魅力あるまちづくりを考えよう」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- 「学習のまとめと発展」を設け、「学習のまとめ」で最重要語句の確認を行い、「学習の発展」で、課題を選択し、内容をまとめる活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭に、タイトルページを設け、イラストとともに単元課題を示している。

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「消費者の保護」「消費生活に関する出来事」「その他の品質保証マークの例」等を掲載。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各大項目のページ数
 - 「私たちと現代社会」42ページ
 - 「私たちと経済」44ページ
 - 「私たちと政治」78ページ
 - 「私たちと国際社会の諸課題」60ページ
 - その他 46ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「もっと知りたい」において、重要な事項をより深く理解するために発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する資料
 - 「広島市の原爆被害」
 - 「2016年アメリカのオバマ大統領、被爆地広島へ（年表）」
 - 「熊野筆」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方
 - 【例 情報化】
 - ・ 小項目「情報社会」
 - ・ 「統合災害情報システム DiMAPS (ディーマップス)」、「クラウドの仕組み」等を掲載。

1 知識及び技能の習得**視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫**

- 各小項目において、「確認・探究」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「学習のまとめ」において、「重要語句の確認」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 第3節「現代社会をとらえる見方や考え方」において本文で説明。
 - ・ 部活動の平日のグラウンド割りを例に、解決策を考え課題を掲載。
 - ・ 「現代社会のこれから」で「マンションの住民のペットの飼育に関する状況や考え」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成**視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫**

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ コラム「学習を深めよう」
 - ・ 資料
 - ・ 写真
- 「〇〇のこれから」を設け、KJ法やランキング等の思考ツールを用いながら、章で学んだことを生かして課題について考察する活動を設定している。また、「学習のまとめ」において、自分の意見を述べる活動を設定している。
- 各中項目最後の「〇〇のこれから」において、「理由も含めてペア（グループ）で発表してみましょう」、「それはなぜなのか、話し合ってみましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫**視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫**

- 中項目の冒頭に、「〇〇の入り口」を設け、写真や資料等と単元課題を示している。また、学習の見通しを立てられるよう、小項目の課題を示している。

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「消費者の権利と保護」
 - ・ 「契約はいつ成立するのか」、「消費生活センターへの相談」等を掲載。

4 内容の構成・配列・分量**視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- 各大項目のページ数
「私たちと現代社会」28ページ
「私たちと経済」54ページ
「私たちと政治」80ページ
「私たちと国際社会の諸課題」36ページ
その他 64ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「〇〇のこれから」において、「〇〇の入り口」で示された課題を受けて、その章で学習した内容を生かして取り組むために、発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記**視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方**

- 広島に関する資料
「高校生の神楽甲子園」、「原爆投下直後の原爆ドーム」、「広島市の平和記念公園で演説するアメリカのオバマ大統領」、「瀬戸内海の景勝地である鞆の浦」、「五穀豊穡や無病息災、先祖の冥福を祈る『椋浦の法楽おどり』」、「戦後の日本と世界の主な出来事（1945年広島・長崎に原爆投下）（2016年現職米大統領が初の広島訪問）」、「瀬戸内海に浮かぶカキイカダ」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方【例 情報化】
 - ・ 小項目「情報から知る現代と未来」
 - ・ 「AIを活用した対話型のロボットコンシェルジュ」、「人工知能（AI）の防災分野への活用」等を掲載。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「政府の役割や民主政治の仕組みなど、生徒があまり身近に感じにくいような社会的事象については興味・関心を持ちにくいことや、学習課題の解決の見通しを立て、収集した情報を基に、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力や、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題があること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「まとめの活動」や特設ページ等の随所に、どのような「見方・考え方」を働かせるかを示しており、思考・判断したことを説明する学習を行う際に役立てることができるようにしている。また、「まとめの活動」において、「探究のステップ」で節の問いを解決する活動を設定し、「深めよう」では、ウェビングやYチャート等の活動内容に応じた複数の思考ツールを用いながら、「導入の活動」で示された課題と関連した発展的な課題について考察する活動を設定しており、単元で学んだことを活用できるようにしている。
- ・ 各中項目最後の「まとめの活動」において、語句などの確認を行い、「探究のステップ」として、「節の問いを解決しよう」を設け、段階的に振り返りながら単元の課題を解決することができるようにしているとともに、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、対話を促す活動を設定している。また、「まとめの活動」以外のページにおいても、随所にコーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「グループで話し合った内容について発表しましょう」、「もっと良い方法はないか、グループで話し合いましょう」等の活動を行えるようにしている。
- ・ 中項目の冒頭では、現代社会の見方・考え方を付した「導入の活動」を設けており、探究課題と関連した活動を設定しているとともに、その「探究課題」を冒頭に示し、節を通して学習する課題を一つずつつすことで、学習の見通しを立てることができるようにしている。また、本文ページのタイトルの上にサブタイトルを示しており、生徒にとって身近に感じにくいような社会的事象を学習する際の興味・関心を持たせるための工夫が見られる。

意見2 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 「学習を振り返ろう」や特設ページ等の随所に、どのような「見方・考え方」を働かせるかを示しており、思考・判断したことを説明する学習を行う際に役立てることができるようにしている。また、「学習を振り返ろう」を設け、章の冒頭で示したイラストを基に、Yチャートやクラゲチャート等の思考ツールや図を活用し、知識を整理したり、問いを考えたりする活動を設定している。また、「探究学習への準備」として、章の学習を振り返りながら、探究テーマを考える活動を設定しており、発展的な課題に取り組むことができるようにしている。
- ・ 各中項目最後の「学習を振り返ろう」において、語句などの確認を行い、「章の振り返り」として、段階的に振り返りながら単元の課題を解決することができるようにしているとともに、「対話マーク」を付し、対話を促す活動を設定している。また、「章の振り返り」以外のページにおいても、随所に「対話マーク」を付し、「周りの人と意見交換をしてみよう。特に重視した点は何だろうか」、「考えを出し合ってみよう」等の対話を促す活動を行えるようにしている。
- ・ 中項目の冒頭では「学習の前に」を設け、資料やイラスト等を用いた「章の問い」に関連する活動を設定している。また、「章の問い」を冒頭に示すことで、学習の見通しを立てることができるようにしている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕種目〔地図〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [社会] 種目 [地図]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、山や川、豊かな自然環境に恵まれるとともに、古代遺跡等の歴史的資源も豊富であり、第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られる地域である。また、太田川のデルタ地形に位置し、自然災害等の発生しやすい地域でもあるため、地理的分野・歴史的分野における地域調査や体験活動を行うのにも適している。
- 本市の生徒は、地図に対する興味・関心が高く、読図や作図などの技能は身に付いているが、種類や縮尺の違いによる多様な利用の仕方や、主題図、その他統計や写真など、たくさんの地理情報を活用し、例えば、気候図を併用して降水量の分布と土地利用の関係を明らかにするなどの事象間の関係を読み取る力や、地図から地域的特色を捉え、地域の課題を見いだし考察する力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 日本や世界の地域的特色を理解するための工夫 ② 地図の活用方法やその手順の示し方
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 問題解決的な学習をするための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑦ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 日本や世界の地域的特色を理解するための工夫

- 段彩図を用いて、陸地の高さと海の深さを表している。また、世界では、鳥観図を用いて、アジア州、ヨーロッパ州、北アメリカ州の地形などを立体的に表している。
- 「日本周辺」では、見開き2ページにわたり、日本の排他的経済水域を示すとともに、日本の東西南北端の各島、竹島及び尖閣諸島の写真・説明を掲載している。

視点② 地図の活用方法やその手順の示し方

- 「この地図帳の地図記号」「この地図帳の活用方法」では、巻頭の3ページにわたり、地図記号や地図、資料の見方についてミツバチのキャラクターの吹き出しを使って説明している。
- 世界と日本それぞれの「さくいん」を設け、さくいんの引き方について説明するコーナーを設けている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 問題解決的な学習をするための工夫

- 主題ごとの特設ページを設け、主題図やグラフ等の資料を見開きでまとめて掲載している。
《資料の例》主題「世界と日本の資源・エネルギー」
 - ・ 主題図
「世界のエネルギー資源の分布と貿易」、「世界の鉱産資源の分布と貿易」、「一人あたりのエネルギー消費量」、「一人あたりの発電量」、「日本の主な発電所」、「生成可能エネルギーを利用した発電所」
 - ・ グラフ
「鉱産資源の産出国」、「日本の鉱産資源の輸入先」、「世界のエネルギー源の変化」、「世界の発電量の変化」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 「世界の生活・文化」として見開き2ページ、「世界と日本の文化」として見開き2ページの特設ページを設けている。
《内容》
【世界の生活・文化】
「世界の住居の材料」、「世界の食文化」、「世界の宗教」
【世界と日本の文化】
「世界の言語」、「さまざまな言語の『私は学生です』」、「世界の祭り」、「日本の文化」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 世界の各地域について地図や資料を掲載しているページ数
アジア州 16ページ ヨーロッパ州 12ページ アフリカ州 4ページ
北アメリカ州 4ページ 南アメリカ州 3ページ オセアニア州 6ページ
- 日本の各地域について地図や資料を掲載しているページ数
九州地方 8ページ 中国・四国地方 8ページ 近畿地方 12ページ
中部地方 8ページ 関東地方 14ページ 東北地方 5ページ 北海道地方 9ページ
- 巻末で、5ページにわたり「世界の統計」、「日本の統計」を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 巻頭の地図帳の使い方を説明するページや見開きページごとに二次元コードを付し、コードを読み取って「Bee's eye」の解答例や関連資料等のデジタルコンテンツを活用できるようにしている。

視点⑦ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 歴史・公民の学習に役立つ資料にそれぞれ「歴」・「公」のマーク、SDGs と関連が深い資料に、SDGs マークを付している。
- 「日本の自然環境（自然災害）」では、見開き2ページにわたり、身の回りで起こりうるさまざまな自然災害を取り上げ、ハザードマップや自然災害への備えなどの資料を掲載している。また、「世界の火山・地震」、「東日本大震災の地震と津波」の2カ所の資料を参照できるようにページ番号と資料番号を示し、ジャンプマークを付している。

1 知識及び技能の習得

視点① 日本や世界の地域的特色を理解するための工夫

- 段彩図を用いて、陸地の高さや海の深さを表し、日本の各地域の地図には、山の稜線を加えて立体感を表現している。また、世界では、鳥観図を用いて、アジア州、アフリカ州、ヨーロッパ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の地形などを立体的に表している。
- 「日本の領土とそのまわりの国々」では、巻末の見開き2ページにわたり、日本の排他的経済水域を示すとともに、日本の東西南北端の各島の写真・地図、「領土・領海・領空の範囲（模式図）」、「おもな国の排他的経済水域の面積」を掲載している。

視点② 地図の活用方法やその手順の示し方

- 「この地図帳の凡例」「地図帳の使い方(1)(2)」では、巻頭の5ページにわたり、地図記号や地図、資料の見方について生徒のキャラクターの吹き出しを使って説明している。
- 世界と日本それぞれの「さくいん」を設け、さくいんの引き方について説明するコーナーを設けている。また、さくいん中の世界遺産、歴史地名・事項、油田などにマークを付して示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 問題解決的な学習をするための工夫

- 主題ごとの特設ページを設け、主題図やグラフ等の資料を見開きでまとめて掲載し、ページ全体に関わる問いを「主題学習」の欄を設けて示している。
 《資料の例》主題「世界と日本の鉱産資源」
 - ・ 主題図
 「エネルギー資源の分布と移動」、「鉱産資源の分布と移動」、「日本の主な発電所」
 - ・ グラフ「エネルギー供給（消費）量」、「日本の輸入資源（エネルギー資源、鉱産資源）」、「おもな国の発電量の内訳」、「日本の発電の移り変わり」
 - ・ 写真・画像「宇宙から見た夜の日本列島付近」、「日本の主な発電所（火力発電所、原子力発電所、水力発電所、洋上風力発電所、地熱発電所）」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 「世界の生活・文化(1)(2)」として見開き4ページ、「日本の歴史・生活・文化」として見開き2ページの特設ページを設けている。
 《内容》
 【世界の生活・文化(1)(2)】「特色ある住居と衣装」、「特色ある料理と食事」、「主食となる作物」「さまざまな言語」、「さまざまな宗教」
 【日本の歴史・生活・文化】「日本の世界遺産と史跡」、「時代とともに正確になる日本地図」、「伝統的な町並みの保存」、「地域による方言の違い」、「日本の伝統的な料理」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 世界の各地域について地図や資料を掲載しているページ数
 アジア州 22ページ アフリカ州 4ページ ヨーロッパ州 12ページ
 北アメリカ州 8ページ 南アメリカ州 5ページ オセアニア州 6ページ
- 日本の各地域について地図や資料を掲載しているページ数
 九州地方 8ページ 中国・四国地方 10ページ 近畿地方 14ページ
 中部地方 12ページ 関東地方 12ページ 東北地方 5ページ 北海道地方 9ページ
- 巻末で、9ページにわたり「自然の統計」、「世界の統計(1)(2)」、「日本の統計(1)(2)」を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 裏表紙や各地域の冒頭ページ等に二次元コードを付し、コードを読み取って「地図で発見！」の解答例や関連資料等のデジタルコンテンツを活用できるようにしている。

視点⑦ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 歴史・公民の学習に役立つ資料にそれぞれ「歴」・「公」のマーク、SDGs と関連が深い資料にSDGs マークを付している。
- 「防災」、「環境」、「日本との結びつき」のコーナーを設け、それぞれに関連がある資料を掲載している。
- 「日本の自然災害・防災(1)(2)」では、見開き4ページにわたり、身の回りで起こりうるさまざまな自然災害を取り上げ、ハザードマップや自然災害に対する備えなどの資料を掲載している。また、「世界の変動帯と地震」、「広島市付近にある水害の碑の分布」など15カ所の資料を参照できるようにページ番号と資料番号を示し、リンクマークを付している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「種類や縮尺の違いによる多様な利用の仕方や、主題図、その他統計や写真など、たくさんの地理情報を活用し、例えば、気候図を併用して降水量の分布と土地利用の関係を明らかにするなどの事象間の関係を読み取る力や、地図から地域的特色を捉え、地域の課題を見だし考察したりする力に課題があること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 段彩図を用いて、陸地の高さや海の深さを表しているとともに、世界では、鳥瞰図を用いて立体的に表している。また、日本の各地域の地図では、山の稜線を加えて立体感を表現しており、地図を活用しながら学習する際に、対象となっている地域の地形を立体的に捉えることができるようにしている。
- ・ 主題ごとの特設ページを設け、主題図やグラフ等の資料を見開きページでまとめて掲載していることで、複数の資料を関連付けることができるようにしている。また、ページ全体に関わる問いを「主題学習」の欄を設けて示しており、問題解決的な学習を促すようにしている。
- ・ 巻末では、自然の統計に加え、世界の統計、日本の統計を9ページにわたり掲載しており、地図帳を活用して学習する際に、多くの情報を取り出すことができるようにしている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 段彩図を用いて、陸地の高さや海の深さを表しているとともに、世界では、鳥瞰図を用いて立体的に表している。
- ・ 主題ごとの特設ページを設け、主題図やグラフ等の資料を見開きページでまとめて掲載していることで、複数の資料を関連付けることができるようにしている。
- ・ 巻末では、自然の統計に加え、世界の統計、日本の統計を5ページにわたり掲載しており、地図帳を活用して学習する際に、多くの情報を取り出すことができるようにしている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔数学〕 種目〔数学〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [数 学] 種目 [数 学]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、自然環境に恵まれるとともに、第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られ、現代生活全般を概観できるため、数学の学習において、数学的な見方・考え方を働かせる機会を意図的に設定するための題材が身近に多くある地域である。
- 令和5年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の実態としては、数学を活用して日常生活や社会の事象を論理的に考察すること、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。さらに、正答率30%未満の生徒の割合が高く、基礎・基本の定着のための手立てが必要である。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	② 問題解決的な学習を実施するための工夫 ③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「補充の問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの問いの番号を示している。また、少し難しい問題にマークを付している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「ちょっと確認」
 - ・ 巻末の「学びのベース」
 - ・ 目次の「前の学習」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「基本問題」
 - ・ 章末の「章の問題A」
 - ・ 基本的な計算の学習の後の「クイックチェック」のコーナー
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「まちがい例」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。さらに、「大切にしたい見方・考え方」のコーナーを設けている。
- 巻末で数学的な見方・考え方についての特設ページ「数学の目でふり返ろう」を設けている。また、学習内容を数学的な見方・考え方と関連付けて示している。
- 巻頭の「大切にしたい数学の学び方」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「話し合ってみよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年7章「データの比較」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
- 巻末の「レポートにまとめよう」で、学年に応じたレポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。また、次の学習につながる疑問を示し、マークを付している。
- 学習の区切りに「学びをふり返ろう」や各章末に「ふり返りレポート」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、学習の区切りの「学びをふり返ろう」には、数学的な見方・考え方を示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、0章から7章までの8つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する題材を扱い、写真を掲載している。
 - ・ 世羅郡のチューリップ畑
- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトやフォント、色遣いに配慮している。

1 知識及び技能の習得**視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫**

- 巻末の「補充問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの例や問いの番号を示している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「思い出そう」
 - ・ 巻末の「小学校算数のふり返し」、「〇年の復習」
 - ・ 目次の「これまでに学んだこと」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「たしかめよう」
 - ・ 章末の「〇章をふり返ろう」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「正しいかな？」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成**視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫**

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。
- 巻頭の「数学の世界へようこそ」で数学的な見方・考え方についての特設ページを設けている。
- 巻頭の「数学の世界へようこそ」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「伝えよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年6章「データの比較と箱ひげ図」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
 - ・ ドットプロット
- 題材に関連する章末の「レポートを書こう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫**視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫**

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。
- 学習の区切りや各章末に「学びのふり返し」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量**視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記**視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方**

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトやフォント、色遣いに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「〇年の復習」で、基本的な内容の補充問題を掲載している。また、「基礎・基本となる問題」にマークを付している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「ふりかえり」
 - ・ 巻末の「小学校の計算」、「～年の計算」
 - ・ 目次の「～で学んだこと」
 - ・ 領域の前の「ふりかえり」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「確かめよう」
 - ・ 章末の「〇章のまとめの問題」
 - ・ 基本的な計算の学習の後の「計算力を高めよう」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「正しいかな？」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。
- 巻末で数学的な見方・考え方についての特設ページ『「見方・考え方」をまとめよう』を設けている。また、学習内容と数学的な見方・考え方を関連付け、問題解決の流れの図を添えて示している。
- 巻頭の「この教科書を使った数学の学び方」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「説明する力をつけよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年7章「データの分布」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
 - ・ ドットプロット
 - ・ 度数折れ線
 - ・ 折れ線グラフ
 - ・ 円グラフ
- 巻末の「表現する力を身につけよう」で、学年に応じたレポートの書き方のポイントを示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。また、次の学習につながる疑問を示し、マークを付している。
- 学習の区切りに「どんなことがわかったかな」や各章末に「〇章『～』を学んで」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、「どんなことがわかったかな」の横に「次の課題へ」の欄を設け、次の学習につながる疑問と関連箇所のページ数を示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、職業名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する題材を扱い、写真を掲載している。
 - ・ マイスカイホール85
 - ・ 広島市の海拔表示
 - ・ 宮島水族館
 - ・ 因島大橋
 - ・ 巖島神社
 - ・ 北広島町役場
- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、フォントやレイアウト、色遣いに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「補充問題/実力アップ問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの問いの番号を示している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「もどって確認」
 - ・ 巻末の「学びのマップ」
 - ・ 目次の「ふりかえり」
 - ・ 章の前の「～を学習する前に」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「基本の問題」
 - ・ 章末の「章の問題」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「まちがいは」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。
- 巻頭に数学的な見方・考え方についての特設ページ「大切にしたい数学的な見方・考え方」を設けている。
- 巻頭の「みんなで数学をはじめよう！」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「話し合ってみよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年7章「データの分布」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
- 題材に関連する章末の「レポートを書こう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。また、次の学習につながる疑問を示し、マークを付している。
- 章末に「○章 学習のまとめ」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から8章までの8つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトや色遣い、フォントに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「力をつけよう」で、基本的な内容の補充問題を掲載している。また、「基本的な内容の問題」にマークを付している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「ふりかえり」
 - ・ 巻末の「学びをふりかえろう」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 項末の「練習問題」
 - ・ 章末の「章末問題」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「誤答例」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。
- 巻頭に数学的な見方・考え方についての特設ページ「いろいろな場面で役に立つたいせつな考え方を身につけよう」を設けている。
- 巻頭の「問題を発見し解決して、さらに深める力を身につけよう」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「説明しよう」や「話し合ってみよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年7章「箱ひげ図とデータの活用」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
 - ・ ドットプロット
- 巻末の「レポート例」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。
- 章末に「〇章のあしあと」コーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する題材を扱い、写真を掲載している。
 - ・ 瀬戸内しまなみ海道サイクリングロード
- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトやフォント、色遣いに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページを示している。また、「難易度の高い問題」にマークを付している。
- 関連付いたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「ふりかえり」
 - ・ 巻末の「中学〇年のまとめ」
 - ・ 章の前の「ふりかえり」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「確認問題」
 - ・ 各章末の「問題A」
 - ・ 基本的な計算の学習の後の「練習問題」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、登場する生徒の考えとして示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 巻頭の「学習の進め方」で、数学的な見方・考え方の例を示している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す問題を設けている。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年6章「データの活用」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
 - ・ ドットプロット
- 題材に関連する章末の「レポートを書こう」で、学年に応じたレポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。
- 巻末に各学年までのまとめ、「学びの自己評価」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材を扱っている。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、フォントやレイアウト、色遣いに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「補充問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの例や問いの番号を示している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「確かめ」
 - ・ 巻末の「算数の確かめ」
 - ・ 目次の「算数で学んだこと」、「これまで学んだこと」
 - ・ 章の前の「次の章を学ぶ前に」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「基本の問題」
 - ・ 章末の「○章の問題」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「まちがいの例」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。
- 巻頭に数学的な見方・考え方についての特設ページ「数学的な見方・考え方を身につけよう！」を設けている。
- 巻頭の「数学の学習を始めよう！」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「話し合おう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年7章「データの比較」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
 - ・ ドットプロット
- 巻末の「数学レポートをかこう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。
- 章末や付録の「ふり返しシート」に振り返りのコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、学習の区切りに「次の課題」として、次の学習につながる問いかけを記載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、フォントやレイアウト、色遣いに配慮している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「数学を活用して日常生活や社会の事象を論理的に考察すること、数学的な表現を用いて説明すること、基礎基本の定着のための手立てが必要であること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究の報告書」を基に審議した。

意見1 学校図書の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 目次の「〜で学んだこと」で各領域と関連のある既習事項を示している。また、側注の「ふりかえり」および巻末の「〜の計算」で関連する既習事項を示している。
さらに、各領域を学習する前に「ふりかえり」のページを設け、その領域の既習事項を振り返っている。それにより、学習につまずいている生徒がこれまでの復習をするときに、どの学年のどの内容の復習を行えばよいか理解し、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながる学習が行いやすくなる。
- ・ 巻末で数学的な見方・考え方についての特設ページ『見方・考え方』をまとめよう』を設けている。また、学習内容と数学的な見方・考え方を関連付け、問題解決の流れの図を添えて示している。それにより、問題解決の過程でどのような数学的な見方・考え方を働かせればよいか分かるようになっていく。
- ・ 学習の区切りに「どんなことがわかったかな」や各章末に「○章『〜』を学んで」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、「どんなことがわかったかな」の横の「次の課題へ」の欄に次の学習につながる疑問に関連箇所のページ数を添えて示している。それにより、生徒が学習内容を関連付け、見通しを持ちながら学習を進めることができる構成になっている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 目次の「前の学習」で各領域と関連のある既習事項を示している。また、側注の「ちょっと確認」および巻末の「学びのベース」で関連する既習事項を示している。
- ・ 巻末で数学的な見方・考え方についての特設ページ「数学の目でふり返ろう」を設けている。また、学習内容を数学的な見方・考え方と関連付けて示している。
- ・ 学習の区切りに「学びをふり返ろう」や各章末に「ふり返りレポート」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、学習の区切りの「学びをふり返ろう」では、学習内容を振り返るとともに、これまでの学習で働かせた数学的な見方・考え方を自分の言葉でまとめることができるようになっていく。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔理科〕 種目〔理科〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [理 科] 種目 [理 科]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市には、こども文化科学館、安佐動物公園、植物公園、江波山気象館等の施設があり、様々な分野の事象を観察・調査することができる施設が整っている地域である。周辺部は、山や川など自然に恵まれており、自然の中での体験から理科の学習につながる学びを得ることができる。また、大雨による土砂災害等の自然災害も多く発生しており、自然災害と人間との関わり方についての認識を深めさせることが必要な地域でもある。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の実態として、観察や実験に対する意欲を持ち、進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えることができている。一方、知識及び技能の習得や、それらを活用すること、観察実験の結果を分析・解釈することに課題が見られる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫 ② 観察・実験の技能を習得させるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 単元ごとの章立て
<内容の表現・表記>	⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「章末 学んだことをチェックしよう」を設け、二次元コードから章末問題へアクセスできるようにしている。また、各単元末に、基本事項を確認するための「学習内容の整理」と問題演習を行う「確かめ問題」を設け、二次元コードから問題演習へアクセスできるようになっている。さらに、知識を深める問題演習の「活用問題」を設けている。
- つまづきやすい内容には、「例題」、「考え方」、「練習」を設けている。また、二次元コードから「練習問題」にアクセスできるようにしている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、実験を行う際の注意事項にマークを付している。注意事項等は、6種類のマークで示している。
- 各学年に「理科室の決まり」として、安全に実験を行うために、実験前、実験中、実験後の説明をチェックリストにしている。また、事故が起きた場合の応急処置の方法と、実験中に地震が起きたときの対処方法を掲載している。さらに第1学年では、1枚のイラストから誤った行動を10個見つける活動を設定している。
- 第2学年と第3学年の「基本操作」に、顕微鏡の操作手順を掲載している。また、第2学年では、倍率と視野の明るさの関係を説明したり、試料が見えづらい事例を写真で4例掲載し、対処の方法を説明している。さらに、二次元コードから顕微鏡の「操作説明」へアクセスできるようにしている。

2 思考力、判断力、表現等の育成

視点③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 各学年の巻頭に「『探究』の流れを確認しよう」「教科書の使い方をおさえよう」として、探究の過程を8段階で示し、考察の後に課題に対する結論をまとめたり、ほかの人の書いたものと比べたりすることで自分の考えを広げ、深められるよう設定している。
- 第1学年に4箇所、第2学年に5箇所、第3学年に4箇所「じっくり探究」として、探究の過程の流れに沿って疑問を解決する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元のはじめに、「この単元で学ぶこと」として各章の内容を掲載している。また、ページ下部には、生徒がどの段階を学習しているかがわかるフローチャートを設けている。さらに、各章のはじめにある二次元コードから「スタート動画」にアクセスできるようにしている。
- 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各章のはじめと終わりに、「Before&After」を設けて、その章を学ぶ前と後で、自分の考えがどのように変わったか振り返りができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して2箇所ある。うち、本市に関連した資料が2箇所あり、広島市植物公園と市内の水害碑を、写真を付して掲載している。
- サイズ AB判
第1学年 262 ページ (約 500 g) 第2学年 310 ページ (約 596 g) 第3学年 326 ページ (約 610 g)

視点⑥ 単元ごとの章立て

- 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 第2学年で「気象現象がもたらすめぐみと災害」の節にて、「災害を起こす気象現象を止めることはできないが、被害を小さくするための備えはできる。」と説明し、雨量等の予想やハザードマップにて災害の被害を減らせることを示している。また、側注に「注意報」「警報」「特別警戒」を緊急度別に掲載している。
- 第3学年で「自分たちの住む地域で過去に起こった自然災害について調べよう」との課題を設定し、レポート例に「本市の水害碑について」および「『広島市防災ポータル』を活用した調査結果」を掲載している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年の目次のページの二次元コードまたはサイトのアドレスからデジタルコンテンツを利用できるようにしている。また、各ページに記載された二次元コードおよびサイトのアドレスから、「実験手順」「資料」「シミュレーション」等、学習を補足する内容にアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。

1 知識及び技能の習得**視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫**

- 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「章末問題」を設けている。また、各単元末に基本事項を確認する「まとめ」と問題演習を行う「単元末問題」「読解力問題」を設けている。さらに、第3学年の巻末に、問題演習を行う「学習のまとめ」を設けている。
- つまづきやすい内容には、「例題」、「解答例」、「演習」の欄を設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 観察・実験の説明では、手順をまとめりごとに見出しを付け、実験操作のコツや注意事項にマークを付している。
- 各学年に「理科室の決まり」として、安全に実験を行うために、「実験の心構え」を実験前、実験中、実験後と注意事項をチェックリストにしている。また、火を扱うときの注意と、実験中に地震が起きたときの対処方法を掲載している。さらに、1枚のイラストから誤った行動を見つける活動を設定している。
- 第2学年の「基礎技能」に、顕微鏡の各部の名称や操作手順を掲載している。また、試料が見えづらい事例を写真で示している。

2 思考力、判断力、表現等の育成**視点③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫**

- 第1学年の巻末に、「探究の進め方」として、探究の過程を8段階で示し、考察の後に、調べたことをまとめ、発表するように設定している。
- 各単元末に、「探究活動」を設定し、習得した知識・技能を統合し、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫**視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫**

- 各単元のはじめに、章立てと「これから学習すること」として、各章の内容を掲載している。
- 学習を振り返って、次につなげることができるよう、「ふり返ろう」の欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量**視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して1箇所ある。うち、本市に関連した資料が1箇所あり、安佐動物公園を、写真を付して掲載している。
- サイズ B5判
第1学年 294 ページ (約 531 g) 第2学年 318 ページ (約 565 g) 第3学年 374 ページ (約 662 g)

視点⑥ 単元ごとの章立て

- 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。

5 内容の表現・表記**視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方**

- 第2学年で「自然の恵みと気象災害」の節にて、「大雨が降ると、土砂災害、洪水、浸水などさまざまな被害をもたらす。」と気象災害について説明し、災害から身を守るための対策を掲載している。
- 第3学年で「地域の自然災害」の節を設定し、気象災害及び地震や火山などの災害について説明している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年の目次のページの二次元コードまたはサイトのアドレスから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。また、巻末資料の「基本操作」の二次元コードから動画にアクセスできるようにしている。

1 知識及び技能の習得

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 各単元末に、基本事項を確認する「学習のまとめ ステップ1」、問題演習を行う「学習のまとめ ステップ2」を設けている。また、第2、3学年の巻末には「ステップ3 読解力強化問題」も設けている。さらに、学年の巻末に問題演習を行う「思考をさらに深める」を設けている。
- つまづきやすい計算については、巻末に「計算問題 例題」を設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 観察・実験の説明では、手順のまとめりごとに見出しを付け、吹き出しで実験操作のコツの説明や注意事項にマークを付している。
- 第1学年の巻末の「基本操作」に、「理科室の使い方」として安全に探究を行うために、探究前、探究中、探究後の注意事項が示している。また、事故が起きた場合の応急処置の方法や実験中に地震が起きたときの対処方法、薬品や廃液、ガラスの破片の扱いを掲載している。
- 第1学年と第2学年の「基本操作」に、顕微鏡の各部の名称や操作手順、倍率の求め方を掲載している。また、第2学年では、倍率と視野の明るさの関係を説明したり、試料が見えづらい事例を写真で3例掲載し、対処の方法を説明している。

2 思考力、判断力、表現等の育成

視点③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 各学年の巻頭に「理路整然 どうする、探究の進め方」として探究の進め方を10段階で設定している。
- すべての観察・実験を「探究」として位置づけ、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元のはじめに「学びのあしあと」として、単元を学ぶ前と、学んだ後で、自分の考えがどのように変化したか振り返りができるようにしている。また、できるようになりたい目標を示した「Can-Do List」を設置している。
- 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各単元のはじめに「ふり返ろう・つなげよう」を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- AB判
第1学年 262 ページ (約 610 g) 第2学年 302 ページ (約 700 g) 第3学年 302 ページ (約 700 g)

視点⑥ 単元ごとの章立て

- 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 第2学年で「気象に関わる恵み・災害」の節にて、「集中豪雨」「竜巻」についての説明や写真を記載している。
- 第3学年で「自然の恵みと災害」の章を設定し、「身のまわりで自然の資源をどのように利用しているか。自然災害に対してどのような取り組みをしているか。」の調査と議論の活動を設定している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各ページの上端の二次元コードから学習を広げるウェブコンテンツにアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。

1 知識及び技能の習得

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 各章末に、学習内容を振り返る「要点をチェック」を設けている。また、単元末に、基本事項を確認する「要点と重要語句の整理」と問題演習を行う「基本問題」「活用問題」を設けている。さらに、各学年の巻末に問題演習を行う「学年末総合問題」も設けている。
- つまづきやすい内容には、「例題」、「解き方」、「練習」を設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、実験操作の注意事項にマークを付している。注意事項等は、5種類のマークで示している。
- 各学年の「基礎技能」に、「理科室のきまりと応急処置」として、実験前、実験中、実験後のきまりをチェックリストにしている。また、事故が起きた場合の応急処置の方法の紹介、可燃性の薬品や残った薬品の扱い方、加熱した金属の扱いを掲載している。さらに、地震が起きたときや感染症が広がっているときの対処方法をチェックリストにしている。
- 各学年の「基礎技能」に、顕微鏡の各部の名称や操作手順を掲載している。

2 思考力、判断力、表現等の育成

視点③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 各学年の巻頭に「探究の進め方」として、探究の過程を7段階で示し、観察・実験によって得られた結果を考察するように設定している。
- 第1学年に4箇所、第2学年に6箇所、第3学年に5箇所「疑問から探究してみよう」として、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元のはじめに「学んでいくこと」として各章の内容をこれまで学習した関連した内容とともに掲載している。
- 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各章のはじめに二次元コードから「これまでの学習のおさらい」にアクセスできるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して2箇所ある。うち、本市に関連した資料が1箇所あり、三角州を、写真を付して掲載している。
- AB判
第1学年 291 ページ (約 615 g) 第2学年 315 ページ (約 664 g) 第3学年 347 ページ (約 725 g)

視点⑥ 単元ごとの章立て

- 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 第2学年で「雨や雪、風が人間生活を襲うとき」の節にて、「大雨は、河川の氾濫や崖崩れなどをもたらし、建物や田畑の浸水、住居や道路の埋没などを引き起こすことがある。(略)」と説明し、災害から身を守るために気象庁の情報とハザードマップでの備えや対策を掲載している。
- 第3学年で「自然災害と私たち」の章を設定し、「身近な地域で起こった過去の自然災害と現在の対策について調べてみよう」の活動を設定している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各ページの二次元コードおよびサイトのアドレスから、「実験道具の使い方」「Web ずかん」「要点チェック」等に学習を補足するコンテンツにアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。

1 知識及び技能の習得

視点① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「Review—ふり返ろう」を設け、二次元コードから問題演習、ふり返りシートへアクセスできるようにしている。また、各単元末に基本事項を確認するための「学習のまとめ」と問題演習を行う「力だめし」を設け、二次元コードから問題演習へアクセスできるようにしている。さらに、各学年の巻末に、問題演習を行う「学年末総合問題」を設け、第3学年の巻末には、問題演習を行う「中学校総合問題」も設けている。
- つまづきやすい内容には、「例題」、「考え方」、「練習」を設けている。また、「練習」については、二次元コードから「解説動画」へアクセスができるようにしている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、実験操作の注意事項にマークを付している。注意事項等は、9種類のマークで示している。
- 各学年の「サイエンス資料」で、安全に実験を行うために、実験前、実験中、実験後の説明をチェックリストにしている。また、廃液や廃棄物の処理、「気をつけたい実験操作」を示し、事故が起きた場合の対処方法、応急処置の方法も掲載している。さらに、実験中に地震が起きたときの対処を「地震発生直後」「ゆれがおさまったら」に分けてチェックリストにしている。
- 第1学年と第2学年の「サイエンス資料」に、顕微鏡の各部の名称と操作手順、プレパラートのつくり方、拡大倍率の求め方を掲載し、二次元コードから「解説動画」へアクセスできるようにしている。また、第2学年では、「顕微鏡Q&A」に資料が見えづらい事例を写真で3例掲載し、対処の方法を説明している。さらに、「ICTでトライ」にICT機器を使用した記録方法を掲載している。

2 思考力、判断力、表現等の育成

視点③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 各学年の巻頭に「探究をはじめよう」として、探究の過程を「課題の把握」「課題の追及」「課題の解決」の3つの活動を設定し、その活動内容を8段階で示し、考察の後に口頭発表やレポートなどで表現するように掲載している。また、巻末に「探究の流れと探究のふり返り」として、探究の説明をチェックリストにし、つまづきと解決のヒントを掲載している。
- 各学年4箇所、各単元にある1つの実験・実習を「探Q実験・実習」として、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。また、巻末に探Q実験・実習に対応した「探Qシート」を設けている。さらに、「みんなで探Qクラブ」として、学習内容から生じた疑問を探究する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元のはじめに、「学びの見通し」として、各章の題名を掲載している。また、この単元で学ぶ内容を、吹き出しの中にて身近な例を出して説明している。さらに、各章のはじめにある二次元コードから章の学習内容に関連する動画を掲載している「はてなスイッチ」にアクセスできるようにしている。
- 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各単元のはじめと終わりに、「学ぶ前にトライ」「学んだ後にリトライ」を設けて、その単元を学ぶ前と後で、自分の考えがどのように変わったか振り返りができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して7箇所ある。うち、本市に関連した資料が3箇所あり、広島市の露頭、三角州とこども文化科学館を、写真を付して掲載している。
- AB判
第1学年 284 ページ (約 590 g) 第2学年 308 ページ (約 635 g) 第3学年 340 ページ (約 700 g)

視点⑥ 単元ごとの章立て

- 各校の実状に合わせて学習順序を組み替えられるよう、単元は全学年同じ配列にしている。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 第2学年で「天気の変化がもたらす恵みと災害」の節にて、「天気の変化は、地域によって特徴がある。住んでいる地域に特徴的な天気の変化や、その結果もたらされる災害についてを知り、備える必要がある。」と説明し、各地域での天候に対する工夫を示している。また、観測結果や予測を参考にすることで防災・減災につながることを示している。
- 第3学年で「自然が人間の生活におよぼす影響」の章を設定し、「地域の自然災害の調査」の活動を設定している。また、考えるための視点を補足するために「な・る・ほ・ど」を掲載している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年の各ページに掲載された二次元コードおよびサイトのアドレスから、実験器具の「解説動画」「補足資料」「Webリンク」等、学習を補足するデジタルコンテンツにアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「知識及び技能の習得や、それらを活用すること、観察実験の結果を分析・解釈することに課題が見られる。」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 新興出版社啓林館の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「Review—ふり返ろう」を設け、二次元コードから問題演習、ふり返りシートへアクセスできるようにしている。また、各単元末に基本事項を確認するための「学習のまとめ」と問題演習を行う「力だめし」を設け、二次元コードから問題演習へアクセスできるようにしている。さらに、各学年の巻末に、問題演習を行う「学年末総合問題」を設け、第3学年の巻末には、問題演習を行う「中学校総合問題」も設けている。
- ・ 各学年の「サイエンス資料」で、安全に実験を行うために、実験前、実験中、実験後の説明をチェックリストにしている。また、廃液や廃棄物の処理、「気をつけたい実験操作」を示し、事故が起きた場合の対処方法、応急処置の方法も掲載している。さらに、実験中に地震が起きたときの対処を「地震発生直後」「ゆれがおさまったら」に分けてチェックリストにしている。
- ・ 各学年4箇所、各単元にある1つの実験・実習を「探Q実験・実習」として、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。また、巻末に探Q実験・実習に対応した「探Qシート」を設けている。さらに、「みんなで探Qクラブ」として、学習内容から生じた疑問を探究する活動を設定している。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「章末 学んだことをチェックしよう」を設け、二次元コードから章末問題へアクセスできるようにしている。また、各単元末に、基本事項を確認するための「学習内容の整理」と問題演習を行う「確かめ問題」を設け、二次元コードから問題演習へアクセスできるようになっている。さらに、知識を深める問題演習の「活用問題」を設けている。
- ・ 各学年に「理科室の決まり」として、安全に実験を行うために、実験前、実験中、実験後の説明をチェックリストにしている。また、事故が起きた場合の応急処置の方法と、実験中に地震が起きたときの対処方法を掲載している。さらに第1学年では、1枚のイラストから誤った行動を10個見つける活動を設定している。
- ・ 第1学年に4箇所、第2学年に5箇所、第3学年に4箇所「じっくり探究」として、探究の過程の流れに沿って疑問を解決する活動を設定している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔音楽〕種目〔一般〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [音楽] 種目 [一般]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市内中心部に大ホールを併設した文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団による西洋音楽をはじめとし、能や民謡等様々なジャンルの音楽に触れる機会に恵まれた地域である。
- 本市の生徒の実態として、各学校における文化祭や「文化の祭典」等において表現活動の学習成果を発表する機会があること、また、ネット環境や情報機器の充実により音楽に関する情報を得やすくなったことから、学校生活だけでなく、日常生活の中で音楽に親しんでいる生徒が多い。一方で、生徒によって音楽経験の差が大きく、興味を示す音楽に偏りがあることから、我が国や郷土の伝統的な音楽など多様な音楽に親しみ、よさを味わったり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化についての関心や理解を深めたりすることについて課題がある。また、音楽を知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりすることについて課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 表現領域の知識及び技能の習得を図るための工夫 ② 鑑賞領域の知識の習得を図るための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 音楽表現を創意工夫するための工夫 ④ 音楽のよさや美しさを味わって聴くための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑦ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方 ⑧ [共通事項]の指導を充実させるための工夫 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 表現領域の知識及び技能習得を図るための工夫

- 第1学年に3か所、第2・3学年上に1か所、「Sing! Sing!」を設け、歌唱の知識及び技能習得に関する事項を示している。
〈第1学年〉 ・ 歌うための準備 ・ 言葉の発音について ・ 変声と混声合唱
〈第2・3学年上〉 ・ 歌うための準備
- 第1学年と第2・3学年下「Let's Try!」で、「指揮をしてみよう」のページを設け、指揮をするための基本的なポイントを、文と図で示している。また、指揮者の言葉を参考にして考えるよう促している。
- 歌詞に込められた思いについて、作詞者からの言葉を掲載している。
- 各学年の創作教材について、「音のスケッチ」の中で、活動の進め方を活動1、活動2、活動3…と順に示し、短い文で説明している。また、ワークシートや作品例を掲載している。

視点② 鑑賞領域の知識の習得を図るための工夫

- 歌唱分野における学習内容の記載
・ 「Active!」では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫などについて直接書き込む部分を設けている。また、考えたことを友達と交流したり歌ってみたりする活動を設定している。
【例】第1学年「『サウンド・オブ・ミュージック』から」
- 創作分野における学習内容の記載
・ 「音のスケッチ」では、創意工夫するための活動のポイントを文章で示している。また、生徒や教師の発言を想定した吹き出しで思考を促したり、友達と交流する活動を設けたりしている。
【例】第1学年「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 音楽表現を創意工夫するための工夫

- 歌唱分野における学習内容の記載
・ 「Active!」では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫などについて直接書き込む部分を設けている。また、考えたことを友達と交流したり歌ってみたりする活動を設定している。
【例】第1学年「『サウンド・オブ・ミュージック』から」
- 創作分野における学習内容の記載
・ 「音のスケッチ」では、創意工夫するための活動のポイントを文章で示している。また、生徒や教師の発言を想定した吹き出しで思考を促したり、友達と交流する活動を設けたりしている。
【例】第1学年「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」

視点④ 音楽のよさや美しさを味わって聴くための工夫

- 鑑賞領域における学習内容の記載
・ 活動内容を文章で示すとともに、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや魅力などについて、書き込む表や枠を設けている。
【例】第2・3学年上「交響曲第5番 ハ短調 作品67」
- ・ 生徒や教師の発言を想定した吹き出しで、聴くポイントを示したり学習活動を促したりしている。
【例】第1学年「魔王」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 全学年の巻頭に、音楽家のメッセージや写真を掲載する「With My Heart 音楽はメッセージ」、「作者の思いにふれる」のページを設けている。
- 「目次」では、領域を色分けして示すとともに、創作活動、鑑賞教材、共通教材にはアイコンを付している。
- 比べて学びを深める教材には、「比べてみよう」のアイコンを、ページ数とともに下側に付している。
- 「学習MAP」では、育成を目指す資質・能力とともに領域・分野ごとに色分けをして図示し、各領域・分野の相互の関連を点線で繋ぎ、1年間の学習の流れを示している。
- 各題材名は、「学習MAP」と同じ色を付して、題材冒頭の見開き左側に縦書きで示している。また、活動のポイントを、題材冒頭の見開き左上に横書きで示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材や資料等の配列・分量

- 内容の構成は、以下の通りである。
 〈領域・分野〉「歌唱」「鑑賞」「創作」
 〈資料等〉音楽を形づくっている要素、Sing! Sing! (第1学年及び第2・3学年上掲載)、Let's Try!、資料、歌のアルバム、全校合唱、国歌
- 各学年の目次に示された領域ごとの教材数については、次のとおりである。
 〈第1学年〉 歌唱：22 創作：2 鑑賞：7
 〈第2・3学年上〉 歌唱：20 創作：2 鑑賞：8
 〈第2・3学年下〉 歌唱：17 創作：2 鑑賞：6
 ※ 歌唱の中に「歌のアルバム(国歌含む)」の楽曲を含む。
- 3年間で全ての共通教材を掲載している。
- 各領域・分野において、我が国の音楽や郷土の伝統音楽など、日本の文化と関連のある教材や活動を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方

- 音楽科と各教科等との関連を意識した教材や資料を掲載している。
- 第2・3学年上「私たちのくらしと音楽」で、音楽著作権について掲載している。
- 第2・3学年下「ポピュラー音楽図鑑」で、4ページにわたり、代表的なポピュラー音楽の起源や特徴について、代表的なアーティストの写真やイラストを付して説明している。
- 第1学年「郷土の様々な民謡」、「日本とアジアの声による様々な表現」、第2・3学年上「郷土の音楽や芸能」、第2・3学年下「世界のさまざまな芸能や音楽」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて示している。
- 第2・3学年下「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」で、2ページにわたり、アウトリーチや音楽を通じた教育活動について、それぞれの活動場面の写真とともに掲載している。
- 各学年のSDGsとの関連がある教材や資料には、関連するアイコンを付している。

視点⑧ 【共通事項】の指導を充実させるための工夫

- 全学年の「学習MAP」で、共通事項を軸にした「学習の進め方」を掲載している。
- 教材に関連する音符や記号等の名称について、巻末の「楽典」で掲載されているページ数と共に、見開き右側に示している。
- 巻末「楽典」に、用語や記号などを掲載している。
- 全学年に掲載されている「どんな特徴があるかな？」において、音楽を形づくっている要素を集約し整理したものを図示するとともに、音楽を形づくっている要素の働きについて、演奏したり聴いたりして確認できるような学習活動を掲載している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 全学年、活動を促したり考えを深めたりできるよう、生徒や教師を想定したイラストと共に、発言を想定した吹き出しを付して示している。
- 共通教材では、教材が表す情景の写真に掲載している。教材によっては、縦書きの歌詞や作詞・作曲者の紹介などと共に見開き2ページにわたり写真を掲載し、次のページに活動のポイントや楽譜などを掲載している。
- 我が国や郷土の伝統音楽について、楽器や楽譜、実際の場面の写真を掲載したり、図や文で説明したりしている。
- 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、「見る」、「聴く」、「記録する」に分類された「まなびリンク」のアイコンを付している。巻頭の二次元コードまたはURLからは、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。

1 知識及び技能の習得

視点① 表現領域の知識及び技能習得を図るための工夫

- 第1学年に1か所、第2・3学年上に2か所、第2・3学年下に1か所、「My Voice!」を設け、歌唱に関する事項を示している。
 - 〈第1学年〉 ・ 自分の歌声を見つけよう
 - 〈第2・3学年上〉 ・ 自分の思いを歌声にのせよう ・ 鼻濁音
 - 〈第2・3学年下〉 ・ 豊かな歌声で、気持ちを込めて歌おう
- 各学年の「指揮をしてみよう!」で、指揮をする際の基本的なポイントを、文と図などで示している。また、指揮者からのメッセージを掲載している。
- 歌詞に込められた思いについて、作詞者からの言葉を掲載している。
- 各学年で設けている創作教材について、「My Melody」、「Let's Create!」の中で、活動の進め方を①②③…と順に示し、短い文で説明している。また、ワークシートや作品例を掲載している。

視点② 鑑賞領域の知識の習得を図るための工夫

- 鑑賞教材ごとに、聴くポイントを簡潔に示すとともに、音楽の背景や楽曲・作曲者などについて解説を掲載している。
- 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族・諸外国の音楽を扱った題材では、音楽の多様性を理解するために、それぞれの音楽の特徴を捉え、比較したり関連付けたりする学習を設けている。
- 第2・3学年下の音楽史年表「耳でたどる音楽史」で、日本や西洋の音楽文化の歴史や代表的な作曲家・楽曲等について、写真や説明文を付した年表とともに掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 音楽表現を創意工夫するための工夫

- 歌唱分野における学習内容の記載
 - ・ 「学びのコンパス」では、学習の手順を示し、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫などについて直接書き込む部分を設けている。また、グループで話し合ったり、いろいろな表現を試したりする活動を設定している。
 - 【例】第1学年「主は冷たい土の中に（静かに眠れ）」
- 創作分野における学習内容の記載
 - ・ 「My Melody」、「Let's Create!」では、創意工夫するための活動のポイントを文章で示している。また、生徒や教師の発言を想定した吹き出しを示して思考を促したり、中間発表の場面を設定した対話を例示したりしている。
 - 【例】第1学年「構成を工夫して、3つの場面の音楽をつくろう」

視点④ 音楽のよさや美しさを味わって聴くための工夫

- 鑑賞領域における学習内容の記載
 - ・ 活動の手順を文章で示すとともに、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさなどや批評文などを書き込む表や枠を設けている。
 - 【例】第2・3学年上「交響曲第5番 ハ短調」
 - ・ 生徒や教師の発言を想定した吹き出しで、聴くポイントを示したり学習活動を促したりしている。
 - 【例】第1学年「魔王」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 全学年の巻頭に、音楽家のメッセージや写真を掲載するページや、様々な分野で活躍する人物のメッセージを掲載する「音楽ってなんだろう?」のページを設けている。
- 「目次」では、領域を色分けして示すとともに、共通教材にはアイコンを付している。
- 「学習内容」では、育成を目指す資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材の関連度の大小を色の濃さで示している。
- 各学習目標は、「学習内容」と同じ色を付して、題材冒頭の見開き左側に縦書きで示している。また、教材冒頭の見開き左上に、「学習内容」と同じ色を付して、活動文を横書きで示すとともに、「考えたいポイント」を問いかけの言葉で活動文の横に掲載している。
- 各学年に、これまでの音楽の授業で学んだことを振り返る「音楽の学びを振り返ろう」を設定している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材や資料等の配列・分量

- 内容の構成は、以下の通りである。
 〈領域・分野〉「歌唱」「鑑賞」「創作」
 〈資料等〉発声、リズムで楽しもう（第1学年及び第2学年上）、特集、指揮、資料、歌い継ごう日本の歌、心通う合唱、国歌
- 各学年の目次に示された領域ごとの教材数については、次のとおりである。
 〈第1学年〉 歌唱：20 創作：2 鑑賞：7
 〈第2・3学年上〉 歌唱：18 創作：2 鑑賞：6
 〈第2・3学年下〉 歌唱：17 創作：2 鑑賞：7
 ※ 歌唱の中に「歌い継ごう日本の歌」、「心通う合唱」の楽曲、国歌を含む。
- 3年間で全ての共通教材を掲載している。
- 各領域・分野において、我が国の音楽や郷土の伝統音楽など、日本の文化と関連のある教材や活動を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方

- 音楽科と各教科等との関連を意識した教材や資料を掲載している。
- 第1学年、第2・3学年下「ルールを守って音楽を楽しもう！」で、音楽著作権について取り上げている。
- 第2・3学年下「ポピュラー音楽」で、見開き2ページで、ロック、ジャズ、ボサノヴァの起源や特徴について、代表的なアーティストの写真や楽譜を付して掲載し、よさや美しさを味わって聴く学習を設定している。また、次のページ「ポピュラー音楽のジャンル」で、海外編と日本編に分けて、4ページにわたり、様々なジャンルの相関関係について、写真を掲載して説明している。
- 第1学年「日本の民謡」、「郷土に伝わる民謡を調べよう」、「アジアの諸民族の音楽」、第2・3学年上「受け継ごう！郷土の祭りや芸能」、「世界の諸民族の音楽」、第2・3学年下「世界の諸民族の音楽」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて示している。
- 全学年に「生活や社会の中の音や音楽」を設定し、音や音楽の果たす役割について（第1学年）、音楽を通じた人と人とのつながりについて（第2・3学年上）、音楽に関わる仕事について（第2・3学年下）、それぞれの活動場面の写真とともに紹介している。
- 全学年、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」、第2・3学年下「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや音楽」で、地域に伝わる祭りや芸能に取り組んでいる中学生を紹介している。
- 第2・3学年下「生活や社会の中の音や音楽」の中で、音楽教育や楽器とSDGsの関連について掲載している。

視点⑧ 〔共通事項〕の指導を充実させるための工夫

- 全学年の「学習内容」で、音楽を形づくっている要素の一覧を掲載している。
- 各教材の学習に関連する音楽を形づくっている要素について、見開き左ページ下に示している。
- 教材に関連する音符や記号等の名称について、巻末の「楽典」で掲載されているページ数と共に、見開き右側に示している。
- 巻末「音楽の約束」で、用語や記号などを掲載している。
- 巻末に「音楽を形づくっている要素」において、学習に活用したり振り返ったりすることができるよう、それぞれの要素について、イラストや楽譜、関連教材のページ等を付して掲載している。また、第1学年では、音楽を形づくっている要素の働きについて、演奏したり聴いたりして確認できるような学習活動を掲載している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 全学年、活動を促したり考えを深めたりできるよう、生徒や教師を想定したイラストと共に、発言を想定した吹き出しを付して示している。
- 共通教材では、教材が表す情景を写真で示している。教材によっては、縦書きの歌詞や作詞・作曲者の紹介などと共に見開き2ページにわたり写真を示し、次のページに学習目標や楽譜などを示している。
- 我が国や郷土の伝統音楽について、楽器や楽譜、実際の場面の写真を掲載したり、図や文で説明したりしている。
- 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、「動画」、「音源」、「創作ツール」、「画像」、「文章、ワークシート」に分類されたアイコンと内容を示した二次元コードを付している。巻頭の二次元コードからは、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「生徒によって音楽経験の差が大きく、興味を示す音楽に偏りがあり、我が国や郷土の伝統的な音楽など多様な音楽に親しみ、よさを味わったり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化についての関心や理解を深めたりすること」や、「音楽を知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりすること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」をもとに審議した。

意見1 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 音楽表現を創意工夫することができるよう、学習内容や手順を示し、知覚・感受したことや表現の工夫などを記述する場面を設定したり、作品例やワークシートを掲載したりしている。また、生徒や教師のキャラクターに吹き出しを付し、各学習場面において気付きや思考を促したり、友達と意見交換する場面での対話を例示したりしている。
- ・ 音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことができるよう、学習の手順を示すとともに、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲の批評文などを書き込む部分を設けている。
- ・ 生徒が、主体的に生活や社会の中にある様々な音や音楽に関わることができるよう、音や音楽の果たす役割や音楽に関わる仕事などを紹介する特集を、写真やイラストとともに全学年に掲載している。
- ・ 我が国や郷土の伝統的な音楽、アジア地域の諸民族・諸外国の音楽、ポピュラー音楽など、多様な音楽を扱う教材や資料を掲載している。また、生徒が親しみをもつことができるよう、特集や裏表紙で、地域に伝わる祭りや芸能に関わる同世代の中学生の取り組みを紹介している。

意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

- ・ 音楽表現を創意工夫することができるよう、学習内容や手順を示し、知覚・感受したことや表現の工夫などを記述する場面を設定したり、作品例やワークシートを掲載したりしている。また、生徒や教師のキャラクターに吹き出しを付し、各学習場面における気付きや思考を促している。
- ・ 音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことができるよう、学習内容を示すとともに、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさなどを書き込む部分を設けている。
- ・ 生徒が、主体的に生活や社会の中にある様々な音や音楽に関わることができるよう、アウトリーチや音楽を通じた教育活動について、写真とともに紹介する特集を設けている。
- ・ 我が国や郷土の伝統的な音楽、アジア地域の諸民族・諸外国の音楽、ポピュラー音楽など、多様な音楽を扱う教材や資料を掲載している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔音楽〕 種目〔器楽合奏〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [音楽] 種目 [器楽合奏]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市内中心部に大ホールを併設した文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団による西洋音楽をはじめとし、能や民謡等様々なジャンルの音楽に触れる機会に恵まれた地域である。
- 本市の生徒の実態として、各学校における文化祭や「文化の祭典」等において表現活動の学習成果を発表する機会があること、また、ネット環境や情報機器の充実により、音楽に関する情報を得やすいことから、学校生活だけでなく、日常生活の中で音楽に親しんでいる生徒が多い。一方で、生徒によって音楽経験の差が大きく、興味を示す音楽に偏りがあることから、我が国や郷土の伝統的な音楽など多様な音楽に親しみ、よさを味わったり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化についての関心や理解を深めたりすることについて課題がある。また、音楽を知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫することについて課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 器楽分野の知識及び技能の習得を図るための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	② 音楽表現を創意工夫するための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	④ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑤ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方 ⑥ [共通事項] の指導を充実させるための工夫 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 器楽分野の知識及び技能の習得を図るための工夫

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて説明している。また、打楽器については、巻末の資料で扱っている。
- リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを、文や吹き出しで示している。
- ギターの奏法として、ストローク奏法、アポヤンド奏法、アル・アイレ奏法を掲載している。
- 箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八のページで、口唱歌を示し、唱歌を唱え、楽器を演奏する活動を掲載している。
- 巻末に、「リコーダー運指表」と「ギター&キーボード コード表」を掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 音楽表現を創意工夫するための工夫

- 題材の目標や教材ごとに示された活動のポイントの文の中で、曲にふさわしい表現を工夫するよう促している。
【例】ブランブルク協奏曲第2番から第2楽章
・ 二つの旋律の関わりを生かして表現を工夫しよう。
- 「音のスケッチ」では、器楽を扱った創作教材について、学習の手順を示している。また、楽譜や演奏例などを示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 「目次」では、各楽器を色分けして示している。
- 各楽器のページでは、見開き左上に題材の目標を示すとともに、まとめの曲を掲載している。また、教材ごとに活動のポイントを文で示している。
- 「Let's Play!」、「Let's Try!」では、様々な編成やジャンルの曲を掲載している。
- 「名曲旋律集」では、有名なクラシック音楽やゲーム音楽など様々なジャンルの曲を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点④ 題材や資料等の配列・分量

- 内容の構成は、以下の順である。
① リコーダー ② 篠笛 ③ 尺八 ④ ギター ⑤ 箏 ⑥ 三味線 ⑦ 太鼓
⑧ Let's Play! ⑨ Let's Try! ⑩ 名曲旋律集 ⑪ 資料
- 楽器別教材数、合奏・アンサンブルの教材数は次のとおりである。

・ リコーダー	20曲	・ 太鼓	※
・ ギター	6曲	・ 篠笛	6曲
・ 箏	6曲	・ 尺八	1曲
・ 三味線	1曲	・ 合奏・アンサンブル	31曲

※ 太鼓の教材は「合奏・アンサンブル」に1曲あり
- 「表現の仕方を調べよう PART-1・2」のページでは、奏法が似ている3つの楽器を聴き比べ、楽器の特徴を捉える学習を示している。リコーダー、箏、三味線については、各楽器の最後のページで、鑑賞教材を1・2曲掲載している。
- 器楽を用いた創作活動「音のスケッチ」を5教材掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑤ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方

- 巻頭「LET'S PLAY MUSIC」では、各楽器や演奏に関する写真を、関連するページ数とともに掲載している。また、「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、公共の場に置かれたストリートピアノについて掲載している。
- 和楽器の学習では、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓のページで、楽器の起源や発展、縦譜、文化譜、唱歌など、日本の音楽文化と関連するものを掲載している。太鼓については、祭りや現代曲の中で使用されている場面の写真を掲載している。
- 「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」では、諸外国の楽器を紹介している。また、それらの背景にある文化や伝統について調べたり、テーマに沿って比較したことなどを記述したりする学習を設定している。
- SDGs との関連がある特集に、アイコンを付して掲載している。

教 育 出 版	<p>視点⑥ 【共通事項】の指導を充実させるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽を形づくっている要素について、題材の目標や各教材の活動の中で、関連する学びのポイントを文章で示している。 ○ 巻末「いろいろな用語、記号」に、用語や記号などを掲載している。 <p>視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒や教師を想定したイラストに、吹き出しを付し、学習のヒントを示している。 ○ リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓それぞれのページで、演奏の姿や、構え方、奏法別の手元など、本文の記述や内容に応じた写真を掲載している。 ○ 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、そばに「見る」「聴く」「記録する」に分類された「まなびリンク」のアイコンを付している。巻頭の二次元コードまたはサイトのアドレスから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。
------------------	--

1 知識及び技能の習得

視点① 器楽分野の知識及び技能の習得を図るための工夫

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八、打楽器）の各部分の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて説明している。
- リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを、文やQ&A方式で示している。
- ギターの奏法として、ストローク奏法、アポヤンド奏法、アル アイレ奏法を掲載している。
- 箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八のページで、口唱歌を示し、唱歌を唱え、楽器を演奏する活動を掲載している。
- 巻末に「リコーダーの運指表」と「ギター／キーボード コード表」が掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 音楽表現を創意工夫するための工夫

- 活動文や教材ごとに示された学習のポイントを示した文の中で、曲にふさわしい表現を工夫するよう促している。
【例】「聖者の行進」
・ アーティキュレーションを参考にしながら、曲にふさわしい表現を工夫して演奏しよう。
- 「アンサンブル セミナー」と示された教材全てに「学びのコンパス」を設定し、学習の手順を示している。また、注目するポイントについて、音楽を形づくっている要素で示したり、生徒や教師を想定したイラストに吹き出しで思考を促したりしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 「目次」では、各楽器を色分けして示している。
- 各楽器のページでは、教材ごとに学びのポイントを示している。リコーダーについては、LESSONごとに活動のポイントを文で示している。
- 「アンサンブル」では、様々な編成やジャンルの曲を掲載している。
- 「楽器でMelody」では、有名なクラシック音楽やJ-POPなど様々なジャンルの曲を掲載している。「学習内容」のページでは三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材との関連の大小を色の濃さで示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点④ 題材や資料等の配列・分量

- 内容の構成は、以下の順である。
① リコーダー ② ギター ③ 箏 ④ 三味線 ⑤ 太鼓 ⑥ 篠笛 ⑦ 尺八
⑧ 打楽器 ⑨ アンサンブル ⑩ 楽器でMelody ⑪ 資料
- 楽器別教材数、合奏・アンサンブルの教材数は次のとおりである。
・ リコーダー 14曲 ・ 太鼓 ※
・ ギター 2曲 ・ 篠笛 3曲
・ 箏 6曲 ・ 尺八 1曲
・ 三味線 1曲 ・ 合奏・アンサンブル 25曲
※ 太鼓の教材は「合奏・アンサンブル」に1曲あり
- 各楽器の最初のページに、「○○の演奏を聴こう」というコーナーを設け、各楽器に鑑賞曲を2・3曲掲載している。
- 器楽を用いた創作活動「My Melody」を1教材掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑤ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方

- 巻頭では、打楽器奏者の言葉や写真を掲載している。また、「音楽ってなんだろう？」では、世界各国の伝統的な楽器や祭りに使われている楽器の写真と共に、音楽・文芸批評家の言葉を掲載している。
- 和楽器の学習では、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八のページで、楽器の起源や発展、縦譜、文化譜、唱歌など、日本の音楽文化と関連するものを掲載している。また、各楽器の様々な演奏や、郷土の祭りや芸能で使用されている場面の写真を掲載している。
- 打楽器のページにおいて、世界の様々な楽器について、奏法と共に掲載している。また、巻末の「楽器の図鑑」では、世界の様々な楽器を、種類別に整理して掲載している。
- 巻末の「楽しもう！ 和楽器の音楽」で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組んでいる中学生を紹介するとともに、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。

教 育 芸 術 社	<p>視点⑥ 【共通事項】の指導を充実させるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習内容」において、音楽を形づくっている要素について、説明と共に一覧で掲載している。 ○ 音楽を形づくっている要素について、「アンサンブル セミナー」のページでは、関連する学びのポイントを文章で示したり、学習目標の下にアイコンで示したりしている。 ○ 巻末「音楽の約束」に、用語や記号などを掲載している。 <p>視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒や教師を想定したイラストに、吹き出しを付し、学習のヒントを示している。 ○ リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器それぞれのページで、演奏する姿や構え方、奏法別の手元など、本文の記述や内容に応じた写真を掲載している。 ○ 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、そばに「動画」「音源」「創作ツール」「文章、ワークシート」に分類されたアイコンと内容を示した二次元コードを付している。各教材の二次元コードから、教材ごとに関連するウェブコンテンツを利用できるようになっている。
-----------------------	---

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「生徒によって音楽経験の差が大きく、興味を示す音楽に偏りがあり、我が国や郷土の伝統的な音楽など多様な音楽に親しみ、よさを味わったり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化についての関心や理解を深めたりすること」や、「音楽を知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫すること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」をもとに審議した。

意見1 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「学びのコンパス」において、学習の内容や手順を示したり、吹き出しを付した生徒や教師のキャラクターを複数掲載したりして、生徒の思考を促している。また、音楽表現を創意工夫するための注目するポイントについて、[共通事項] に示された「音楽を形づくっている要素」の具体例で示している。
- ・ 郷土の祭りや芸能で和太鼓が使われている場面や、様々なジャンルの楽器と和楽器が共演している場面の写真が掲載されている。また、同世代の中学生が、和楽器の演奏に取り組んでいる様子を、写真やインタビューとともに掲載されている。

意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

- ・ 「音のスケッチ」において、学習の内容や手順を示している。また、音楽表現を創意工夫することができるよう、演奏の例を示している。
- ・ 郷土の祭りや現代曲での太鼓演奏の例が、写真で掲載されている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔美術〕 種目〔美術〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [美術] 種目 [美術]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市街地周辺に、広島市現代美術館や広島県立美術館など、美術作品等に直接触れることができる文化的施設が多い。また、山林を主体とした自然豊かな地域や瀬戸内海に面した風光明媚な沿岸部など、変化に富んだ様々な環境が見られる地域もある。
- 広島市中学校教育研究会美術部会や校内研修で行った研究授業から、本市の生徒の実態として、想像することの楽しさを感じており、美術科の学習に意欲的に取り組んでいることが挙げられる。一方で、感性や想像力を働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に働かせながら育成することと、生活を美しくする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成することには課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 造形的な視点を豊かにするための工夫 ② 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着に向けた工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 豊かに発想し構想を練るための工夫 ④ 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがされたウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 造形的な視点を豊かにするための工夫

- キャラクターのコメントで示している。
「奥行きや構図などの空間の表し方や、光や色彩の表し方に注目しよう。」
「色彩を工夫すると、色彩そのものだけでなく空間や立体感なども表すことができるんだね。」
- 生徒作品の「作者のことば」に表現意図とともに示している。
「天気がよく、道に太陽の光が当たる様子を見て晴れ晴れとした気持ちになったので、木漏れ日を強調して描きました。」
「遠くの雲のすき間から見える夕日と目の前の電線のコントラストがとてもきれいでした。」

視点② 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着に向けた工夫

- 形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法に関する内容を巻末資料に掲載している。

【美術1】

- | | | |
|----------------|-----------|-------------|
| 「文字のデザイン」 | 「著作権を知ろう」 | 「発想・構想のヒント」 |
| 「鑑賞ってなんだろう」 | 「美術館へ行こう」 | 「色彩と光」 |
| 「用具を知って使ってみよう」 | | |

【美術2・3】

- | | | |
|-------------|----------|------------|
| 「展覧会をつくる」 | 「奥行きの表現」 | 「美術史の扉」 |
| 「量感の表現」 | 「余白の美」 | 「紙の表現」 |
| 「これってどう撮るの」 | 「共に学ぶ美術」 | 「持続可能な未来へ」 |
| 「世界遺産と美術」 | 「日本の伝統色」 | 「美術と私と社会」 |

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 豊かに発想し構想を練るための工夫

- 発想・構想のポイントを示す特設ページを設けている。
- [鑑賞] [発想・構想] [知識・技能] を標記し、相互に関連した学習の流れを示している。
[鑑賞] 人の目を引き付ける表し方のよさや工夫に注目しながら、作品を鑑賞しよう
「発想・構想」地域の魅力を紹介するポスターの構成を考えよう
「知識・技能」見た人の心にとまるように表現方法を工夫しよう
- 活動の順序を生徒の活動の写真とともに、番号と文で示している。
 - ① 紹介したい地域の魅力や、ポスターに掲載する情報などの内容を整理しよう。
 - ② その場所へ行って、スケッチをしたり写真を撮ったりして取材をしよう。
 - ③ 伝えたい情報のイメージを大切に、ポスターの全体を見ながら図の大きさやキャッチコピー、文字の書体、配色の検討をしよう。
 - ④ 完成作品
 - ⑤ 作品を掲示して、たくさんの人に見てもらおう。
- 活動の写真に吹き出しで、生徒の思考を掲載している。
「どこに掲示して、誰に何を伝えるためのポスターをつくろうか。」
「コンピュータを使うと何度でも試すことができるね。」

視点④ 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めるための工夫

- 巻末に見開き2ページで、鑑賞活動の流れやポイント等を示している。
[作品と向き合おう]
[自分なりの根拠をもって意味づけよう]
[様々な視点から見よう]
[見方や考え方はたくさんある だから伝え合おう]
- 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載したり、作品の一部や全体を原寸大で掲載したりしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 巻頭で作家の作品と制作風景、作家から生徒に対するメッセージを掲載している。
- 小学校の学びや社会とのつながりについて示す特設ページを設けている。
- 表現と鑑賞を関連させた学習の流れや教科書の使い方を、キャラクターの吹き出しで示す特設ページを設けている。
- 題材ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた目標を生徒に分かりやすい言葉で掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材や資料等の配列・分量

- ページ数・版型

【美術1】 71ページ・A4ワイド版

【美術2・3】 127ページ・A4ワイド版

- 題材数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数 合計
	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞	
【美術1】	5	1	4	1	11
【美術2・3】	8	5	7	2	22

- 学びの資料

【美術1】 15ページ

【美術2・3】 30ページ

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 複数の題材で生活や社会とのつながりや美術の働きについて考えるきっかけとなる写真等を掲載している。
- デザインや工芸などの葉に目に特設ページを設け、生活と美術の関わりを示している。
- 社会と美術の働きをつなぐを示す特設ページを設けている。
- 複数の題材でSDGsの目標に関連する内容を、マークを付したりコーナーを設けたりして示している。
- SDGsと美術の関わりについて具体的に示す特設ページを設けている。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがされたウェブコンテンツ等の示し方

- 各題材において、「CONTENTS」に二次元コードを示している。
- 特設ページに、二次元コードを示している。

1 知識及び技能の習得

視点① 造形的な視点を豊かにするための工夫

- 「POINT」に示している。
「色づかいや表現方法から、作者の心の中の風景を想像してみよう。」
「作者は自分の思いを表すために、形や色にどんな工夫をしているだろう。」
- 生徒作品の「作者の言葉」に表現意図とともに示している。
「家族で行ったタイ旅行の最終日に、デパートの屋上駐車場から見た市場の風景です。まだ帰りたくない寂しさを青などの寒色系の色で、旅行中に感じた楽しさを黄色や赤などの暖色系の色で表しました。」
「2本の木で親友と僕自身を表し、その二人を包み込むように、両端に木の枝を描きました。昔、親友と遊んだときの温かい気持ちを表すために、木の周りをオレンジ色で塗りました。」

視点② 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着に向けた工夫

- 形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法に関する内容を巻末資料と別冊資料で掲載している。

【美術1】

「美術館を楽しもう」 「芸術祭へ行こう」 「美術鑑賞を楽しむ手がかり」

【美術2・3】

「学習を支える資料一覧」 「仏像について知ろう」 「美術史年表」
「日本の伝統工芸」 「北と南の民族衣装」

【美術1資料】

「どうやって描く？」	「鉛筆で描く」	「水彩絵の具で描く」
「アクリル絵の具で描く」	「さまざまな描き方」	「版画で表す」
「文字をデザインする」	「端末を活用する」	「どんな材料でつくる？」
「紙でつくる」	「粘土でつくる」	「木でつくる」
「金属でつくる」	「石でつくる」	「写真を撮影する」
「映像を制作する」	「自然の中の形・色・光」	「光から生まれる色」
「色の世界に出会う」	「色の特徴」	「色の効果と配色」
「日本と世界の伝統色図鑑」		

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 豊かに発想し構想を練るための工夫

- 発想・構想のポイントを示す特設ページを設けている。
- [鑑賞][表現(発想・構想)][鑑賞]を標記し、相互に関連した学習の流れを示している。
[表現(発想・構想)] メッセージを伝えるポスターをデザインする
[鑑賞] メッセージを伝える、さまざまなデザインの例を見てみよう。
- 「みんなの工夫」のコーナーを設け、生徒の制作における試行錯誤の過程を掲載している。
[青色の吹き出し]
「近所の海岸に、たくさんのごみが落ちている。この問題をポスターで伝えるには、どうすればよいだろう。」
「CO₂削減を促進するポスターをつくりたい。どんなデザインにしたらよいだろう。」
[白抜き吹き出し]
「どんなごみが落ちているか、写真を撮って記録しよう。」
「汚れた海だけを描くより、苦しんでいる魚の姿を描いた方が、伝わりやすいかも。」
「たくさん撮ったごみの写真をコラージュして、魚の形にしたらどうだろう。」
「CO₂削減にも、いろいろな方法があるな。みんなが気軽に取り組めることって、何だろう。」
「地域の人に、自転車の活用を勧めよう。どんなポスターなら伝わるかな。」
「人物の服の色をどんな色にすれば、赤い矢印が引き立つかな。」

視点④ 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めるための工夫

- 「美術作品はどう見たらいいのだろう？」のコーナーを設け、鑑賞活動のポイントを1ページで示している。
- 巻末に見開き2ページで、鑑賞活動の流れやポイントを示している。
[①じっくり見る]
[②自分なりに考える]
[③調べる]
[④まとめる]
[美術鑑賞を広げる言葉]

- 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載したり、作品の一部や全体を原寸大で掲載したり、紙質を変えて掲載したりしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 巻頭で作家や生徒が日常の中の美しさを表現した写真作品を掲載している。
- 小学校の学びや社会とのつながりについて示す特設ページを設けている。
- 表現と鑑賞を関連させた学習の流れや教科書の使い方を吹き出しと矢印で示す特設ページを設けている。
- 題材ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた目標を生徒に分かりやすい言葉で掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材や資料等の配列・分量

- ページ数・版型
 - 【美術1】 69ページ・A4ワイド版
 - 【美術1資料】 35ページ・A4版
 - 【美術2・3】 107ページ・A4ワイド版
- 題材数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数 合計
	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞	
【美術1】	8	3	5	3	19
【美術2・3】	7	7	5	5	24

- 学びを支える資料
 - 【美術1】 4ページ
 - 【美術1資料】 35ページ
 - 【美術2・3】 10ページ

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 複数の題材で道徳科やその他教科との関連について示している。
- 複数の題材で生活や社会とのつながりや美術の働きについて考えるきっかけとなる写真等を掲載している。
- デザインや工芸などのはじめに特設ページを設け、生活と美術の関わりを具体的に示している。
- 社会と美術の働きのつながりを示す特設ページを設けている。
- 複数の題材でSDGsの目標に関連する内容をマークで示している。
- SDGsと美術の関わりについて具体的に示す特設ページを設けている。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがされたウェブコンテンツ等の示し方

- 各題材において、題材名の横に二次元コードを示している。
- 特設ページに、二次元コードを示している。
- 「体感ミュージアム」で、二次元コードからアクセスできる複数のコンテンツを示している。
 - ・ 音声ナビ「風神雷神図屏風（俵屋宗達）」
 - ・ 書き込みツール&高精細図画
 - ・ 解説動画「風神・雷神像」
 - ・ 鑑賞を広げる言葉集

1 知識及び技能の習得

視点① 造形的な視点を豊かにするための工夫

- 吹き出しに「造形的な視点」を示している。
「光に着目し、色彩の変化や美しさをとらえ、効果を考えよう。」
- 生徒作品の「作者の言葉」に表現意図とともに示している。
「先ほどまでの喧騒がうそのように静かになった放課後の風景を描きました。片付けられた掃除道具と強い西日が差し込む玄関ホールの光と影を表現するため色調や濃淡の違いを工夫しました。」

視点② 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着に向けた工夫

- 形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法に関する内容を巻末資料に掲載している。

【美術1】

「火焰型土器」	「発想・構想の手立て①」	「発想・構想の手立て②」
「どんなふうにかきたい？」	「さまざまな技法で描く」	「木版画」
「水墨画の表現」	「文字の基本」	「木でつくる」
「粘土でつくる」	「色彩の基本・仕組み」	「美術館へ行こう」

【美術2・3上】

「岡本太郎 “芸術はみんなのもの”」	「暮らしに息づくパブリックアート」	「立体を描く」
「遠近感を表す」	「人物をつくる」	「北斎の大波」
「金属でつくる」	「日本美術と世界の美術の歩み」	「日本の伝統色」
「色彩の特徴を深く知る」		
「写真で表現する」		

【美術2・3下】

「さまざまなアートに触れよう」	「動画で表現する」	「絵巻物の世界」
「仏像の種類」	「美術文化の継承」	「日本の世界文化遺産」
「受け継ぐ伝統と文化」	「世界の工芸品と色彩」	

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 豊かに発想し構想を練るための工夫

- 発想・構想のポイントを示す特設ページを設けている。
- [鑑賞の入り口] を示し、表現と鑑賞の活動が相互に関連した学習の流れを示している。
[鑑賞の入り口] 印象に残るポスターや装丁には、どんな工夫があるだろうか
- [表現のヒント] のコーナーを設け、発想・構想の手立てや技能面の補足を示している。
[表現のヒント]
① テーマを掘り下げよう
テーマについてインターネットや書籍で情報を集め、問題点や伝えたいことの構想を深めよう。
□どこに焦点を当てるのか
□どんな結果になってほしいのか
□何が原因なのか
□自分には何ができるのか
□だれに伝えたいのか
② 表現方法を工夫しよう
テーマをだれにどのように伝えるか考え、構図やコピーを工夫しよう。例えば、「紹介する」「推奨する」「警告する」など伝え方にもさまざまある。写真やイラストで印象づけるほか、フォントの工夫によってもイメージを伝えることができる。

視点④ 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めるための工夫

- 巻頭に折り込み見開き3ページで、鑑賞活動のポイントを示している。
[美術の見方や考え方でとらえよう]
[習作と比べて考えよう]
[描き方に着目してみよう]
- 鑑賞活動の対象を1ページで示している。
[作品から]
[美術文化から]
[身近な生活から]
- 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版に掲載したり、作品の一部や全体を原寸大に掲載したりしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 巻頭で作家や生徒が日常の中の美しさを表現した写真作品を掲載している。
- 小学校の学びとのつながりと、表現と鑑賞を関連させた学習の流れについて示す特設ページを設けている。
- 教科書の使い方を示す特設ページを設けている。
- 題材ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた目標を生徒に分かりやすい言葉で掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材や資料等の配列・分量

- ページ数・版型
 - 【美術1】 75ページ・A4ワイド版
 - 【美術2・3上】 65ページ・A4ワイド版
 - 【美術2・3下】 61ページ・A4ワイド版
- 題材数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数 合計
	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞	
【美術1】	7	3	6	2	18
【美術2・3上】	6	3	7	1	17
【美術2・3下】	5	4	5	1	15

- 学びの資料
 - 【美術1】 19ページ
 - 【美術2・3上】 15ページ
 - 【美術2・3下】 12ページ

5 内容の表現・表記

視点⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 複数の題材で道徳科との関連について示し、その他の教科とつながりのある題材を設定している。
- 複数の題材で生活や社会とのつながりや美術の働きについて考えるきっかけとなる写真等を掲載している。
- デザインや工芸などのはじめに特設ページを設け、生活と美術の関わりを具体的に示している。
- 社会と美術の働きのつながりを示す特設ページを設けている。
- 複数の題材でSDGsの目標に関連する内容をマークで示している。

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがされたウェブコンテンツ等の示し方

- 各題材において、「学びのはじめに」に二次元コードを示している。
- 特設ページに、二次元コードを示している。
- 複数の題材で情報機器活用のヒントを示したICTマークを付している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「感性や想像力を働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に働かせながら育成すること」と「生活を美しくする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「みんなの工夫」のコーナーでは、生徒の制作における試行錯誤の過程を詳しく紹介することで、生徒が感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断しながら表現する活動を行うことができるようにしている。
- ・ 見開きや折り曲げの大型図版や原寸大で作品掲載を行い、【美術2・3】「日本の絵画を楽しむ5つのキーワード」では、和紙のような風合いの用紙に作品掲載を行っており、より本物に近い感覚で作品を味わうことができ、感性や想像力を豊かに働かせて鑑賞の活動を行い、美術文化について実感的な理解を深めることができるようにしている。
- ・ 【美術1】の巻末「美術鑑賞を楽しむ手がかり」のページで、鑑賞のポイントとともに、「美術鑑賞を広げる言葉」を示しており、生徒が言語活動を充実させながら、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断しながら鑑賞の活動を行うことができるようにしている。
- ・ 【美術1資料】において、形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法等に関して、3年間活用できる資料を別冊に掲載することで、生徒が自らの主題を表すために、感性や想像力を働かせて、思考・判断し、表現の活動を行うことができるようにしている。

意見2 日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 「表現のヒント」のコーナーを設け、発想・構想の手立てや技能面の補足を示し、生徒が自らの主題を表すために、感性や想像力を働かせて、思考・判断し、表現の活動を行うことができるようにしている。
- ・ 見開きや折り曲げの大型図版や原寸大での作品掲載しており、本物に近い感覚で作品を味わい、感性や想像力を働かせて鑑賞の活動を行い、美術文化について実感的な理解を深めることができるようにしている。
- ・ 情報機器活用のヒントをICTマークで示し、情報機器を効果的に活用した活動を行うことができるようにしている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔保健体育〕 種目〔保健体育〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [保健体育] 種目 [保健体育]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、各区にスポーツセンターが設置されているとともに、全国大会を開催することができる陸上競技場や体育館等の施設が充実しており、プロをはじめ、トップレベルのスポーツチームが数多くあることから、優れたプレーを間近に観戦できる地域である。また、近年は豪雨などの自然災害による深刻な被害も多く発生していることから、災害への知識と備えが必要な地域でもある。
- 令和5年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」によると、本市の生徒の実態は、運動することが好きな生徒や保健体育の授業が楽しいと感じている生徒が多い一方、体力合計点は全国平均値と比較すると、男女ともに下回っており、特に全身持久力に課題がある。また、1週間の総運動時間の減少といった運動習慣の課題や、スクリーンタイムや朝食欠食の増加といった生活習慣の課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫 ② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫

- 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の左上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。また、「章末資料」の「学習のまとめ」に「キーワードの解説」が確認できるよう、二次元コードを掲載している。
- 各章末の「学習のまとめ」に「章末問題」として知識・技能の習得を確認する問題を設け、二次元コードとともに掲載している。
- 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載しており、資料を読みとるためのポイントとして「ポイントマーク」を付している。また、「読み物」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。
- 各小単元の右下に学習内容に関する動画につながる二次元コードを掲載している。

視点② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫

- 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「リンクマーク」、「他教科マーク」を付している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫

- 各章末の「日常に生かそう」で、調べてみたいことや日常生活に生かしていきたいことを記述するためのワークシートを二次元コードで示している。また、巻末に「巻末スキルブック」を設け、健康・安全に関する20の技能を「スキル」としてまとめて掲載している。
- 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を6箇所掲載している。
- 小単元「自然災害による危険」、「自然災害による傷害の防止」、発展「共に生きる」、「巻末スキルブック」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報やハザードマップ、警戒レベル、防災の自助・共助・公助などを取り上げている。

【学習活動の例】

防災タイムラインを作成してみよう

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を6ページにわたり掲載している。
- 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、目次、小学校及び高等学校の関連する学習内容を示している。また、各章の学習内容に関係する発問を設定している。さらに、「保健体育の職業」として、その章に関係する仕事をしている方の紹介を二次元コードとともに掲載している。
- 小単元「食生活と健康」で、食事の健康への影響について示すとともに、小単元「調和のとれた生活」で、朝食の習慣と睡眠の関係について示している。また、章末資料「運動やスポーツと食事」で、運動やスポーツと食事の関係について示している。
- 小単元「休養・睡眠と健康」の「資料」で、ICT機器の使用と疲労について示すとともに、章末資料「インターネットと依存症」で、中学生のインターネット利用状況と依存する危険性について示している。

視点⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫

- 「運動やスポーツの多様性」の章末資料で、「私とスポーツ」としてスポーツと多様な関わりをしている方々の紹介や用具や技術の変化について掲載している。
- 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の章末資料「体力の要素」で、各体力要素を高める運動例を行う目安とともに掲載している。
- 巻末スキルブック「野外スポーツを安全に行う」で、野外スポーツを安全に行うための知識や対策の具体例をまとめて掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、保健編、体育編の順で配列している。
- サイズ AB判 重さ 約388g

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「章末資料」や「読み物」等で、「性の多様性」、「さまざまな自然災害の危険や防災」、「熱中症の予防と手当」など、発展的な内容を示している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「キーワード」、「ポイント」、「Dマーク」等、20種類のマークを付している。
- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。

1 知識及び技能の習得**視点① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫**

- 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の右下に示すとともに太文字で強調している。
- 各章末の「学習のまとめ」に学習内容を整理して示している。また、知識・技能の習得を確認する問題を設け、二次元コードとともに掲載している。
- 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載している。また、「トピックス」、「ミニ知識」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。

視点② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫

- 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「リンクマーク」、「他教科マーク」、「家マーク」、「地域マーク」を付している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成**視点③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫**

- 各章末の「学びを活かそう」で、学習したことを日常生活で活用するための問いと記述欄を設けている。
- 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を4箇所掲載している。
- 小単元「自然災害による傷害の防止」、資料、章末資料「学びを活かそう」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、避難所のできることを考えようなどを取り上げている。

【学習活動の例】

日頃から備えておくことをチェックしてみよう

3 主体的に学習に取り組む工夫**視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫**

- 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を12ページにわたり掲載している。
- 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、小学校及び高等学校の関連する学習内容を示している。
- 小単元「食生活と健康」で、食事の健康への影響について示すとともに、章末「学びを活かそう」で、食生活の事例をもとに改善点を話し合う学習活動を設定している。
- 小単元「休養・睡眠と健康」、章末資料「睡眠と情報機器との関係」で、コンピューターやスマートフォンの使用による健康や睡眠への影響について示している。

視点⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫

- 「運動やスポーツの多様性」の章末資料で、運動やスポーツの移り変わりを紹介したり、オリンピック・パラリンピックへの関わり方について記述したりする欄を設けている。
- 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の章末資料で、体力の要素を中学校で学ぶ運動との関係で示すとともに、マイトレーニングをつくる学習活動を設定している。
- 小単元「安全な運動やスポーツの行い方」、章末「学びを活かそう」で、野外活動の危険性や安全な行い方について考える活動を設定している。

4 内容の構成・配列・分量**視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、体育編、保健編の順で配列している。
- サイズ AB 変形判 重さ 約 434g

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「トピックス」や「章末資料」等で、「気候変動への対策」、「熱中症の予防と応急手当」など、発展的な内容を示している。

5 内容の表現・表記**視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方**

- 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「資料」、「トピックス」、「WEB マーク」等、17種類のマークを付している。
- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫

- 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の右上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。また、巻末で「用語解説」として用語の説明を示している。
- 各章末の「章のまとめ」に知識・技能の習得を確認する問題を設けている。
- 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載しており、資料を読みとるためのポイントとして「吹き出しマーク」を付している。また、「コラム」、「事例」、「ほり下げる」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。
- 各小単元の右下に学習内容の確認ができる「保体クイズにトライ！」という二次元コードを掲載している。

視点② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫

- 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「関連マーク」、「他教科マーク」を付している。また、保健と体育を関連させて考えることができるよう、体育の学習に「保健の窓」、保健の学習に「体育の窓」を掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫

- 各章末で習得した知識・技能を活用して考える「思考・判断・表現」の問題を設けている。
- 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を10箇所掲載している。
- 小単元「自然災害によるけがの防止」、特集資料「気象災害から命を守る行動」、「地震災害から命を守る行動」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、警戒レベル、命を守る行動などを取り上げている。

【学習活動の例】

インターネットを使って地域のハザードマップを実際に調べてみよう

- 小単元「災害と環境」で、災害による衛生環境の悪化や災害に関する情報の活用法などを掲載している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を8ページにわたり掲載している。
- 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、目次、小学校および高等学校の関連する学習内容を示している。また、各章の学習内容に関係する発問を設定している。
- 小単元「食事と健康」で、食事の健康への影響や朝食の重要性について示すとともに、特集資料「調和のとれた生活」で、自分の生活をチェックし、レーダーチャートを作成したうえで、良い点や改善点を整理し、それをもとにグループで話し合う学習活動を設定している。
- 小単元「休養・睡眠と健康」の「コラム」で、スマホと疲労について示すとともに、特集資料「見直そうスマホの習慣」で、自分のインターネットへの依存度をチェックする学習活動を設定している。また、インターネット依存について相談できるところを掲載している。

視点⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫

- 「運動やスポーツの多様性」の特集資料で、用具の進化についての紹介や、共生の視点からつくられた新しいスポーツの紹介を掲載している。
- 小単元「運動やスポーツの体と心への効果」の特集資料「体力を高めよう」で、体力の要素を体づくり運動との関係で示すとともに、体力向上のための計画を立てる学習活動を設定している。
- 「運動やスポーツの効果・学び方・安全」の特集資料「野外スポーツの危険と対策」で、野外スポーツにおける安全に関する知識と対策の具体例を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、体育編、保健編の順で配列している。
- サイズ AB判 重さ 約428g
- 広島に関する写真として、「体育授業の様子」、「バリアフリーの例」、「集中豪雨による土砂災害」を掲載している。

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「特集資料」や「コラム」等で、「性についての固定的な考えに気づこう」、「気象災害から命を守る行動」、「地震災害から命を守る行動」、「熱中症の予防と応急手当」など、発展的な内容を示している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「キーワード」、「ポイント」、「Dマーク」等、22種類のマークを付している。
- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫

- 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の左上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。
- 各章末の「章のまとめ」に「確かめよう」として知識・技能の習得を確認する問題を設けている。
- 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載している。また、「コラム」、「情報サプリ」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。
- 各小単元の右下にワークシートにつながる「章デジ」という二次元コードを掲載している。

視点② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫

- 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「関連マーク」を付している。また、巻末で「キーワードで見る保健体育の学習内容」として、他の小単元や分野等との関連を整理して掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫

- 各章末で習得した知識を活用して考える「生かそう」を示すとともに、日常生活に生かしたいことを記述するための「生活への活用」を設けている。また、興味や関心などに応じて学習するための「もっと広げる深める」を4箇所設けている。
- 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を7箇所掲載している。
- 小単元「自然災害に備えて」、特設ページ「もっと広げる深める」、特設ページ「探究しようよ！」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、災害に関する情報の活用法、警戒レベル、タイムラインなどを取り上げている。

【学習活動の例】

災害に備える「タイムライン」を作ってみよう

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を8ページにわたり掲載している。
- 各章扉で、学習内容、小学校及び高等学校の関連する学習内容を示している。
- 小単元「食生活と健康」で、食事の健康への影響や朝食の重要性について示すとともに、小単元「調和のとれた生活」で、自分の生活をチェックし、良い点と改善点を整理する学習活動を設定している。
- 小単元「休養・睡眠と健康」の「コラム」で、スマートフォンと健康について示している。

視点⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫

- 「スポーツの多様性」の章末「探究しようよ！」で、スポーツの多様な関わり方の紹介や、共生の視点からつくられた新しいスポーツの紹介を掲載している。
- 巻末資料で体力の測定とその活用例を掲載している。
- 小単元「スポーツの安全な行い方」のコラム「野外スポーツの安全な行い方」で、野外スポーツのための自然に関する知識を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、体育編、保健編の順で配列している。
- サイズ AB判 重さ 約416g
- 広島に関する写真として、「広島市健康づくりセンター健康科学館」、「土砂災害ハザードマップ」、「ごみ処理施設」を掲載している。

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「探究しようよ！」や「コラム」等で、「性の多様性」、「災害に備えるタイムライン」、「気象災害への対処」、「熱中症を疑ったときの対応」など、発展的な内容を示している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「キーワード」、「ポイント」、「D マーク」等、16種類のマークを付している。
- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市の実態や生徒の課題である「災害への知識と備えが必要な地域である」「体力低下や、1週間の総運動時間の減少といった運動習慣に課題がある」「スクリーンタイムや朝食欠食の増加といった生活習慣に課題がある」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 大修館書店の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 小単元「休養・睡眠と健康」の「コラム」で、スマホと疲労について示している。また、特集資料「見直そうスマホの習慣」で、インターネットへの依存度をチェックする内容があり、自分の生活習慣を見直すきっかけとなる学習活動を設定している。さらに、インターネット依存について相談できるところを掲載している。
- ・ 特集資料「体力を高めよう」で、体力の要素を体づくり運動との関係で示している。また、今の自分の体力を調べ、ねらいを持って体力を向上させるための計画を立てる学習活動を具体例とともに示しており、体力向上や運動習慣の定着につなげる工夫がなされている。
- ・ 小単元「自然災害によるけがの防止」、特集資料「気象災害から命を守る行動」、「地震災害から命を守る行動」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、警戒レベル、命を守る行動などを取り上げている。また、インターネットを使って自分が住んでいる地域のハザードマップを実際に調べる学習活動を設定している。さらに、小単元「災害と環境」で、災害による衛生環境の悪化や災害に関する情報の活用法などを掲載している。
- ・ 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を10箇所掲載している。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 小単元「休養・睡眠と健康」の「資料」で、ICT機器の使用と疲労について示している。また、章末資料「インターネットと依存症」で、自分の生活習慣を振り返るきっかけとして、中学生のインターネット利用状況と依存する危険性について示している。
- ・ 章末資料「体力の要素」で、各体力要素を高める運動について、すぐに自分の生活に取り入れることができるよう具体的な運動例と、その運動を行う目安を掲載している。
- ・ 小単元「自然災害による危険」、「自然災害による傷害の防止」、発展「共に生きる」、「巻末スキルブック」で自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報やハザードマップ、警戒レベル、防災の自助・共助・公助などを取り上げている。また、章末資料で防災タイムラインの作成例を示している。
- ・ 「巻末スキルブック」で「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を含め、健康・安全に関する20の技能を「スキル」としてまとめて掲載している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔技術・家庭〕 種目〔技術分野〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [技術・家庭] 種目 [技術分野]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、鉄道や都市高速道路などの交通網が発達し、大型商業施設が誘致され、自動車産業や重工業に関連した工場とオフィスが多く立地する中国地方の経済・産業の拠点となっている地域である。
- 生徒は、都市型の生活環境にあつて、センシング技術や高速通信技術など世の中の最新技術に触れる機会が多いため、技術分野の学習への関心が高い。その一方で、生活をしていて困ることや不便だと感じる機会が少なく、自らの手で加工する経験なども不足している。それにより、生活の中にある問題を見い出して課題を設定することやその課題を自分の手で解決する経験が乏しいため、課題を設定した上で解決策を構想し、具体化した実践を評価・改善するなどの問題解決学習を行う力にも課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜知識及び技能の習得＞	① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫
＜思考力、判断力、表現力等の育成＞	② 生活や社会の中から問題を見いだし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫 ③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 学習目標や振り返りの示し方の工夫 ⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って自らの学びにつなげたりするための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容 ⑦ 題材や資料等の配列・分量
＜内容の表現・表記＞	⑧ 他教科や日常生活、社会との関連の示し方 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

東京書籍	<p>1 知識及び技能の習得</p> <p>視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫</p> <ul style="list-style-type: none">○ 基礎的・基本的な技能について、工程ごとに示すとともに、内容A「材料と加工の技術」においては、工具や機械を適切に取扱う技能について、12 ページにわたって掲載している。○ 学習の参考となる資料や解説を、「資料」マークを付して掲載している。 <p>2 思考力、判断力、表現力等の育成</p> <p>視点② 生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">○ 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習方法」において示し、説明している。○ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「統合的な問題解決をしよう!」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。 <p>視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">○ 「考えてみよう」、「調べてみよう」、「やってみよう」、「話し合ってみよう」のマークを付し、言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動を設定している。○ 巻頭で思考ツールについて説明し、生徒が意見やアイデアを出したりまとめたりするときに取り入れることができるようにしている。 <p>3 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点④ 学習目標や振り返りの示し方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">○ 学習の目標を「目標」で示すとともに、「まとめよう」、「振り返ろう」、「深めよう」で学習の振り返りを行えるようにしている。○ 各学習内容とも「学習のまとめ」の項目で学習を振り返る内容を設定している。 <p>視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って自らの学びにつなげたりするための工夫</p> <ul style="list-style-type: none">○ 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、「技術の天秤」マークを付して、技術の最適化について具体的な事例を示している。 <p>4 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none">○ 実践的・体験的な学習について、問題解決例として挙げている。<ul style="list-style-type: none">・ 問題解決例の数：17 事例内容「A材料と加工の技術」：3 事例 内容「B生物育成の技術」：3 事例内容「Cエネルギー変換の技術」：3 事例 内容「D情報の技術」：6 事例統合的な問題解決：2 事例・ 掲載例：『『あったらいいな』を形にしよう』 <p>視点⑦ 題材や資料等の配列・分量</p> <ul style="list-style-type: none">○ 各学習過程の分量（ページ数）<ul style="list-style-type: none">・ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 96 ページ・ 「技術による問題解決」に関する分量 96 ページ・ 「社会の発展と技術」に関する分量 24 ページ <p>5 内容の表現・表記</p> <p>視点⑧ 他教科や日常生活、社会との関連の示し方</p> <ul style="list-style-type: none">○ 小学校で学習した内容や、中学校の他教科で学習する内容との関連については、その記載があるページに、「リンク」マークを付すとともに、教科、内容等を示している。○ 技術分野のガイダンスに、日常生活における身近な物を写真で示している。 <p>視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方</p> <ul style="list-style-type: none">○ キャラクターや吹き出しを使い、学習を進める際のポイントやヒントを示している。○ それぞれのページの右上に掲載している二次元コードを読み取ることで、「Dマーク」を示した各項目の学習内容と関連する動画や資料などが掲載されたウェブコンテンツの目次ページにアクセスできる。
------	---

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫

- 基礎的・基本的な技能について、工程ごとに示すとともに、内容A「材料と加工の技術」においては、工具や機械を適切に取扱う技能について、別冊「スキルアシスト」に12ページにわたって掲載している。
- 学習の参考となる資料や解説を、「もっと知ろう」マークを付して掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 社会や生活での問題解決の流れの例を、巻頭「技術の問題解決ってなに？」において示し、説明している。
- 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「E編『夢をかなえる技術』」を設けている。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 「考えてみよう」、「やってみよう」のマークを付して、言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習目標や振り返りの示し方の工夫

- 学習の目標を「めあて」で示すとともに、「ふり返る」で学習を振り返るチェック欄を設けている。
- 各学習内容とも「編のまとめ」の項目で学習を振り返る内容を設定している。

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って自らの学びにつなげたりするための工夫

- 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、技術の最適化について具体的な事例を示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 実践的・体験的な学習について、問題解決例・題材例として挙げている。
 - ・ 問題解決例・題材例の数：21 事例
 - 内容「A材料と加工の技術」：4 事例 内容「B生物育成の技術」：6 事例
 - 内容「Cエネルギー変換の技術」：6 事例 内容「D情報の技術」：5 事例
 - ・ 掲載例：「調味料ホルダー」

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- 各学習過程の分量（ページ数）
 - ・ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 70 ページ
 - ・ 「技術による問題解決」に関する分量 176 ページ
（うち、別冊スキルアシスト 38 ページ）
 - ・ 「社会の発展と技術」に関する分量 12 ページ

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活、社会との関連の示し方

- 小学校で学習した内容や、中学校の他教科で学習する内容との関連については、その記載があるページに、「関連」マークを付すとともに、教科を示している。
- 技術分野のガイダンスに、日常生活における身近な物を写真で示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- キャラクターや吹き出しを使い、学習を進める際のポイントやヒントを示している。
- 各学習内容の題材例や、技術ハンドブックの基礎技能のページの右上に掲載している二次元コードを読み取ることで、その各内容と関連する動画や画像などがまとめられたウェブコンテンツにアクセスできる。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫

- 基礎的・基本的な技能について、工程ごとに示すとともに、内容A「材料と加工の技術」においては、工具や機械を適切に取扱う技能について、22ページにわたって掲載している。
- 学習の参考となる資料や解説を、「参考」マークを付して掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習の流れ」において示し、各要素について4コマ漫画を使って説明するとともに、学習の流れのイメージ図を掲載している。
- 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「技術分野の出口」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。また、「技術分野での問題解決をふり返ろう」を掲載し、3年間で学習した内容を踏まえて統合的な問題解決に取り組むことができるようにしている。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 「調べてみよう」、「やってみよう」のマークを付して、言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動を設定している。
- 巻頭で「マインドマッピング」、「ブレインストーミング」、「KJ法」について説明し、生徒が意見やアイデアを出したりまとめたりするときに取り入れることができるようにしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習目標や振り返りの示し方の工夫

- 学習の目標を「学習の目標」で示すとともに、「CHECK」で学習を振り返るチェック欄を設けている。
- 各学習内容とも「学習のまとめ」の項目で学習を振り返る内容を設定している。

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って自らの学びにつなげたりするための工夫

- 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、「トレードオフ」マークを付して、技術の最適化について具体的な事例を示している。
- 学習を振り返って自らの学びにつなげることができるように、「問題解決のふり返りシート」をAからDの各学習内容に計4箇所掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 実践的・体験的な学習について、題材例として挙げている。
 - ・ 題材例の数：35 事例
 - 内容「A材料と加工の技術」：7 事例 内容「B生物育成の技術」：8 事例
 - 内容「Cエネルギー変換の技術」：4 事例 内容「D情報の技術」：13 事例
 - 統合的な題材：3 事例
 - ・ 掲載例：「小さなスペースで机の上を整理・整頓できるマルチラック」

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- 各学習過程の分量（ページ数）
 - ・ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 104 ページ
 - ・ 「技術による問題解決」に関する分量 116 ページ
 - ・ 「社会の発展と技術」に関する分量 16 ページ

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活、社会との関連の示し方

- 小学校で学習した内容や、中学校の他教科で学習する内容との関連については、その記載があるページに、「小学校」マークや「他教科」マークを付すとともに、教科、内容等を示している。
- 技術分野のガイダンスに、日常生活における身近な物を写真で示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- キャラクターや吹き出しを使い、学習を進める際のポイントやヒントを示している。
- それぞれのページの右上に掲載している二次元コードを読み取ることで、各項目の学習内容と関連する動画や資料などが掲載されたウェブコンテンツに直接アクセスできる。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の「世の中の最新技術に触れる機会が多いため、技術分野の学習への関心が高いが、生活をしていて困ることや不便だと感じる事が少ない」、「課題を設定した上で解決策を構想し、具体化した実践を評価・改善するなどの問題解決学習を行う力に課題がある」という状況に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 開隆堂出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習の流れ」において示し、各要素について4コマ漫画を使って説明するとともに、学習の流れのイメージ図を掲載している。
- ・ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「技術分野の出口」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。また、「技術分野での問題解決をふり返ろう」を掲載し、3年間で学習した内容を踏まえて統合的な問題解決に取り組むことができるようにしている。
- ・ 学習を振り返って自らの学びにつなげることができるように、「問題解決のふり返りシート」をAからDの各学習内容に計4箇所掲載している。
- ・ 実践的・体験的な問題解決学習の具体例の名称について、「小さなスペースで机の上を整理・整頓できるマルチラック」など、何を目的としたものかが具体的にわかるようになっている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習方法」において示し、説明している。
- ・ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「統合的な問題解決をしよう！」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。
- ・ 実践的・体験的な問題解決学習の具体例の名称について、「『あったらいいな』を形にしよう」など、問題解決のテーマを示している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔技術・家庭〕 種目〔家庭分野〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [技術・家庭] 種目 [家庭分野]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市街地などの地域では大型商業施設やコンビニエンスストアが多くある一方、中山間地などの郊外ではスーパーマーケットも近くにないなど、保護者や生徒の生活様式が地域により大きく異なっている。また、自然災害が多く発生していることから、災害への知識と備えが必要な地域であるが、過去の災害の経験の有無等によって生徒の意識には差がある。
- 広島市中学校教育研究会技術・家庭科部会が実施したアンケートによると、本市の生徒の約8割は、家庭科の授業内容は実際の生活や社会と関連していると感じているが、家庭や地域社会に家庭科で習ったことをいかして解決したり、改善したりすることができる問題があると感じている生徒は6割程度である。また、それらの問題を解決するために計画を立てて実践することがある生徒は3割程度となっている。このことから、生活の中から問題を見いだして解決する力や、生活を工夫し創造しようとする態度の育成が必要である。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 生活の自立に必要な知識及び技能の定着を図る工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	② 生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫 ③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための示し方 ⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容 ⑦ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑧ 技術分野や他教科、小学校の学習内容との関連の示し方 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 生活の自立に必要な知識及び技能の定着を図る工夫

- 編末の「学習のまとめ」では、重要語句の一覧と知識・技能に関わる問いを設けている。
- 「いつも確かめよう」として、食生活および衣生活の基礎技能をまとめて掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 巻頭の Warm up の「家庭分野の学習の進め方」で、2 ページにわたり、「よりよい生活をつくる－問題を解決する道筋－」として、問題解決的な学習の流れを掲載している。
- 巻末の「選択 生活の課題と実践」で、11 ページにわたり、学習の進め方および実践例とそのまとめ方の例を掲載している。

【「生活の課題と実践」の例：6例】

- ・ A 家族・家庭生活 2例 ・ B 衣食住の生活 3例 ・ C 消費生活・環境 1例

- 編末の「学習のまとめ」では、思考・判断・表現に関わる問いを設けている。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 各節のはじめに導入課題を示し、生活を振り返るきっかけを設定している。
- 巻頭の Warm up の「家庭分野の学習の進め方」で、物事を考えたり、意見を整理したりするときに活用する手順や図式である思考ツールを7つ掲載している。
- 「考えてみよう」や「話し合ってみよう」のマークを付し、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を23例設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための示し方

- 1編のガイダンスにおいて、2 ページにわたり、生活の営みに係る見方・考え方を「家庭分野の見方・考え方」として説明し、具体例、対応するマークを写真・イラストと共に示している。
・「協力・協働」 ・「健康・快適・安全」 ・「生活文化の継承・創造」 ・「持続可能な社会の構築」
- 各編の最後に、それぞれの学習内容と持続可能な社会の構築を関連付けた章を設けている。

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 編末の「学習のまとめ」では、主体的に学習に取り組む態度に関連した問いとして、学習を振り返ってまとめ、興味・関心をもったことを記述する問いを設けている。
- 各編の最初の見開きには、キャラクターのふきだしで、「あなたが知りたいこと、できるようになりたいことは何かな。」として、知りたい項目のチェック欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 幼児と触れ合う活動に関する実習例を3例、まとめ方の例を2例掲載している。また、2 ページにわたり、幼児の起床から就寝までの生活の様子について、家庭と施設での生活に分けて写真を掲載している。
- 幼児の生活と家族および食生活の学習において、調理実習例を51例掲載している。
- 調理手順の中に「ポイント」として、調理のポイントを解説している。
- 布を用いた製作について、実習例を14例掲載している。

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- ガイダンス (A 家族・家庭生活) → B 食生活・衣生活・住生活 → C 消費生活・環境 → A 家族・家庭生活 → 生活の課題と実践 の順で配列している。
- 災害に備えることを目的とする内容には「防災」マークを付し、A 家族・家庭生活、B 衣生活・住生活、巻末において合計12 ページで掲載している。
- 「災害に備える」として、2 ページにわたり、防災に関する特集を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 技術分野や他教科、小学校の学習内容との関連の示し方

- 1編のガイダンスにおいて、学習内容ごとに小学校と中学校での関連を示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 食品群別摂取量のめやすの例を実物大の写真とともに38例示している。また、それらを使用した1日分の食事の例と配膳図を写真で示している。
- 学習に関連する動画やシュミレーションなどのウェブコンテンツが「D マーク」で示され、二次元コードが右ページ上部に示されている。それを読みとることで、学習内容と関連する動画や資料などがまとめられたウェブコンテンツにアクセスすることができる。

1 知識及び技能の習得

視点① 生活の自立に必要な知識及び技能の定着を図る工夫

- 章末または編末の「学習のふり返し」では、知識・技能に関わる問いを設けている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 巻頭のガイダンスで、2ページにわたり、「自分の課題をもって学習に取り組もう！～家庭分野の課題解決の進め方～」として、問題解決的な学習の流れと取り組み方の例を紹介したページの一覧を掲載している。
- 巻末の「選択 生活の課題と実践」で、10ページにわたり、学習の流れ、ポイントおよび実践例を掲載している。

【「生活の課題と実践」の例：8例】

- ・ A 家族・家庭生活 2例 ・ B 衣食住の生活 4例 ・ C 消費生活・環境 2例
- 章末または編末の「学習のふり返し」では、思考・判断・表現に関わる問いを設けている。
- 章末に「学びを生かそう」を設け、課題設定のヒントや課題例、取り組み方の流れ、まとめ方の例を掲載している。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 各節のはじめに導入課題を示し、生活を振り返るきっかけを設定している。
- 「考えてみよう」、「発表してみよう」、「話し合ってみよう」のマークを付し、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を42例設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための示し方

- 巻頭のガイダンスにおいて、2ページにわたり、生活の営みに係る見方・考え方を「つなぐ、つながる」をキーワードに写真・イラストと共に整理して示している。
- ・ 「協力・協働」 ・ 「健康・快適・安全」 ・ 「生活文化の継承・創造」 ・ 「持続可能な社会の構築」

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 章末または編末の「学習のふり返し」では、主体的に学習に取り組む態度に関連した問いとして、学習を振り返ってまとめ、興味・関心をもったことを記述する問いを設けている。
- 各編の最初の見開きには、自分の普段の家庭生活について振り返る「自立度チェック」を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 幼児と触れ合う活動に関する実践例を3例、まとめ方の例を2例掲載している。
- 幼児の生活と家族および食生活の学習において、調理実習例を53例掲載している。
- 調理手順の中に「Q」と「A」として、調理のポイントを解説し、「どうしてこうなったのかな？」として失敗した調理例の写真をもとにポイントを確認する場面を設けている。
- 災害時の食生活について、ポリ袋を使用したご飯の炊き方を掲載している。
- 布を用いた製作について、実習例を9例掲載している。

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- ガイダンス → A 家族・家庭生活 → B 食生活・衣生活・住生活 → C 消費生活・環境 → 生活の課題と実践 の順で配列している。
- 災害に備えることを目的とする内容には「防災」マークを付し、B 食生活・衣生活・住生活において合計9ページで掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 技術分野や他教科、小学校の学習内容との関連の示し方

- 巻頭のガイダンスにおいて、学習内容ごとに小学校と中学校での関連を示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 食品群別摂取量のめやすの例を実物大の写真とともに36例示している。また、それらを使用した1日分の食事の例と配膳図を写真で示している。
- 学習に関連する動画やホームページを参照できる二次元コードが、ページ下部に示されている。それを読み取ることで、学習内容と関連する動画や資料などがまとめられたウェブコンテンツにアクセスすることができる。

1 知識及び技能の習得

視点① 生活の自立に必要な知識及び技能の定着を図る工夫

- 編末の「学習のまとめ」では、知識・技能に関わる問いを設けている。
- 「調理の基礎」、「製作の基礎・基本を知ろう」として、食生活および衣生活の基礎技能をまとめて掲載している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫

- 巻頭のガイダンスで、2ページにわたり、「生活課題に取り組む」として、課題の見つけ方や取り組み方および目標達成シートの例を掲載している。
- 巻末の「生活の課題と実践」で、12ページにわたり、課題設定の記述欄、学習の進め方、取り組み方の例、実践例とまとめ方の例を掲載している。

【「生活の課題と実践」の例：10例】

- ・ A 家族・家庭生活 3例 ・ B 衣食住の生活 6例 ・ C 消費生活・環境 1例
- 編末の「学習のまとめ」では、思考・判断・表現に関わる問いを設けている。また、生活の課題と実践につながる問いを設け、イラストや写真、ふきだしの文言を用いて課題設定につながる問いかけをしている。

視点③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

- 各節のはじめに導入課題を示し、生活を振り返るきっかけを設定している。
- 「考えてみよう」、「工夫してみよう」、「発表してみよう」、「話し合ってみよう」のマークを付し、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を34例設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための示し方

- 巻頭のガイダンスにおいて、生活の営みに係る見方・考え方を「生活の見方・考え方の視点」として示している。
・ 「協力・協働」 ・ 「安全・快適・健康」 ・ 「生活文化」 ・ 「持続可能な社会の構築」
- 各編の最後に、それぞれの学習内容と持続可能な社会の構築を関連付けた章を設けている。また、関わりの深いSDGsの目標をマークと共に示している。

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 編末の「学習のまとめ」では、主体的に学習に取り組む態度に関連した問いとして、イラストや写真、図から具体的な場面を想定して考える問いを設けている。
- 各編の最初の見開きには、「自分の興味・関心を大切に」を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容

- 幼児と触れ合う活動に関する実践例を5例、まとめ方の例を2例掲載している。また、2ページにわたり、幼稚園の鳥瞰図（イラスト）を幼稚園での幼児の生活の様子がわかる写真と共に掲載している。
- 食生活の学習において、調理実習例を51例掲載している。
- 調理手順中に複数の「Q」を示し、調理手順の下部に「調理方法 Q&A」としてまとめ、「なぜ～？」と考えさせる示し方で調理のポイントを解説している。
- 災害時の食生活について、ポリ袋を使用したカレーうどんの作り方を掲載している。
- 布を用いた製作について、実習例を11例掲載している。

視点⑦ 題材や資料等の配列・分量

- ガイダンス → A 家族・家庭生活 → B 食生活・衣生活・住生活 → C 消費生活・環境 → 生活の課題と実践 の順で配列している。
- 災害に備えることを目的とする内容には「防災」マークを付し、B 食生活・衣生活・住生活、巻末において合計14ページで掲載している。
- 「わたしたちの防災～防災があたりまえの生活に～」として、8ページにわたり、防災に関する特集を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 技術分野や他教科、小学校の学習内容との関連の示し方

- 巻頭のガイダンスにおいて、中学校の学習内容を空間軸からとらえ、小学校と同様に3つの分野であると示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 食品群別摂取量のめやすの例を実物大の写真とともに45例示している。また、それらを使用した1日分の食事の例と配膳図を写真で示している。
- 学習内容を補足する資料や動画が参照できる内容には「QR」マークが付してあり、二次元コードが右ページ上部に示されており、それを読みとることで、「QR」マークに対応した内容に関する動画や資料などが掲載されたウェブコンテンツに直接アクセスすることができる。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市の実態である「自然災害が多く発生していることから、災害への知識と備えが必要な地域であること」や、本市生徒の課題である「生活の中から問題を見いだして解決する力や、生活を工夫し創造しようとする態度の育成」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 開隆堂出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 巻頭のガイダンスで、2ページにわたり、「生活課題に取り組む」として、生活課題の見つけ方を最初に掲載し、取り組み方および目標達成シートの例を掲載している。また、巻末の「生活の課題と実践」で、12ページにわたり、課題設定の記述欄、学習の進め方、取り組み方の例、実践例を10例とまとめ方の例を掲載している。さらに、実践例は調査や実習だけでなく、実験を中心とした取組例も含まれている。
- ・ 調理手順中に複数の「Q」を示し、調理手順の下部に「調理方法 Q&A」としてまとめ、「なぜ～？」と考えさせる示し方で調理のポイントを解説している。
- ・ 「わたしたちの防災～防災があたりまえの生活に～」として、8ページにわたり、防災に関する特集としてハザードマップなどを掲載しており、災害時の備えについて具体的に考えることができるようになっている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 巻頭の Warm up の「家庭分野の学習の進め方」で、2ページにわたり、「よりよい生活をつくる-問題を解決する道筋-」として、問題解決的な学習の流れを掲載している。また、巻末の「選択 生活の課題と実践」で、11ページにわたり、学習の進め方および実践例を6例とそのまとめ方の例を掲載している。
- ・ 調理手順の中に「ポイント」として、調理のポイントを解説している。
- ・ 「災害に備える」として、2ページにわたり、防災に関する特集を掲載しており、災害時の備えについて考えることができるようになっている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔外国語〕 種目〔英語〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [外国語科] 種目 [英語]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、国際平和文化都市であり、外国から多くの人々が平和記念公園や原爆ドーム等を訪れる地域である。令和3年度に改定した広島市教育大綱に示す「自分の言葉で世界に平和を語れるなど、グローバル化に対応した人材の育成」を目指し、英語授業の充実、英語を使う場の多様化、学習支援の3つの柱において実践研究を進めるとともに、全中学校区に設置している小・中連携教育研究会の「英語研究チーム」において、円滑な接続ができるよう協議等を行いながら、小・中7年間を通して児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図っている。
- 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果から、本市の生徒の実態として、「読むこと」については、短い文章の中で、情報を正確に読み取ることが定着している一方、「聞くこと」については、文における基本的なイントネーションや区切りなどの音声の特徴を踏まえて、情報を正確に聞き取ることにも課題がある。また、「話すこと」及び「書くこと」については、自分の考えとその理由などを適切に表現している生徒の割合が低く、語順の誤りなど、正確に表現することにも課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫 ② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫 ④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑦ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、第1学年ではアクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。
- 英語の語順について、「Grammar for Communication」に、文の構成要素を色と形で分けて示している。また、巻末付録として「語順カード」を収録している。
- 基本文のまとめは、各学年の資料編の「Key Sentences」に英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文も英語で示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Real Life English」で、各学年1～3回設定するとともに、第1学年では、「Sounds and Letters」を5回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「カナダのバンクーバーの生徒に日本の郷土や文化になどについて説明する」や「日本にホームステイに来る留学生に日本の習慣やマナーの紹介しよう」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ 「目的・場面・状況」：国際交流の授業で、カナダのバンクーバーの生徒から、ビデオレターが届きました。相手が知りたい情報を確認しましょう。
- ・ また、デジタルコンテンツの「ビデオレター」にアクセスできる二次元コードを付している。

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年に設定されている「Stage Activity」で、情報を整理し考えを形成するための「マッピング」やキーワードをまとめる表を示している。また、デジタルコンテンツの「思考ツール」にアクセスできる二次元コードを付している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の目標を「GOAL」に「～することができる」の形で、単元の最後の活動である「Unit Activity」を「～しよう」の形で各単元の扉にそれぞれ日本語で並べて示している。また、単元の終末に、目標に対応した「CHECK」を設定し、4段階で達成度を確認できるようになっている。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「GOAL」：過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。
- ・ 「Unit Activity」：「冬休みの出来事を伝え合おう」

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第1学年の資料編に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを12例示している。
- 第3学年のLet's read 1「A mother's lullaby」で、原爆やオバマ大統領の広島訪問について扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の「Unit 0～4」に、小学校で習った表現について、「聞く・読む・話す（やり取り）・書く」活動を扱っている。
- 第2・3学年の巻頭「Unit 0」に、前学年の復習ページを設定している。また、「NEW HORIZON 用例辞典」にアクセスできる二次元コードを付している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「世界遺産の価値」等を題材として扱うとともに、特設ページの「Learning... in English」に、「世界に広がる日本語」や「食物連鎖」等を関連する教科名を付して題材として扱っている。また、第3学年の資料編の「Unit Activity Plus」に「エンカルな商品をPRしよう」等を掲載している。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「国際支援・水問題」や「SDGsの目標について」などを扱うとともに、第3学年の表見返しに、SDGsのロゴマークを付している。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元の扉やパートごと等に、「語句クイズ」、各単元の「Preview アニメ」、「学び方コーナー（解説動画）」等のデジタルコンテンツへアクセスできる二次元コードを付している。
- 「資料編」として、「Word List」等、各学年7～10の資料を掲載している。また、「付録」として、表現活動の参考となる「語順カード」や「Small Talk 即興で伝え合おう」を収録している。

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、全学年ともアクセントとともに示している。
- 英語の語順について、「Get Ready」に、文の構成要素を色で分けて示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Power-Up」で、各学年2～4回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「パラスポーツについて知ろう」や「飛行機のアナウンスを聞こう」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ (扉)：パラスポーツについて知ろう

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年で設定されている「Our Project」で、情報を整理し考えを形成するための「マッピング」やキーワードをまとめる表や図を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の目標を「Goals」に、単元の最後の活動である「Action」に、「～する」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、「Action」に対応した「できたかな？GOAL」を設定し、3段階で達成度を確認できるようになっている。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「Scenes」：過去にしたことを伝える。
- ・ 「Part 1,2,3」、「Review & Retell」：美樹のフィンランド旅行の様子を理解し、伝える。
- ・ 「Action」：自分がしたことを伝える。

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第2学年のPROGRAM 8「A Hope for Lasting Peace」で、原爆の子の像や佐々木禎子さんについて扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の巻頭「Get Ready」に、小学校で習った表現について「聞く・読む・話す(やり取り)・書く」活動を扱っている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「ユニークな動物」等を題材として扱うとともに、特設ページの「Coffee Break」に、「色を使った英語表現」や「世界自然遺産」等を題材として扱っている。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「レストランにSDGsの取り組みを提案しよう」や「Malala's Voice for the Future」などを扱うとともに、目次や各単元の扉に、SDGsのロゴマークを付している。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元の扉やパートごとに、音声などへアクセスできる二次元コードを付している。
- 「巻末資料」として、「単語と熟語」等、各学年6～12の資料を掲載している。その中で、表現活動の参考となる「Word Web」や「Small Talk 表現集」を収録している。

1 知識及び技能の習得**視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫**

- 新出単語は、第1学年ではアクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。
- 英語の語順について、「Language Focus 1」に示している。
- 基本文のまとめは、各学年の資料の「基本文のまとめ」に英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文も英語で示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Take Action!」で、各学年5回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成**視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫**

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「アメリカに住んでいるマークの友達におすすめの旅行プランを提案しよう」や「海外からあなたの町へ来る旅行者向けに、町や地域の魅力を伝える動画を作ろう」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ 「Setting」：アメリカに住んでいるマークの友だちが、初めて日本に来ることになりました。マークの友だちのプロフィールを読み、おすすめの旅行プランを考えて、それぞれに提案しよう。

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年で設定されている「Project」で、情報を整理し考えを形成するためのキーワードをまとめる表や図などを示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫**視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫**

- 単元の最後の活動を「Goal Activity」に「～しよう」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、「ふり返り」を設定している。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「Goal Activity」：写真を描写し、詳しい説明を付け加えて、日本の学校生活や行事を紹介するメールを書こう。

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第1学年の資料に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを35例示している。
- 第3学年のLesson 3「Cranes for Peace」で、原爆ドーム、原爆の子の像や佐々木禎子さんについて扱っている。

4 内容の構成・配列・分量**視点⑦ 単元や資料等の配列と分量**

- 第1学年の巻頭「Starter」に、小学校で習った表現について「聞く・話す（やり取り）・書く」活動を扱っている。
- 第2・3学年の巻頭「Lesson 1」に、前学年の復習ページを設定している。

5 内容の表現・表記**視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方**

- 他教科との関連において、本文に、「デザイン之力」等を題材として扱っている。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「安全できれいな水」や「平等ってなに？」などを扱っている。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元のパートごとに、「発音チェックをしよう」や「文法解説動画で確認しよう」等の音声や動画へアクセスできる二次元コードを付している。
- 「資料」として、「単語の意味」等、各学年13～14の資料を掲載している。その中で、表現活動の参考となる「いろいろな単語」や「Tips for Small Talk」を収録している。

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。
- 英語の語順について、「Grammar」に、文の構成要素を色で分けて示している。
- 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「重要構文復習リスト」に、英語と日本語で示している。また、第2・3学年は、それぞれ前学年までの基本文も英語と日本語で示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Tips for Listening」で、各学年2～3回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「魅力的な商品やサービスを考え、表現する」や「オリジナルの標識を考えて、その特徴や意味を表現する」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ 「Scene」：生活を便利にするために、どんな商品やサービスがあったら良いかを考え、商業の形で発表することになりました。

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年で設定されている「Project」で、情報を整理し考えを形成するための「Xチャート」やキーワードをまとめる表など、様々な思考ツールを示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の目標を「内容理解」と「活動」に分けて示している。「内容理解」は「～を理解する」の形で、「活動」は「～することができる」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、各目標に対応した「ふり返ろう」を設定し、4段階で達成度を自己評価できるようになっている。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「内容理解」：生徒たちが週末にしたことを理解する。
- ・ 「活動」：過去を表す形を使って表現することができる。

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第1学年の巻頭に、授業中の指示や生徒が使える表現として、クラスルームイングリッシュを20例示している。
- 第3学年のReading 2「My Prayer for Peace」で、広島に住んでいる中学生のスピーチとして、平和について扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の巻頭「Spring Board」に、小学校で習った表現について「聞く・書く」活動を扱っている。
- 第2・3学年の「Review Lesson Part」に、前学年の復習ページを設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「太陽光エネルギー等の再生可能エネルギー」や「宇宙旅行」等を題材として扱っている。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「SDGs やリサイクルについて」や「ユニバーサルデザイン」などを扱うとともに、各学年の目次に、SDGsのロゴマークを付している。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元の扉やパートごとに、「学びリンク（ウェブサイト）」として、学習の参考となる音声や動画などの資料へアクセスできる二次元コードを付している。
- 「巻末資料」として、「Word List」等、各学年8～9の資料が掲載されている。その中で、表現活動の参考となる「Think & Try 活動例」や「分野別用語集」を収録している。

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。
- 英語の語順について、巻末付録の「英語のしくみ」に、文の構成要素を色と形で分けて示している。
- 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「基本文のまとめ」に、英語で示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、第1学年では「Sounds and Letters」で、第2・3学年では「Daily Life」で、各学年2～3回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「学校生活について意見をまとめよう」や「誰もが楽しめるイベントを提案しよう」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ 「目的・場面・状況」：あなたは、海外の中学生たちと「学校生活」をテーマに意見交換をすることになりました。意見交換会に向けて、各国の中学生がウェブサイトで様々な意見を発表しています。グループで取り上げる問題を決めて話し合い、クラスの意見をまとめましょう。

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年で設定されている「You Can Do It!」で、情報を整理し考えを形成するためのキーワードをまとめる表などを示している。また、各学年の裏見返しに「思考の地図」を掲載し、様々な思考ツールを掲載している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の目標とそれに関わる技能を「～することができる」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、目標に対応した「ふり返り」を設定している。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「Read」：出来事を伝えるはがきを読み、おおまかな内容を捉えることができる。
- ・ 「Write」：出来事や気持ちが伝わるように、はがきを書くことができる。

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第3学年のUnit 3「Lessons From Hiroshima」で、ピースボランティアについて扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の巻頭「Let's Be Friends」に、小学校で習った表現について「聞く・話す（やり取り）・話す（発表）・書く」活動を扱っている。
- 第2・3学年の「Play Back the Story」に、前学年の復習ページを設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「バーチャル・サファリ・ツアー」等を題材として扱うとともに、特設ページの「World Tour」に、「世界の中学生」や「世界のワンダーについて知ろう」等を題材として扱っている。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「盲導犬」や「持続可能な社会に向けリポートしよう」などを扱っている。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元の扉やパートごとに、学習に役立つ資料へアクセスできる二次元コードを付している。
- 「巻末付録」として、「Word List」等、各学年8～9の資料が収録している。その中で、表現活動の参考となる「Active Words」や「Let's Talk」を収録している。

1 知識及び技能の習得

視点① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫

- 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。
- 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「基本文のまとめ」に、英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文を英語で示している。

視点② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫

- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Let's Listen」で、各学年3～4回設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫

- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「ALTの先生にインタビューをして、記事にまとめる」や「日本の習慣やマナーを伝えよう」等、様々なテーマを設定している。

【目的や場面、状況の示し方例】

- ・ 「Scene」:ALTのWhite先生にインタビューをして記事にまとめることになりました。

視点④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫

- 各学年で設定されている「Project」で、「Xチャート」や「マッピング」、キーワードをまとめる表などを示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 単元の目標を「INPUT」と「OUTPUT」に分けて、「～することができる」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、各目標に対応した「CHECK」を設定し、4段階で達成度を確認できるようになっている。

【単元目標等の示し方例】

- ・ 「Input」:冬休みの思い出を聞いて、話の大まかな内容を捉えることができる。
- ・ 「Output」:冬休みの思い出について、まとまりのある内容を話すことができる。

視点⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫

- 第1学年のUnit1の後に、授業中の指示として、クラスルームイングリッシュを、12例示している。
- 第3学年のUnit2「Passing Down Memories」で、被爆体験の語り部とその伝承者について扱っている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 第1学年の巻頭「Let's Start」に、小学校で習った表現について「聞く・書く」活動を扱っている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連において、本文に、「世界遺産」や「気候変動への対策」を題材として扱っている。
- 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「海洋プラスチックごみ」や「動物との共存」などを扱っている。

視点⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

- 各学年、各単元の扉やパートごとに、学習の参考になる音声や情報、資料へアクセスできる二次元コードを付している。
- 「巻末付録」として、「Word List」等、各学年7～9の資料が収録している。その中で、表現活動の参考となる「Word Box」を収録している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「文における基本的なイントネーションや区切りなどの音声の特徴を踏まえて、情報を正確に聞き取ること、自分の考えとその理由などを適切に表現すること、語順の誤りなく正確に表現すること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 英語の語順について、「Grammar for Communication」に、文の構成要素を色と形で分けて示している。また、巻末付録として、生徒自身が単語を並べて、英文を作ること、語順を意識することができるよう、「語順カード」を収録している。
- 基本文のまとめは、各学年の資料編の「Key Sentences」に英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文も英語で示している。
- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Real Life English」で、各学年1～3回設定するとともに、第1学年では、「Sounds and Letters」を5回設定している。
- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「カナダのバンクーバーの生徒に日本の郷土や文化になどについて説明する」や「日本にホームステイに来る留学生に日本の習慣やマナーの紹介しよう」等、様々なテーマを具体的に設定している。また、デジタルコンテンツの「ビデオレター」にアクセスできる二次元コードを付して、目的や場面、状況をより明確に示している。
- 各学年に設定されている「Stage Activity」で、情報を整理し考えを形成するための「マッピング」やキーワードをまとめる表を示している。また、デジタルコンテンツの「思考ツール」にアクセスできる二次元コードを付している。

意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 英語の語順について、「Grammar」に、文の構成要素を色で分けて示している。
- 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「重要構文復習リスト」に、英語と日本語で示している。また、第2・3学年は、それぞれ前学年までの基本文も英語と日本語で示している。
- 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Tips for Listening」で、各学年2～3回設定している。
- 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「魅力的な商品やサービスを考え、表現する」や「オリジナルの標識を考えて、その特徴や意味を表現する」等、様々なテーマを具体的に設定している。
- 各学年で設定されている「Project」で、情報を整理し考えを形成するための「X チャート」やキーワードをまとめる表など、様々な思考ツールを示している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔特別の教科 道徳〕 種目〔道徳〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [特別の教科 道徳] 種目 [道徳]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、「国際平和文化都市」を都市像とし、被爆者の願いや世界恒久平和を願う市民の心を基底として、人間の尊厳や生命の尊さを自覚し、自他共に大切に、正義感や公正さを重んじ、人と自然の共生する平和な社会を築いていく心を育て、自立して行動する力を養うことを教育の原点とし、広島子どもたちが、「心身ともにたくましく思いやりのある人」として、その可能性を最大限に発揮する教育を推進している。
- 本市の生徒は、令和5年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査や、学習意識等調査から、自尊意識・規範意識等が全国平均よりも高く、自分を大切にする気持ちや、規則を守ろうとする態度が身に付いていることがうかがえる。一方で、地域や社会のために何かしたいと考えることや、社会の出来事や事件などに関心を持つことについては、平均を下回り、過去数年間では減少傾向が見られる。また、平成30年12月に、「広島市いじめ防止対策推進審議会」の答申が出されたことを踏まえ、各学校において、「いじめ見逃し0（ゼロ）」を目指し取組を進める中で、いじめの認知件数は、増加後に横ばいで推移している。引き続き、いじめの未然防止に向けた取組を推進するとともに、生徒の命の大切さや思いやりなどの豊かな心をはぐくみ、当事者として道徳的な課題に主体的に対処することのできる、実効性ある力の育成に取り組む必要がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 道徳科の学び方の示し方 ② 主題名等の示し方
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 考え、議論するための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫 ⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫 ⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向 ⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方
<内容の表現・表記>	⑨ 他教科との関連の示し方 ⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭に、1年間で学ぶことを4つの視点及び内容項目ごとに一覧で示している。また、「道徳科とは」で道徳科の目的を、「道徳科の授業はこんな時間に」で授業の流れを3段階に分けて説明し、教科書の使い方を記載している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の目次で、4つの視点をマークや色分けで示している。また、各学年の巻頭「一年間で学ぶこと」で、色とマークを分けて、4つの視点・22の内容項目とともに教材名を示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直し、考えを深めることができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、「考えよう」、「見つめよう」、「ぐっと深める」等、話し合いを深める発問を示している。また、コラム「Plus」を各学年に設け、直前の教材に関する話し合いの具体的な流れを示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。
- 各学年に巻末付録として、葛藤教材等で自分の気持ちを表現する際に使用することができる「心情円」を掲載している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりに「考えよう」、「見つめよう」のコーナーを設け、発問を示している。また、自分の考えを記入する欄を複数設けている。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年に掲載し、直前の教材に関連した学習「Plus」のコーナーに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を複数、自分の考えを記入する欄とともに設定している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりに「考えよう」や、「見つめよう」の発問を示している。
- 自分の成長を感じることができるよう、各学年、年度始めの自分の気持ちと、学年の終わりの心に残っている教材や、自分の気持ちを記入する欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	7	7	14	7	35
2	7	7	14	7	35
3	7	7	14	7	35

- A：主として自分自身に関すること
- B：主として人との関わりに関すること
- C：主として集団や社会との関わりに関すること
- D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年とも、「いじめのない世界へ」という、いじめ問題を直接的に考える各教材や、コラムをひとまとまりとしてユニットを設定している。
- いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、「絵」、「物語・文章」、「漫画」を用意している。また、特に1学年において、いじめの構造の説明を取り扱うコラムを設けている。
- 今日的、現代的な課題として「防災・安全」、「多様性（ダイバーシティ）」、「伝統・文化」、「情報モラル」を題材にした教材を目次や、巻末の教材一覧表で示している。また、付録ではSDGsについて関連して考えられる教材を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 各学年、巻末の「教材一覧表」の「他教科等との関連」に、関連する教科名を示している。

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
第1学年：35/35+10、第2学年：35/35+10、第3学年：35/35+12
※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、朗読音声・ワークシート・人物紹介・デジタル心椿円・VR映像・ウェブサイトのリンク・写真・動画等がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭に「さあ、道徳を始めよう！」という題で道徳の目標を示している。また、「どうやって学ぶの？」で、道徳の授業の流れを5段階に分けて説明し、話し合いのポイントをイラストとともに掲載している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の巻頭「この教科書で学べるテーマ」で、7つのテーマに分けて示している。また、各学年とも目次で、4つの視点をマークや色分けで示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、「ひろば」のコーナーにおいて、考え話し合うことを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を複数設けている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりに「学びの道しるべ」のコーナーに、3つの発問（「教材をもとに道徳的価値について問題意識をもつ問い」、「自分ごととして、多面的・多角的に考える問い」、「自己を振り返り考えを深める問い」）を示している。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を各学年に掲載し、教材に続く「やってみよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに設定している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 学習した内容を広げることができるよう、各学年、特集ページ「ひろば」を設けている。
- 自分の成長を感じることができるよう、各学年、「この教科書で学べるテーマ」を示し、「道徳科の学びをもとに考えよう」や「学びを振り返ろう」に、学期・学年終わりの自分の気持ちを記入する欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	8	8	12	7	35
2	8	7	14	6	35
3	7	6	13	9	35

- A：主として自分自身に関すること
- B：主として人との関わりに関すること
- C：主として集団や社会との関わりに関すること
- D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年、2つの教材とコラム「ひろば」で構成された、ひとまとまりのユニット「いじめをなくそう」を設定している。
- 今日的、現代的な課題として「防災」、「情報モラル」を題材にした教材を目次で示している。巻末の教材一覧表では、関連するSDGsの目標を示している。また、世界情勢に鑑みて、「平和」についても取り上げている。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 各学年、巻末の「内容項目別教材一覧表」の「他教科等との関連」に関連する教科名を示している。

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
第1学年：35/35+3、第2学年：35/35+4、第3学年：35/35+2
※ 35教材中（+はコラム等）
- 「まなびリンク」は、教材解説・補足資料（動画・ウェブサイトのリンク等）がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年の巻頭「本書で学ぶ皆さんへ」で、教材を通して考えを深めるためのてびきを示している。また、「道徳の学習を始めよう」で、留意すべきポイントや1年間に学ぶ内容について、イラストを交えて示している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の目次で、4つの視点を表すマークの説明がある。また、各学年の巻頭で、22の内容項目を4つの視点に分類して、すべてイラストで示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の「考えよう」のコーナーにおいて、話し合いを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。また、「まなびをプラス」では、教材を読んで考えたことを、次時で活動をとおして深めることができるように設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、教材の終わりに「考えよう」のコーナーを設け、発問を示している。また、「考えよう」に示す発問とは別の立場や視点から、考えることができるような発問を「見方を変えて」のコーナーに設けている。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年1つ掲載し、教材に続く「チャレンジ」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、イラストや吹き出しとともに示し、自分の考えを記入する欄を設定している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 自分の成長を感じることができるよう、各学年「まなびの記録」に、年度始めや学年終わりの自分の気持ちや、心に残ったことやその理由を記入する欄を設け、一覧できるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	7	7	13	8	35
2	7	8	13	7	35
3	10	6	12	7	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 教材「まなびをプラス」では、前時の授業で学習した教材と、同じ内容項目について2時間連続で扱い、学習を深められるようになっている。
- 今日的、現代的な課題として「防災教育」、「情報モラル」を題材にした教材を、巻末の「この教科書が目指した姿」で示している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 各学年、巻末の「この教科書が目指した1(2、3)年生の姿」の「他教科・領域との関わり」に、関連する教科名を示している。

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
 第1学年：25/35+3、第2学年：21/35+3、第3学年：20/35+4
 ※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、朗読音声・資料・写真・動画等がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭の「道徳科での学びをはじめよう！」で目的と学び方が漫画形式で説明されている。また、学習の流れを4つのステップで示すとともに、「みんなで話し合うときに大切なこと」のポイントを示している。さらに、「ミニ教材で考えてみよう」で、道徳の時間の進め方を漫画で示している。
- 別冊「道徳ノート」の巻頭に、「ノートの使い方」を説明するコーナーを設けている。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の目次で、生徒に考え合わせたい内容として5つのテーマを設定し、それぞれマークで示すとともに、多様な視点から学べるように、テーマを基に複数のユニットを設定して示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、「考えてみよう」、「自分に+1（プラスワン）」等、考え話し合うことを促す発問を示している。また、各学年、「学びを深めよう」の「学びを深めるヒント」のコーナーに、図や表、付箋や思考ツール等を活用し、話し合いを深める方法を掲載している。
- 1教材1ページで構成した別冊「道徳ノート」では、考えることや考えたことを記入する欄、他者の考えや話し合いをメモすることができる自由欄を設けている。さらに、様々な教材に対応できるように、教材名や内容項目、主題名等を空白にした自由に使えるページを設けている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に複数掲載し、各教材の終わりに「考えよう」のコーナーを設け、発問を示すとともに、自分の考えを記入するページを別冊「道徳ノート」に設けている。また、学習を深めることができるように、教材の終わりに「学びを深めよう」のページを設けている。
- 「学びを深めよう」のページでは、教材名の下に、話し合いを通して何について考えるのかを示している。また、教材に関連した資料や話し合いを深める方法を「学びを深めるヒント」のコーナーに掲載している。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年に掲載し、教材に続く「学びを深めよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、写真やイラスト等とともに示しており、別冊「道徳ノート」に自分の考えを記入するページを設けている。
- 各学年、「学びを深めよう」のページでは、教材名の下に、どのような体験を通して何を考えるのか示している。また、教材に関連した資料や演技を見るときの意見発表のときのポイント等を示した、「学びを深めるヒント」のコーナーを設けている。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりの「考えてみよう」や「自分に+1（プラスワン）」に発問を示している。
- 学習した内容を広げることができるよう、各学年、2種類のコラム「あすへのメッセージ」、「視野を広げて」を設けている。
- 自分の成長を感じることができるよう、各学年、別冊「道徳ノート」の巻末「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」に、学期ごとに心に残っている授業や、その理由、「これまで道徳科で学んだことを振り返って考えたこと」を記入する欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	7	7	14	7	35
2	6	7	14	8	35
3	7	6	15	7	35

- A：主として自分自身に関すること
- B：主として人との関わりに関すること
- C：主として集団や社会との関わりに関すること
- D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年とも「いじめと向き合う」というテーマで、各教材とコラム「視野を広げて」をユニットとして示している。また、年間で複数学習できるように、各学年2つ以上のユニットを設定している。扉ページを設け、いじめに対するメッセージを投げかけたのち、次のページから教材が始まる。
- 各学年に、いじめと向き合うためのコラムが設けられており、より内容を深められるように、「いじめって何?」、「怒りの感情と上手に付き合おう」といった、いじめ問題について考え合うための資料を掲載している。
- いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、いじめ問題を直接的、間接的に扱った多様な教材や資料等を、全学年において複数掲載している。
- 今日的、現代的な課題として「情報社会」、「自立と共生」、「環境と未来」、「安全な生活」を題材にした教材を、巻末の教材一覧で示している。個々や社会の幸せを目指すウェルビーイングを念頭にユニット化している。また、巻末でSDGsについて掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 各学年、巻末の「1(2, 3)年 内容項目別教材一覧」の「教科等との関連」に、関連する教科名を示している。

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
第1学年：35/35+10、第2学年：35/35+10、第3学年：35/35+10
※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、音声・ワークシート・動画・関連資料・外部リンク・道具箱（心情メーター・シンキングツール・フリーワークシート）等がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年の巻頭の、「道徳科で学ぶこと・考えること」で、道徳科で考えることを説明している。また、「考えを深める4つのステップ」では、道徳の授業の流れを4段階に分けて示している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の巻頭「さまざまなテーマで学ぼう」で、それぞれのテーマをマークを付して示している。また、「よりよく生きるための22の鍵」という項目で、それぞれの単元の内容項目や主題を示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりに「深めよう」を設け、話し合いを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりに「考えよう」のページがあり、発問を示している。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年に掲載し、教材の終わりに続く「深めよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに設定している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 学習した過程で思ったことや考えたことを記入できるよう、各学年、各教材に「メモ」という欄を設けている。
- 自分の成長を感じることができるよう、各学年、「学びのメモ」に日々の授業の気づきを、「学びの記録」に学期ごとの自分の気持ちを、「未来への扉」に学年終わりの自分の気持ちを記入する欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	8	7	13	7	35
2	8	7	12	8	35
3	8	7	13	7	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、「いのちの教育」を土台とし、「多様性」と「いじめ防止」の教材を連携させて掲載している。
- 内容項目「生命の尊さ」を各学年とも複数掲載し、多様性とともにいじめを生まない社会づくりについて考えるように、それぞれ教材名の右下に「いじめ防止」のマークを付して示している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 該当なし

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
 第1学年：12/35+1、第2学年：9/35、第3学年：10/35
 ※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、動画・写真・音声・関連サイト・ワークシート・思考ツール・年表等がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭の「道徳の時間は『自分を見つめ、考え、生きる』時間」で、内容項目を示している。また、道徳の授業で考える方法について、大きく3つに分けて示している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年巻頭の、『道徳科の時間』は、22のキーワードで学ぶ」という項目で、これから学習する内容項目を示している。また、「いろいろなテーマから学ぶ」で、10のテーマを示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直し考えを深めることができるように、各学年、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材「MY PLUS」を設け、考え話し合うことを促す発問を示すとともに、考えを深めるページを設けている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、教材の終わりに「自分を見つめて考える」、「考えを深める」コーナーを設け、発問を示している。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年、複数掲載し、教材の終わりに続く「MY PLUS」のコーナーに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を設定している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 自分の成長を感じることができるよう、各学年、「学習の記録」に学期ごとの自分の気持ちを、「1年間の学習の記録」に学年終わりの自分の気持ちやこれからの自分に生かしていきたいこと等を記入する欄を設けている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	8	7	12	8	35
2	8	7	12	8	35
3	8	7	12	8	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年とも『いじめ』を考える」というテーマで、ひとまとまりのユニットを設定しており、1学年は3つ、2・3学年は2つの教材を掲載している。特に1学年はコラム「Thinking (シンキング)」に、『いじめ』と向き合う」という資料が掲載されている。
- 今日的、現代的な課題として「情報モラル」、「キャリア」のユニットを構成し、目次に色枠で示している。また、巻末付録にSDGsに関する教材を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 各学年、巻末の「内容一覧 1(2、3)年」の「現代的な課題等との関わり 他教科・領域との関わり」に、関連する教科名を示している。

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
 第1学年：6/35、第2学年：13/35、第3学年：15/35
 ※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、動画・外部サイト等がまとめられている。

1 知識及び技能の習得

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭の「さまざまなテーマから考えを深めよう」では、8つのテーマで教材を示している。また、「クラスのみならず『道徳授業』を創り出そう」において、道徳の授業についてや、授業の進め方を示している。

視点② 主題名等の示し方

- 各学年の目次で、色を分けて、4つの視点とともに教材名を示している。また、「さまざまなテーマから考えを深めよう」という項目で、道徳科で学習するテーマについて、単元ごとに分けて示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 考え、議論するための工夫

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各視点に関わって考えを広げることができる四コマ漫画の扉を配置し、課題についての話し合いをするページを設けている。
- 各学年、巻末付録として、授業のテーマに合わせて選択できる26枚のウェルビーイングカードを掲載している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりの「考えよう」、「深めよう」のコーナーに発問を示している。また、その発問に対する自分の考えを記入できる「memo」の欄を設けている。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習を促す教材を、各学年、複数掲載し、教材の終わりの「考えよう」、「深めよう」のコーナー等に、発問を示している。

視点⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりの「考えよう」や「深めよう」に、発問を示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向

- 各内容項目の数

学年	A	B	C	D	計
1	8	7	13	6	34
2	7	6	15	6	34
3	9	7	14	4	34

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年「いじめ・人権」というテーマで教材を掲載しており、「いじめ問題と向き合う」の教材では、質問形式で、なぜいじめはなくなるのかを考えさせるページを設けている。
- 今日的、現代的な課題として「情報」、「国際」、「キャリア形成」、「環境」、「SDGs」等をテーマとしてまとめて示している。

5 内容の表現・表記

視点⑨ 他教科との関連の示し方

- 該当なし

視点⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。
 第1学年：18/35、第2学年：20/35、第3学年：12/35
 ※ 35教材中（+はコラム等）
- デジタルコンテンツには、動画・画像・音声・外部リンク等がまとめられている。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「いじめの未然防止に向けた取組を引き続き推進するとともに、生徒の命の大切さや思いやりなどの豊かな心をはぐくみ、当事者として道徳的な課題に主体的に対処することのできる、実効性ある力を育成する」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直し、考えを深めることができるように、「考えてみよう」、「自分に+1 (プラスワン)」等、考え話し合うことを促す発問を示している。また、各学年、「学びを深めよう」の「学びを深めるヒント」のコーナーに、図や表、付箋や思考ツール等を活用し、話し合いを深める方法を掲載している。
- 1教材1ページで構成した別冊「道徳ノート」では、授業で考えることや、考えたことを記入する欄、他者の考えや話し合いをメモすることができる自由欄等を設けている。さらに、様々な教材に対応できるよう、教材名や内容項目、主題名等を空白にした自由に使えるページを設けている。
- 「いじめと向き合う」というテーマで、各教材とコラムをユニット化し、年間で複数学習できるよう、各学年2つ以上のユニットを設定している。それぞれに扉ページを設け、いじめに対するメッセージを投げかけたのち、次のページから教材が始まる。さらに、いじめと向き合うための「視野を広げて」というコラムが設けられており、より内容を深められるように、コラムの中に、「いじめって何?」「怒りの感情と上手に付き合おう」といった、いじめについて考え合うための資料を、生徒の発達段階に応じて全学年に掲載している。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直し、考えを深めることができるように、「考えよう」、「見つめよう」、「ぐっと深める」等、話し合いを深める発問を示している。
- 各学年に巻末付録として、葛藤教材等で自分の気持ちを表現する際に使用することができる「心情円」を掲載している。
- 各学年とも、「いじめのない世界へ」というテーマで、いじめ問題を直接的に考える教材をユニット化して設定している。また、特に1学年において、「いじめの構造」の資料をコラムに示している。